

Agilent EEsof EDA
Advanced Design System
ADS 2004A (Rev.501)
アップデート/インストール手順書
for Windows® 2000 / XP

(注意) この手順書はシステム・マネージャ向けに書いてあります。一通りお読みいただき、内容を十分ご理解された後、作業を始めてください。

また、このマニュアルは、**Advanced Design System 2004A (Rev.501)**を元に書かれています。

この手順書には、Advanced Design System (ADS) 2004Aを Windows® PC にインストールする手順が書いてあります。詳細については以下の冊子をご覧ください。

Agilent ADS 2004A
Installation on PC Systems
Part No.E8900-90524

新製品、不具合情報はホームページでご覧いただけます。

<http://www.agilent.com/find/eesof-support-japan>

2004年12月 7日 作成
アジレント・テクノロジー株式会社
電子計測本部 ソリューション・ビジネス営業部
EDA テクニカルサポート課 発行

EDAテクニカルサポートの電話番号・FAX 番号・
E-Mail アドレスを再度ご確認ください

名 称	: EDAテクニカルサポート
〒192-8510 東京都八王子市高倉町 9-1 アジレント・テクノロジー株式会社 八王子本社 MS C3-1-6	
電話番号	: 0120- 560- 119
FAX 番号	: 0120- 890- 119
E - Mail	æesof - japan_support@agilent.com

なお、EDAテクニカルサポートにご質問をいただく場合は、必ずお客さまのシステムハンドル番号を受付にお伝えください。また、EDAテクニカルサポートでは、OS (HP-UX, Solaris, Windows) に関するご質問は承っておりませんので予めご了承ください。

EDAテクニカルサポートへご質問の FAX を送信する場合は、本手順書の 9 - 2 節 「EDAテクニカルサポート サポート依頼 FAX シート」をご利用いただくと便利です。

次の問題確認項目を参考にさせていただくとより早いご回答が期待できます

- (1) 何をしようとしていましたか。
- (2) どうなるはずだ、またはどうなって欲しいと考えていますか。
- (3) 何が起きていますか。
- (4) どんなエラー・メッセージ、エラー番号が出ていますか。
そのエラー・メッセージはOS側ですか、それともソフトウェア側ですか。
そのエラー・メッセージはどこに表示されていますか。
データベースで検索するため、エラー・メッセージは正確にお知らせください。
- (5) この問題はいつから発生していますか。
- (6) この問題はときどき発生しますか、または必ず発生しますか。
- (7) ときどき発生する場合は、どんな時に発生しますか。
- (8) 今まで正常に動作していましたが、または今回が初めてのご使用ですか。
- (9) 問題発生前に、何か変更なさいましたか。(ハードウェア、ソフトウェア、設定等)
- (10) すでに何かの問題解決の手を打たれましたか。その結果はどうでしたか。

Agilent EEsof EDA

Advanced Design System

ADS 2004A (Rev.501)

アップデート/インストール手順書

for Windows® 2000 / XP

2004年 12月 7日 作成
アジレント・テクノロジー株式会社
電子計測本部 ソリューション・ビジネス営業部
EDA テクニカルサポート課 発行

Mentor Graphicsは、Mentor Graphics Corporationの商標です。
Microsoft®、Windows®、MS Windows®、Windows NT®、MS-DOS®は、Microsoft Corporation
の登録商標です。
Pentium®は、Intel Corporationの登録商標です。
PostScript®、Acrobat®は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
UNIX®は、Open Groupの登録商標です。
Java™は、Sun Microsystems Inc.の登録商標です。

その他、会社名、製品名は各社の商標および登録商標です。

目次

1章 トピックスと手順の概要	1
1 - 1 トピックス.....	1
1 - 2 ADS 2004A の重要な注意事項.....	2
1 - 3 インストール/アップデートの流れ.....	5
1 - 4 このマニュアルの見方.....	6
1 - 5 用語説明.....	8
2章 インストール前の準備	9
2 - 1 梱包物の確認.....	9
2 - 2 必要なハードウェア/ソフトウェア.....	10
2 - 3 ハードウェア・スペックの確認.....	11
2 - 4 Early Access 版 ADS 2004A についてのご注意.....	14
3章 インストールの実施	15
3 - 1 概要とアップデートの注意.....	15
3 - 2 インストール方法の選択.....	16
3 - 3 セットアップの起動.....	19
3 - 4 インストール作業.....	27
3 - 5 ネットワーク・インストール.....	39
3 - 6 セットアップの終了.....	49
3 - 7 参考；後から一部のファイル・セットをインストールする方法.....	50
3 - 8 参考；アンインストールの方法.....	51
3 - 9 参考；ファイル・サーバからのインストール.....	53
3 - 10 参考；サイレント・インストール.....	54
4章 ライセンスの設定	56
4 - 1 概要.....	56
4 - 2 FLEXlm の概念.....	58
4 - 3 セットアップの手順.....	61
4 - 4 FLEXid ドライバのインストール.....	62
4 - 5 ハードウェア・キーの接続と確認.....	64
4 - 6 ライセンス・ファイルの作成と設置.....	68
4 - 7 環境変数の設定/確認.....	74
4 - 8 ライセンス・デーモン(lmgrd)とは？.....	78
4 - 9 lmgrd の起動および停止の方法.....	80
4 - 10 lmgrd の自動起動.....	84
4 - 11 ライセンス・クライアントの設定.....	91
4 - 12 UNIXライセンス・サーバの利用.....	92
4 - 13 ライセンスを追加・結合する方法.....	94
4 - 14 付録；FLEXlm でよくあるご質問とその回答(FAQ).....	98
5章 プリンタの設定	111
5 - 1 プリンタの設定.....	111

6章 GPIBインターフェースの設定	113
6 - 1 サポートしている GPIB(HP-IB) インターフェース	113
6 - 2 GPIBインターフェースのインストール.....	114
6 - 3 測定セットアップ (Instrument Server の設定).....	116
7章 動作確認	117
7 - 1 ユーザ設定の確認.....	117
7 - 2 アプリケーションの起動.....	120
7 - 3 ADS 2004A が起動しない時.....	122
7 - 4 サンプル・ファイルによる動作確認.....	124
8章 付録	131
8 - 1 ファイル・システムの共有.....	131
8 - 2 TCP/IP、IPX/SPXプロトコルのインストール.....	133
8 - 3 複数個の lmgrd を自動起動する方法.....	136
8 - 4 複数のバージョンの ADS を使用する方法.....	140
8 - 5 起動時の作業フォルダの設定を変更する方法.....	144
8 - 6 プロセスの停止.....	146
8 - 7 デバッグ・モードでの起動方法.....	147
8 - 8 FLEXlm コーティリテイ.....	148
8 - 9 リモート・シミュレーションの設定.....	162
8 - 10 ADS 2004A 製品-コードワード対応.....	173
8 - 11 参考; FLEXlm ライセンス発行の仕組み (lmgrd, agileesofdの動作).....	178
8 - 12 インターネット (WWW) を利用した情報提供のお知らせ.....	180
9章 コードワード発行依頼とEDAテクニカルサポートのご利用案内	181
9 - 1 コードワード発行依頼の方法.....	181
9 - 2 EDAテクニカルサポート サポート依頼 FAX シートの使い方.....	184
9 - 3 EDAテクニカルサポートを有効にご利用いただくために.....	185

1章 トピックスと手順の概要

1 - 1 トピックス

Advanced Design System (ADS) 2004Aでは、下記のような機能改善・追加が図られています。

操作性の向上と、Tuning機能の改善

- ・リアルタイム Tuningと、新しいGUI
- ・Tuning結果表示の高速化
- ・新しい Greetingダイアログ・ボックス
- ・新しい Schematic Wizard - 平易なサブ回路、または、テスト・ベンチ作成

レイアウト機能の改善

- ・Layer Selectionウィンドウ - レイヤー情報の表示・設定
- ・Layer Bindingによる接続性設定 - ピンの無いヴィアについてもバインド可能
- ・接続性の確認 - 接続されている全レイヤーの配線情報をハイライト表示
- ・任意形状のポリゴンによる接続が可能
- ・Edge Pin / Area Pin 設定
- ・レイアウト確認機能の改善

RFシステム・バジェット解析機能

シミュレーション・エンジンの改善

- ・TAHB (Transient-Assisted Harmonic Balance) の自動化
- ・位相雑音解析の改善
- ・発振器解析で Krylovソルバを使用可能

Wireless Test Bench - 豊富な無線システム用テスト機能

Momentumの改善

- ・導体厚みのモデリングが可能

UWB Design Guideのマルチ・バンドOFDM対応

自己発熱効果を組み込んだ Agilent HBTモデル

新しい AmplifierP2D増幅器モデル - 温度やバイアス条件を持たせたビヘイビア・モデル

E8827A Advanced Communication Model Set - WLAN/WMAN/UWB-OFDM用 Ptolemyモデル

その他の改善

- ・Red Hat Linux 7.2 / 7.3 / 8 の ADS全機能サポート
- ・SIアプリケーション向け IBISモデル・ユーティリティ
- ・新しい Mixer2モデル

その他、ADS 2004A での変更等の詳細につきましては、下記の WEB サイトをご覧ください。

ADS 2004A What ' s New (日本語版)

<http://eesof.tm.agilent.com/products/ads2004aj.html>

1 - 2 ADS 2004A の重要な注意事項

(1) サポートが廃止されたプラットフォーム

ADS 2004A では、下記プラットフォームのサポートが廃止されています。

Sun Solaris 7
Microsoft® Windows NTR 4.0-SP6a

これらのオペレーティング・システムでは、ADS 2004A のインストールと実行、および FLEXlm のライセンス・サーバとしての利用は、何れもできませんのでご注意ください。

(2) 新たにサポートするプラットフォーム

ADS 2004A では、下記プラットフォームのサポートが追加されています。

Red Hat Linux 8

また、Red Hat Linux 7.2、および、7.3 に対してユーザ・インターフェースが追加され、ADS の全ての機能をご利用いただけるようになりました。

(3) ライセンスの注意事項

ADS 2004A 用のライセンスについて

FLEXlm ライセンス・マネージャのバージョンが、v8.2a から v9.2a に変更されました。
また、ライセンス・コードワードのバージョンが、v2.3 から v2.34 に変更されました。

これに伴い、ADS 2004A を実行する為に、新しいライセンス・コードワードの発行が必要になります。必ず、インストール作業を行う前に、ライセンス・コードワードの発行手配を行ってください。

ライセンス・コードワードの発行手配方法については、
9 - 1 節「コードワード発行依頼の方法」
をご参照ください。

ライセンスの互換性について

ADS 2004A のライセンス・コードワードは、一つ前の世代の ADS に対する互換性を持っております。

これにより、**ADS 2003C、および、ADS 2003A は、ADS 2004A のライセンス・コードワードでご利用いただくことができます。**ただし、ADS 2004A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルをご利用いただくことはできません。

ADS 2002C 以前のバージョンについてはサポートいたしませんので、ご注意ください。

製品 ライセンス	ADS 2004A	ADS 2003C	ADS 2003A	ADS 2002C	ADS 2002
ADS 2004A		1	1	×	×
ADS 2003C	×		2	×	×
ADS 2003A	×	3		×	×
ADS 2002C	×	×	×		4
ADS 2002	×	×	×	5	

- 注意：1 ADS 2004A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。
2 ADS 2003C で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。
3 ADS 2003C で削除された機能はご利用いただけません。
4 ADS 2002C で新規に追加された機能はご利用いただけません。
5 ADS 2002C で削除された機能はご利用いただけません。

(4) プロジェクト・ファイルの互換性

ADS 2003C 以前で作成したプロジェクト・ファイルは、ADS 2004A でもそのまま読み込んで使用することができます。ただし、**一旦 ADS 2004A で編集したプロジェクトは、以前のバージョンの ADS で読み込むことができなくなります**のでご注意ください。

ADS 2004A で以前のバージョンのプロジェクト・ファイルを開く場合は、バックアップを取ってから行なうよう、お願いいたします。

(5) ADS 2004A Early Access版をご利用いただいていたお客様へ

ADS 2004A の正式リリースに伴い、**ADS 2004A Early Access 版の評価試用期間は終了**しております。

必ず、アンインストールしていただきますよう、お願いいたします。

特に、PC 版 ADS 2004A のインストール・プログラムは、**ADS 2004A Early Access 版がインストールされている状態では動作いたしません**ので、ご注意ください。

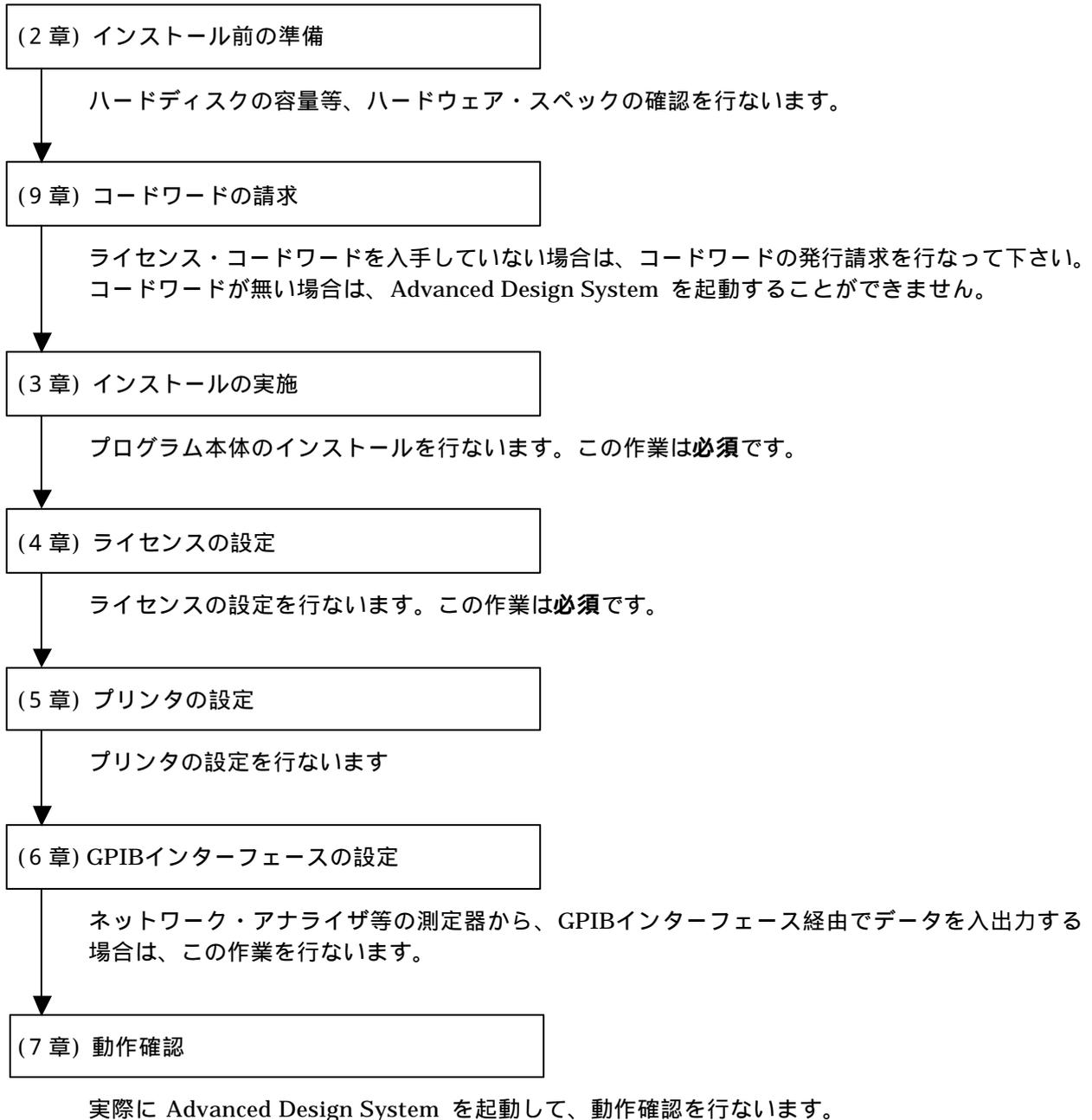
Early Access 版のライセンス・コードワードは正規ライセンスと互換性を持っておりますので、正式リリース版の ADS 2004A も動作いたします。ただし、評価用である為、有効期間は短く制限されておりますので、正式版への移行に伴い、

9 - 1 節「コードワード発行依頼の方法」

をご参照の上、ライセンス・コードワードの発行依頼を行なってください。

1 - 3 インストール/アップデートの流れ

セットアップの流れと本書の構成の関係を下図に表します。Advanced Design System をインストールして、使用できるようになるまでには、基本的に以下の作業が必要になります。



1 - 4 このマニュアルの見方

このマニュアルで使われている表現・用語について解説します。

(1) 動作

■ クリックする

マウスの左ボタンを、一回押すことを示します。

■ ダブル・クリックする

マウスの左ボタンを、二回すばやく押すことを示します。

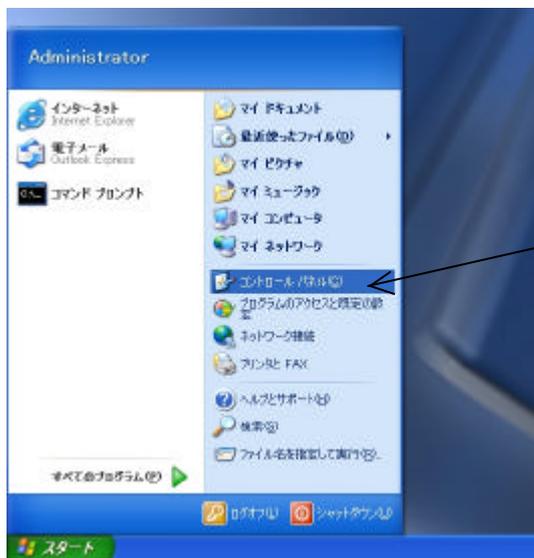
■ 選択する

目的の場所にカーソルを合わせて、マウスの左ボタンを一回押すことを示します。

この場合、次のダイアログ・ボックスがすぐに現れる場合と、選んだ項目等が反転するような場合(下図)とあります。

■ [スタート] > [コントロールパネル] を選択

このような表現があった時は、以下の図の場所にマウス・カーソルを合わせて、マウスの左ボタンをクリックします。



この場所にマウス・ポインタを合わせます。

(2) 各部名称

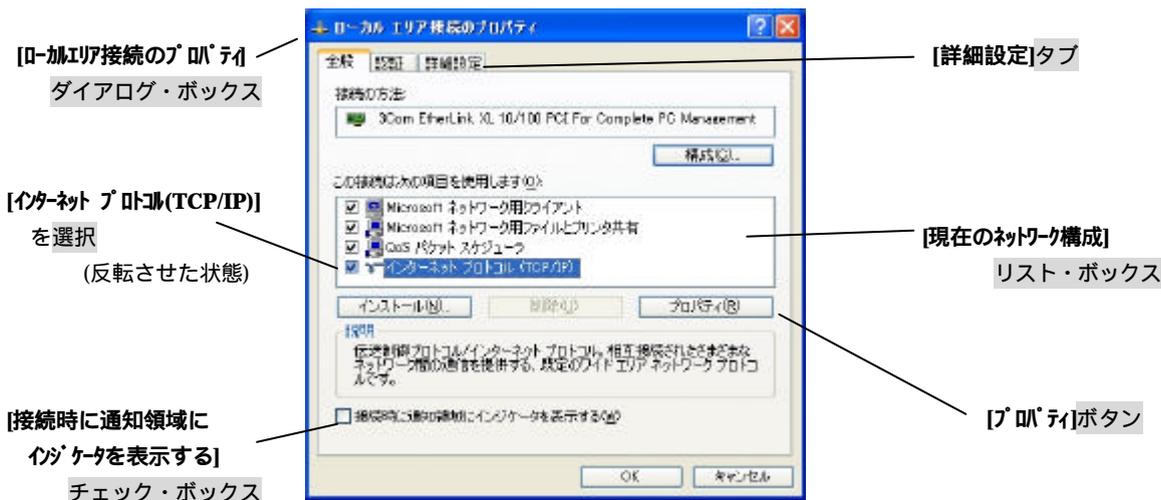
■ [スタート]ボタン

Windows® 2000 / XP のタスクバーの左端にある、下記のボタンを示します。



< Windows® 2000 > < Windows® XP >

■ 以下の図で、ダイアログ・ボックス関係の各部の名称を示します。



(3) ドライブ、ディレクトリの指定

■ <Drive>:

目的とするドライブ名を示します。

例えば、ハードディスク、CD-ROMドライブがそれぞれ一台ずつ接続されたコンピュータの場合、それぞれのドライブ名は以下のようになります。

	<Drive>:
ハードディスク	C:
CD-ROMドライブ	D:

■ <Installation directory>

ADS 2004A のインストールされているディレクトリを示します。

初期設定は“C:¥ADS2004A”ディレクトリです。

インストール時に任意のディレクトリを指定した場合、そのディレクトリになります。

1 - 5 用語説明

- TCP/IP (Transmission Control Protocol / Internet Protocol)
インターネットで用いられているネットワーク・プロトコル。
事実上のネットワーク標準プロトコルである。
- DNS (Domain Name Service)
ネットワークのアドレス、ホスト名等を管理するもの。
ホスト名からIPアドレスへの変換等に用いられる。
- DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)
DHCPサーバのあるネットワーク環境では、DHCPサーバがネットワーク内のコンピュータに動的にIPアドレスを指定する。個々のクライアント・コンピュータでは IPアドレスの設定をする必要が無い。
- IRQ (Interrupt ReQuest)
ディスク、ネットワーク・カード、サウンド・カード等の周辺機器が、CPU に対してデータの送受信の準備ができたことを知らせる割り込み番号。
通常、各々の周辺機器に異なったIRQ番号を割り当てなければならない。
- DMA (Direct Memory Access)
CPUを介さないデータ転送。
専用のハードウェアが制御するのでCPUへの負荷が小さく、転送速度が速くなる。

2章 インストール前の準備

2 - 1 梱包物の確認

(1) 付属 CD-ROM

ADS 2004A の製品パッケージ(アップデート・メディア・キット)には、計 7枚の CD-ROM が同梱されています。7枚とも揃っているか、最初に必ず確認してください。また、CD-ROM の内容は以下のようになっています。

パーツ番号	タイトル	内容
E8900-10231	Advanced Design System Release 2004A Agilent EEsof EDA UNIX Disk 2	UNIX用の2枚目 (UNIX OS 共通)
E8900-10232	Advanced Design System Release 2004A Agilent EEsof EDA Solaris 8/9 Program Disk	Solaris用の1枚目
E8900-10235	Advanced Design System Release 2004A Agilent EEsof EDA HP-UX 11.0/11.11 Program Disk	HP-UX用の1枚目
E8900-10236	Advanced Design System Release 2004A Agilent EEsof EDA Red Hat Linux 7.2/7.3/8	Red Hat Linux用の 1枚目
E8900-10233	Advanced Design System Release 2004A Agilent EEsof EDA PC Setup Program Disk 1 Windows® 2000,Windows® XP	PC用の1枚目
E8900-10234	Advanced Design System Release 2004A Agilent EEsof EDA PC Setup Program Disk 2 Windows® 2000,Windows® XP	PC用の2枚目
E8900-10237	Connection Manager Release 2004A Agilent EEsof EDA Server Application PC Program Disk Windows® 2000,Windows® XP	Connection Manager Serverインストール用

(2) 付属冊子

ADS 2004A製品パッケージには、以下の計2冊の冊子が付属しています。

- Installation on PC Systems (P/N:E8900-90524)
- Installation on UNIX and Linux Systems (P/N:E8900-90523)

これらの付属物は、製品(パッケージ)の出荷時期によって予告無く変更される場合がありますのでご注意ください。不明な点等ございましたら、弊社窓口までお問い合わせ下さい。

2 - 2 必要なハードウェア/ソフトウェア

ADS 2004A は、下記のマイクロソフト社製 オペレーティング・システムと、そのサービス・パックに対応しております。これ以外のバージョンについては、動作を保証いたしません。

Windows® 2000 Professional-SP4 , Windows® XP Professional-SP1

重要 ADS 2004A は、**Microsoft Windows NT® 4.0-SP6a については非対応となっております。**

現在 Microsoft Windows NT® 4.0-SP6a 環境で ADS をご利用いただいているお客様は、OS のバージョン・アップ、または、プラットフォーム変更をご検討ください。

Microsoft Windows NT® 4.0-SP6a を FLEXlm ライセンス・マネージャのサーバ環境の OS としてご利用いただくこともできませんので、ご注意ください。

ADS 2004A のシステム要件を以下に記します。

CPU	推奨 Intel Pentium 700MHz 以上
ディスプレイ	High-resolution color only 推奨 解像度 1024x768以上の 17インチ・ディスプレイ
RAM	推奨最小容量 512MB。メモリの追加により、性能が向上する場合があります。
仮想メモリ	推奨最小容量 300MB。解析対象の回路規模によっては、追加が必要となる場合があります。
ハードディスク	ADS 2004A のインストールに必要なディスク領域は、下記の通りです。 ・最小インストール 613MB ・標準インストール 2.15GB ・完全インストール 2.52GB
Webブラウザ	オンライン・ドキュメントの閲覧に必要。 推奨ブラウザは Internet Explorer version 5.5以降です。 Java Virtual Machine および、JavaScriptが有効になっている必要があります。
セキュリティ・デバイス	Macrovision社製 FLEXid Hardware Security Keyに対応。(パラレル・ポート、もしくはUSBポート接続)
プリンタ/プロッタ	OSがサポートするプリンタ/プロッタ (ただし、HP LaserJet 3100 は、ハードウェア・キーと競合が起こり、使用できない場合があります)
インストール・メディア	CD-ROM (CD-ROMドライブが必要です)
C/C++ コンパイラ (カスタム・モデル開発を行なう場合のみ)	C/C++: Microsoft Visual C++ Professional Edition, Version 6, Service Pack 5
HDLシミュレータ (HDL cosimulation 実行時のみ)	・ Mentor Graphics ModelSim SW 5.8d ・ Cadence VerilogXL LDV 3.3 [3.30.p001] ・ Cadence NCSim LDV 5.1 [05.10-s013] (HdlSimulatorGUI=ON 設定は無効です)

2 - 3 ハードウェア・スペックの確認

(1) メモリ (RAM) の確認

最低 512MB のメモリが必要です。快適に作業をするためには、より多くのメモリを用意する必要があります。メモリのサイズは、通常コンピュータが起動する時に画面に表示されます。

コンピュータを再起動させずにメモリのサイズを調べるには、デスクトップ上の「**マイ コンピュータ**」アイコン (Windows® XP の場合は、**[スタート]** > **[マイ コンピュータ]**) を開き、メニューから、**[ヘルプ]** > **[パフォーマンス情報]** を選択すると、**[Windows が使用できる物理メモリ]** 欄に搭載メモリ量がキロバイト単位で表示されます。



< Windows® XP の表示例 >

(2) ハードディスクの空き領域の確認

必要となるハードディスクの空き容量は、フル・インストールの場合で、約 3.0GB 程度になります。ハードディスクはインストールするファイル・セットの容量分以外にも、仮想メモリの分として、最低 400MB は必要となります。

通常はフル・インストールを推奨いたしますが、ディスクのフリー・エリアが少ない場合等は、インストール・プログラムで Custom Installation を選択してください。コンポーネントの選択時に必要なディスク容量が表示されますので、それを参考にしながら必要最小限のコンポーネントをインストールするようにしてください。

コンピュータを再起動せずにハードディスクの容量を調べるには「**マイ コンピュータ**」のアイコン (Windows® XP の場合は、**[スタート]** > **[マイ コンピュータ]**) を開き、**[表示]** > **[詳細]** メニューを選択すると、**[空き領域]** の項目が見えますのでこちらでご確認ください。



< Windows® XP の表示例 >

(3) OS のバージョンの確認

現在使用している OS のバージョンを確認する方法です。

デスクトップ上の「マイコンピュータ」のアイコン (Windows® XP の場合は、[スタート] > [マイコンピュータ]) を開き、メニューから、[ヘルプ] > [バージョン情報] を選択すると、確認できます。



< Windows® XPの表示例 >

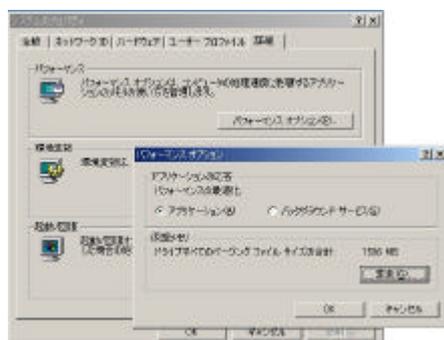
(4) 仮想メモリの確認

ADS 2004A では、最低 300Mbyte の仮想メモリが必要となります。また、回路の規模によっては、それ以上の仮想メモリを必要とする場合もありますので、ご注意ください。仮想メモリは最大に設定しても、ハードディスクの残り容量分までしか確保できません。

現在の仮想メモリの大きさを確認するには、下記の操作を行なってください。

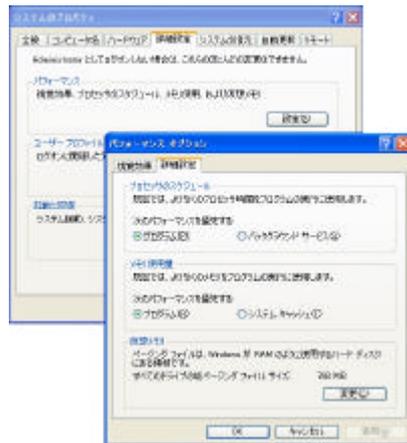
■ Windows® 2000

1. [コントロール パネル] の [システム] アイコンをダブル・クリックして [システムのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます
2. [詳細] タブを選択し、[パフォーマンス オプション] ボタンをクリックします。
3. [パフォーマンス オプション] ダイアログ・ボックスが開き、[仮想メモリ] の項目に現在の仮想メモリの大きさが表示されています。
4. 変更が必要な場合は、[変更] ボタンをクリックして、[初期サイズ] のフィールドに、新しい仮想メモリのサイズを入力した後、[設定] ボタンをクリックします。



■ Windows® XP

1. [スタート] > [コントロール パネル] の [パフォーマンスとメンテナンス] を開き、[システム] アイコンをクリックして、[システムのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。
2. [詳細設定] タブを選択し、[パフォーマンス] 欄の [設定] ボタンをクリックします。
3. [パフォーマンス オプション] ダイアログ・ボックスが開き、[詳細設定] タブを選択すると、[仮想メモリの] [全てのドライブの総ページング ファイルサイズ] に現在の仮想メモリのサイズが表示されます。
4. 変更が必要な場合は、[変更] ボタンをクリックして、[初期サイズ] のフィールドに、新しい仮想メモリのサイズを入力した後、[設定] ボタンをクリックします。



どのドライブを使っても、十分な仮想メモリが確保できない場合は、不要なファイルを削除して容量を確保するか、ドライブを増設する必要があります。

仮想メモリについての詳細は、Windows® のマニュアルか、ご使用になっている OS のヘルプを参照してください。

2 - 4 Early Access 版 ADS 2004A についてのご注意

本節は、**ADS 2004Aの Early Access版を評価していただいたお客様のみ**お読みください。

ADS 2004A の正式リリースに伴い、**ADS 2004A Early Access 版の評価試用期間は終了**しております。

正式リリース版のインストール前に、必ず **Early Access 版のアンインストールを行なってください**。

Early Access 版がハードディスク上に存在している場合、ADS 2004A正式リリース版のインストール・プログラムを起動すると、下記のエラー・メッセージが表示され、作業を進めることはできません。



ADS 2004A Early Access 版のアンインストール方法は、正式リリース版と同じです。
詳細については、

3 - 8 節「参考 ; アンインストールの方法」
をご参照ください。

3章 インストールの実施

3 - 1 概要とアップデートの注意

この章では、ADS 2004A のインストール方法について解説します。
一通りお読みになり、内容をよくご理解の上、手順通りに実行してください。

インストールはインストール・プログラムを用いて行なわれます。CD-ROM からハードディスクにファイル・セットがコピーされますので、インストール前にディスクスペースが十分かどうか、もう一度ご確認ください。

また、古いバージョンの Advanced Design System をアンインストール（削除）したい場合は、各バージョンの Advanced Design System プログラム・グループの中にショートカット **[Uninstall ADS]** がありますので、これを選択すると削除を行なうことができます。

例) ADS 2003C の場合は、

[スタート] > プログラム > [Advanced Design System 2003C] > [Uninstall ADS] (Windows® 2000)
[スタート] > [すべてのプログラム] > [Advanced Design System 2003C] > [Uninstall ADS] (Windows® XP)
を選択することになります。

アンインストールの手順につきましては、
3 - 8 節「参考；アンインストールの方法」
をご参照ください。

重要 **ADSのプロジェクト (Schematic、Layout 等を含む) は上位互換です。**旧バージョンで作成したプロジェクトは、そのまま ADS 2004A でご利用いただくことができます。
ただし、一度 ADS 2004A で編集を行なったプロジェクトは、以前の ADS (2003C 以前) では開くことができません。このため、アップデートを行なう前に使用しているプロジェクトのバックアップを取っておくことを強くお勧めいたします。
また、旧バージョンの ADSも、ハードディスク容量に余裕がある場合はすぐに削除せず、ADS 2004A の移行に問題が無いことをご確認いただいた上で、アンインストールしてください。

また、ADS 2004A を起動するにはインストール後、**ライセンスの設定が必要**です。
ADS 2004A を動作させるには、新しいライセンス・コードワードが必要になります。ADS 2003C 以前のライセンスではご利用いただけません。
必ず、事前に **ADS 2004A 用ライセンス・コードワードの発行申請**を行ない、ライセンス・ファイルを入手してください。

ライセンスの仕様、設定方法については、
第4章「ライセンスの設定」
をご参照ください。

また、ADS 2004A 用ライセンス・コードワードの発行手配の方法に関しては、
9 - 1 節「コードワード発行依頼の方法」
をご参照ください。

3 - 2 インストール方法の選択

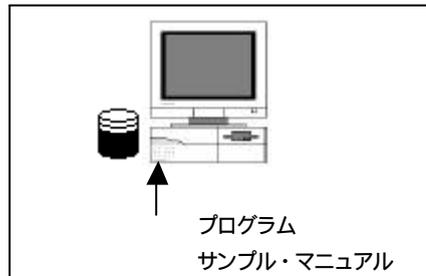
Windows®版 ADS 2004A のインストール方法には、下記の四種類の方法があります。

- ローカル・インストール
- ネットワーク・インストール（サーバ - クライアント・インストール）
- ファイル・サーバからのインストール *
- サイレント・インストール *
- * これらのインストール方法は、**正式サポート対象外**となります。

ハードディスクの空き容量に余裕が無い場合を除き、通常はローカル・インストールを行なってください。本章では、ローカル・インストールの手順を中心に説明いたします。

■ ローカル・インストール (図 A)

CD-ROM から使用するコンピュータのハードディスクに、全てのファイル・セットをコピーします。



ローカル・インストール

■ ネットワーク・インストール（サーバ - クライアント・インストール）

あるコンピュータにローカル・インストールされた ADSのリソースを用いて、ネットワークで接続されたクライアント・マシンにインストールを行なう方法です。

「ネットワーク・インストール」は二つの方法があり、ご使用になっているコンピュータの使用環境によって選択することが出来ます。

二つの方法とは、部分的ネットワーク・インストールと、完全ネットワーク・インストールです。以下の表で違いを示します。次ページに詳しい特徴を述べます。

インストール方法		サーバ	クライアント	特徴
ネットワーク・インストール	部分的	約3.0GB	約350MB	実行速度は速い。クライアントのディスク容量の節約が出来る
	完全	約3.0GB	約10MB	実行速度が遅い。クライアントのディスク使用容量が最小

注意 ネットワーク・インストールの場合、サーバ・マシンが動いており、かつサーバ・マシンの ADS 2004A のインストールされているハードディスクが、クライアント・マシンから共有接続できなければ、クライアント・マシンで ADS を起動することはできません。
また、共有ドライブを一度切断した場合は、次の時も同じドライブ名に同じ共有を復元する必要があります。

注意 ネットワーク・インストールの場合、共有するフォルダは ADS のインストール・フォルダの親(ひとつ上の階層)フォルダで共有することを推奨しています。ADS のインストール・フォルダを共有した場合には、ADSのデータ・ディスプレイ・ウィンドウの表示で問題が起こる可能性があります。

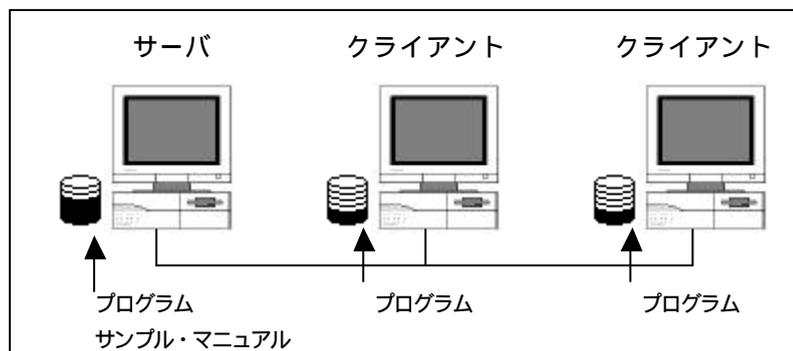
注意 ネットワーク・インストールを行なう時は、サーバ・マシンのインストールでコンポーネントを選択する時に“LAN Server files for Clients”を必ずインストールしておいて下さい。

注意 ネットワーク・サーバ/クライアント・システムは、ライセンス・サーバ/クライアント・システムとは関係ありません。

□ 部分的ネットワーク・インストール(推奨)

マニュアルとライブラリのみサーバ・マシンのものを利用し、プログラム・ファイルは全てのクライアント・マシンにインストールする方法です。

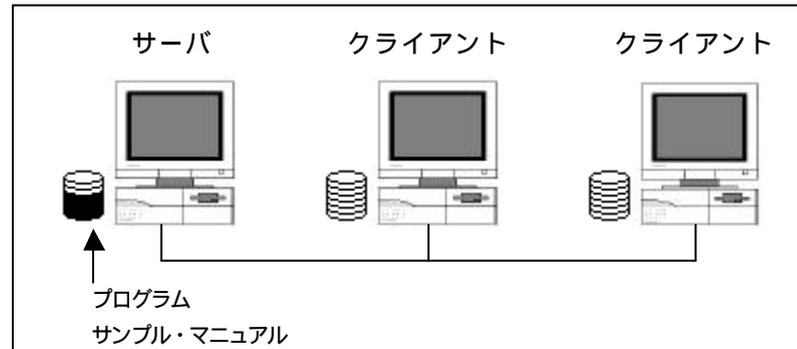
プログラム・ファイル等の頻繁に使用するファイル群は、ローカル・ディスクにインストールされています。



□ 完全ネットワーク・インストール

全てのファイル・セットをサーバ・マシン一台から利用する方法です。

この場合、ADS 2004A の処理速度が非常に遅くなってしまいますので、ディスクの容量不足でインストールができない時以外は、お勧めできません。



ネットワーク・インストールの実際の作業手順については、
3 - 5 節「ネットワーク・インストール」
をご覧ください。

■ ファイル・サーバからのインストール

ADS 2004A のインストール CD-ROMの内容を、全て大容量のハードディスクを有するサーバ・マシンにコピーして、そこからクライアント・マシンがインストール・プログラムを起動する方法です。

「ファイル・サーバからのインストール」の手順は、サーバ・マシンとの共有ドライブの設定を行なった後は、「ローカル・インストール」と同等です。

手順の詳細に関しては、

3 - 9 節「参考；ファイル・サーバからのインストール」
をご参照ください。

■ サイレント・インストール

サイレント・インストールは、非対話形式のインストールを行ないます。通常、「ファイル・サーバからのインストール」と組み合わせて使用します。

「ローカル・インストール」でユーザが入力する情報を、Microsoft's Windows Installer (MSI) の機能を用いて、予め作成しておいたレスポンス・ファイル (InstallShield silent response file) から読み込ませることにより、自動的にインストール作業を進行させることができます。

手順の詳細に関しては、

3 - 10 節「参考；サイレント・インストール」
をご参照ください。

3 - 3 セットアップの起動

(1) インストール・プログラムでの操作

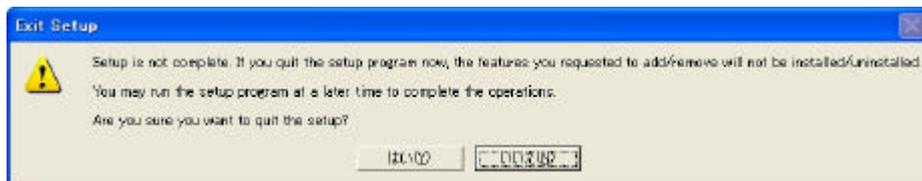
セットアップをはじめる前に、インストール・プログラムと、ダイアログ・ボックス中で行なえる共通の操作を以下に示します。



前の画面に戻る 次の画面に進む インストールの中止

■ インストールを中止するには

ダイアログ・ボックス上の **[Cancel]** ボタンをクリックしてください。[Exit Setup]ダイアログ・ボックスが現れますので、**[はい]** ボタンをクリックすると、インストールは中止されます。



■ ひとつ前のセットアップスクリーンやダイアログ・ボックスに戻るには

ダイアログ・ボックス上の **[< Back]** ボタンをクリックしてください。

■ 次のセットアップスクリーンに進むには

1. 選択を要求されている場合は、目的のボタンをクリックします。
2. ダイアログ・ボックスの **[Next >]** ボタンをクリックしてください。

(2) インストール・プログラムの起動

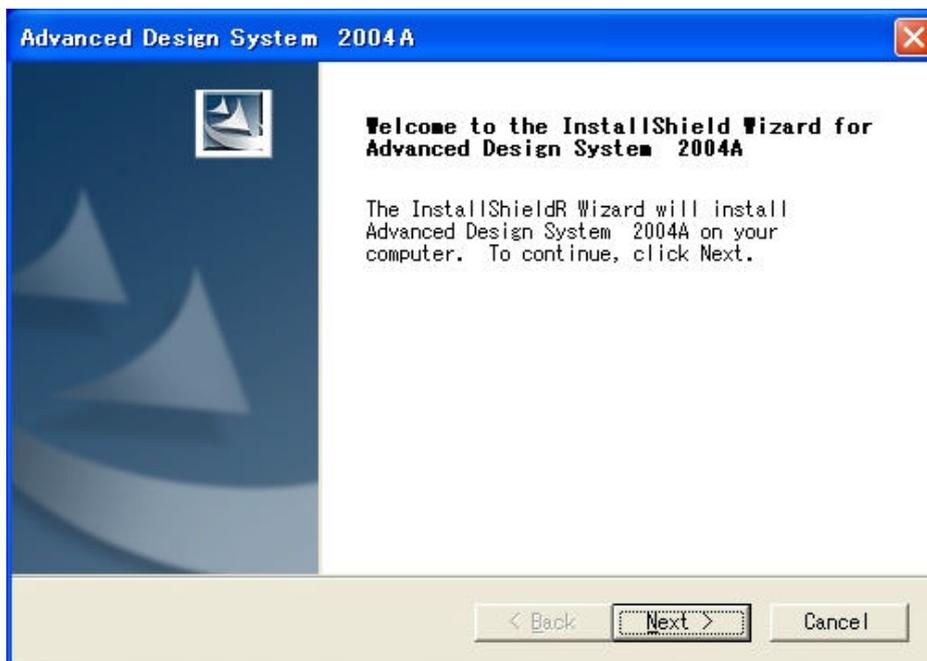
インストール・プログラムを起動します。PC 版のインストール・プログラムは、下記ラベルの CD-ROMに収録されています。

Advanced Design System Release 2004A
PC Setup Program Disk 1 Windows® 2000, Windows® XP
(Part No. E8900-10233)

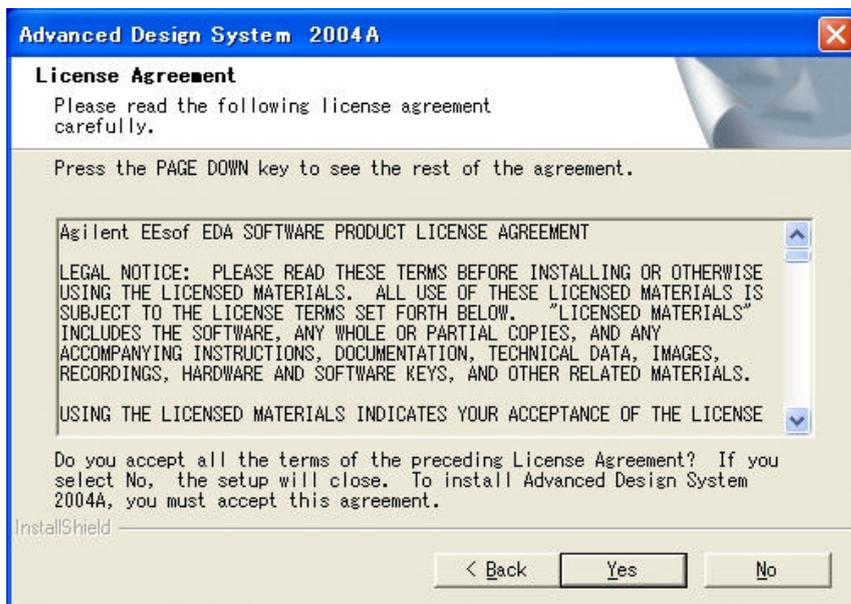
インストール・プログラムは、CD-ROM をドライブに挿入すると自動的に起動するようになっています。

オートラン機能を停止している等の理由で自動的に起動しない場合は、CD-ROM ドライブのルート・ディレクトリにある“**setup.exe**”を実行することによって起動できます。次の説明は起動方法の一例です。インストール・プログラムの起動はどのような方法で行なっても構いません。

1. コンピュータ上で動作しているアプリケーションプログラムを全て終了させます。
2. ADS 2004A PC Setup Program Disk 1 (P/N E8900-10233) を CD-ROM ドライブに挿入します。しばらくすると、インストール・プログラムが自動的に起動しますので、5.の手順に進みます。
自動的に起動しない場合は、以下の 3. 4. の手順で起動させます。
3. インストール・プログラムを起動します。ここでは、ファイル名を指定して実行を行いません。スタートボタンから、**[スタート] > [ファイル名を指定して実行]** を選択します。
4. インストール・プログラム名を入力します。CD-ROM のドライブ名が“D:”の時は、“**D:¥setup.exe**”と入力します。
5. [Welcome] ダイアログ・ボックスが現れますので、**[NEXT >]** をクリックして先に進みます。



(3) ライセンス使用許諾の確認



[License Agreement] ダイアログ・ボックスが現れます。必ずよく読み、同意できる場合のみ **[Yes]** をクリックしてください。

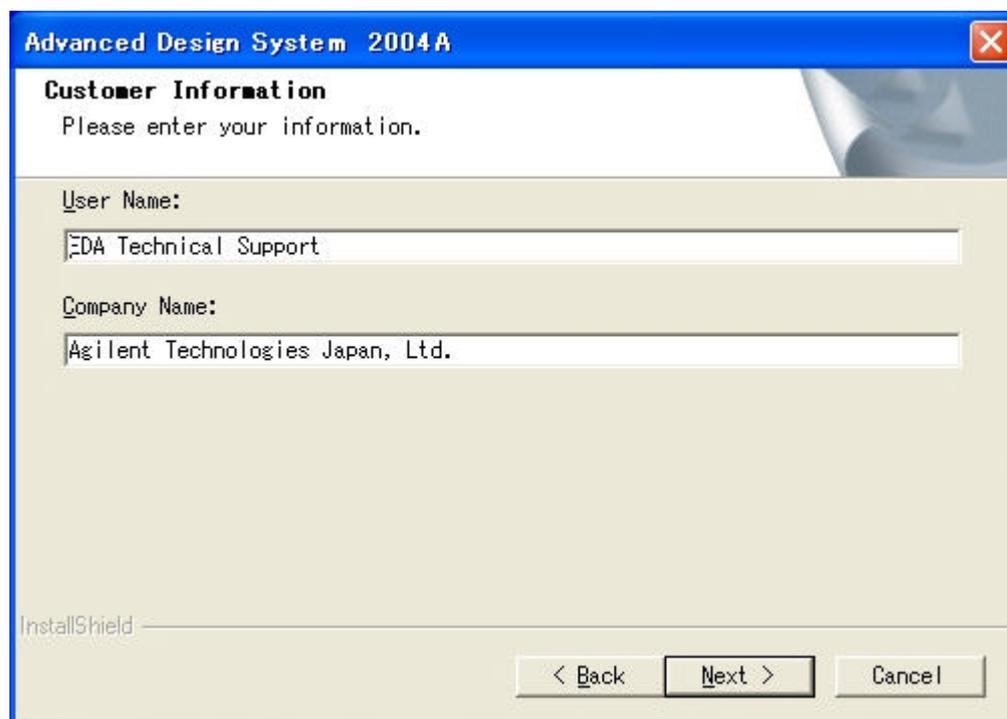
このライセンス使用許諾書は ADS を起動するために必要であるライセンス（ライセンス・コードワード）とは、関係がありません。

[License Agreement] ダイアログ・ボックスは最初にインストールを行なう時と、ADS のアンインストールを行なった後、再びインストールする際にのみ現れます。

(4) ユーザ情報入力

ユーザ情報の入力を行ないます。

1. [Customer Information] ダイアログ・ボックスが現れます。



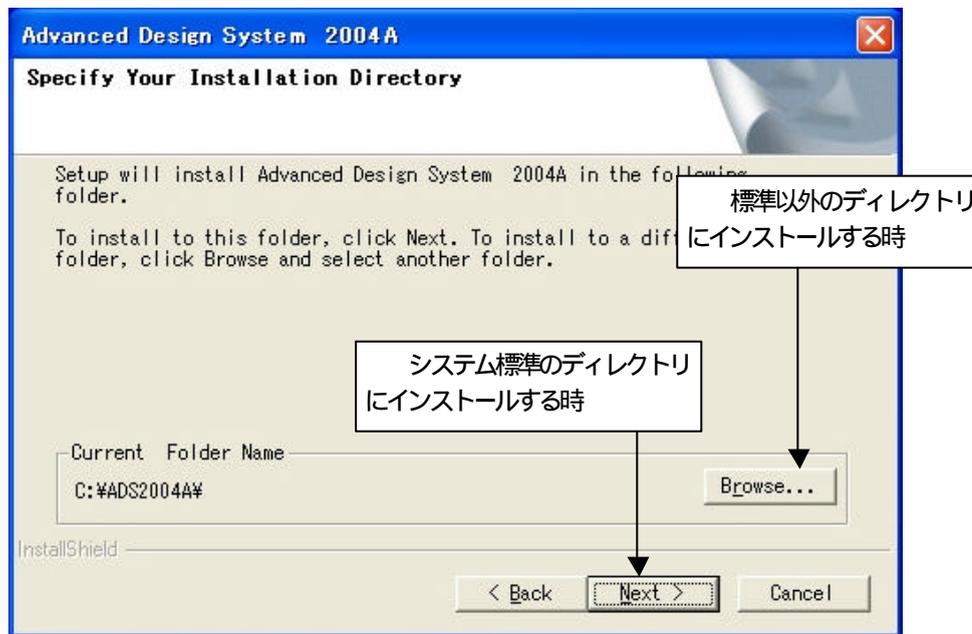
2. ユーザ名と会社名を入力し [Next >] をクリックします。ここでの入力、弊社へのユーザ登録や、ライセンス等の情報と関係はありません。お好きな名前や、イニシャル等を入力してください。

参考 User Name、および、Company Name の情報は、後から変更することも可能です。ただし、Windows® OSのレジストリ・エディタによる操作が必要となります。

(5) インストール・ディレクトリの指定

[Specify Your Installation Directory] ダイアログ・ボックスが現れます。ここでは、ファイル・セットのインストール先を指定します。

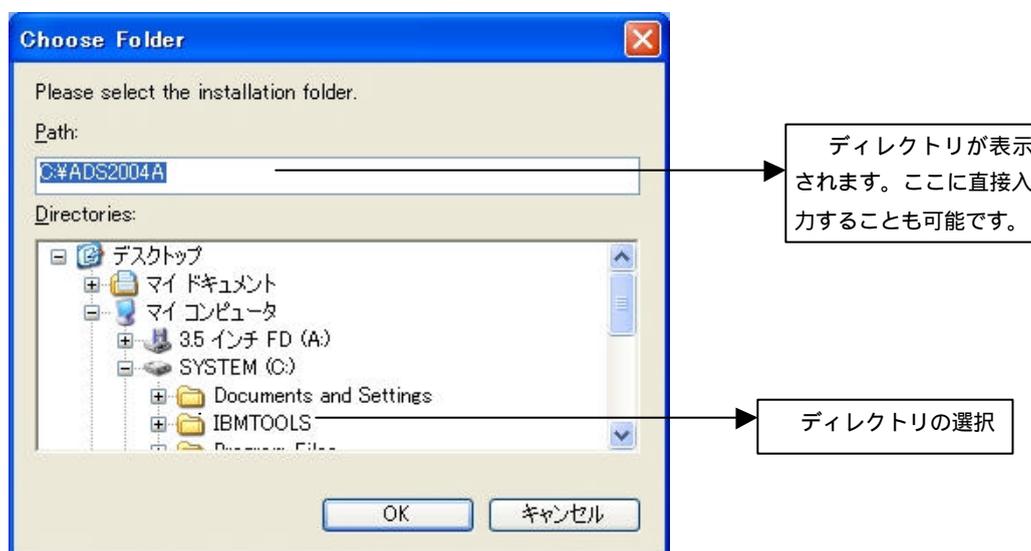
- 1) インストール先のディレクトリを決定します。



システム標準のディレクトリに、ADS 2004A をインストールする時は、そのまま **[Next >]** をクリックします。初期設定値は“**C:\ADS2004A**”です。

それ以外のディレクトリ（既存ディレクトリ、新規ディレクトリ、ネットワーク・ドライブ）にインストールする場合は、**[Browse]** をクリックします。
[Choose Folder] ダイアログ・ボックスが現れます。なお、ADS 2004A 以前のADSがインストールされている場合には、そのインストール・ディレクトリにADS 2004A を上書きインストールしないようにご注意ください。

2) 標準以外のディレクトリにインストールする場合の手順は以下のようになります。



[Directories:] フィールドのスクロール・バーを用いて、インストールしたいディレクトリを探し、ディレクトリ名をクリックして選択します。

[Path:] フィールドに目的のパス名が現れたら、**[OK]** をクリックします。もしディレクトリが無い時は、ここにディレクトリ名をキーボードから直接入力してください。その場合ディレクトリは新しく作られます。

指定したパスがハードディスク上に存在しない時は、自動的にディレクトリが作成されます。この時確認メッセージ等はできませんのでご注意ください。

注意 インストール・ディレクトリのパスには日本語やスペースが含まれないようにご注意ください。**日本語やスペースが含まれている場合には、ADS 2004A が正しく動作しません。**

(例) 「C:\Program Files\ADS2004A」を指定した場合の、警告メッセージ



注意 インストール・ディレクトリに、ハードディスクのルート・ディレクトリを設定しないでください。ADS 2004Aは正常に動作いたしません。

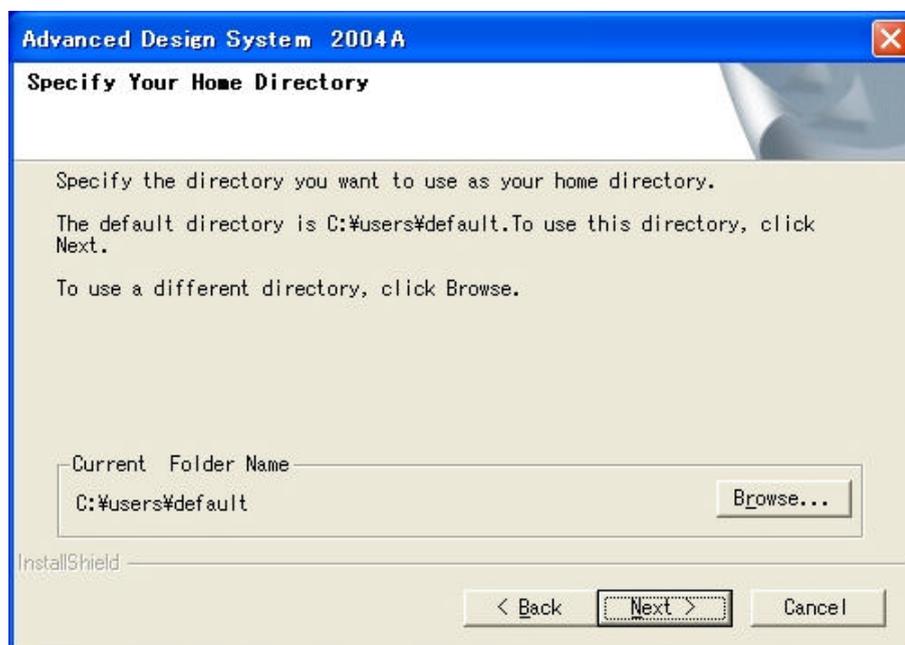
(6) ホーム・ディレクトリの指定

次に、ホーム・ディレクトリを指定するために、[Specify Your Home Directory] ダイアログ・ボックスが現れます。ホーム・ディレクトリとは、ADS 2004A の設定データをユーザ毎に個別に保存するためのディレクトリです。それぞれのユーザが設定したデータは、それぞれホーム・ディレクトリ内の異なったディレクトリに保存されます

システム標準のホーム・ディレクトリとして、“C:¥users¥default”が表示されています。ここでも、インストール先のディレクトリを指定した時と同じように、ホーム・ディレクトリを指定することができます。[Browse] ボタン等の使い方については、(4)を参照してください。

異なるバージョンのADSを使用する場合には、このホーム・ディレクトリを各バージョンごとに作成してください。

(例) C:¥users¥ads2004a ADS 2004A 用
C:¥users¥ads2003c ADS 2003C 用

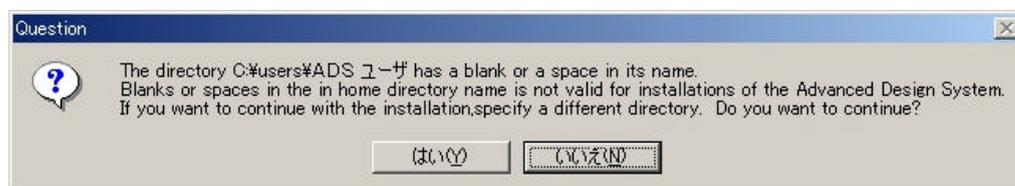


ホーム・ディレクトリをシステム標準に戻す場合や、任意のディレクトリに設定するには、 [**Back**] で一つ前に戻って、もう一度手順を繰り返します。

[**Next >**] をクリックすると、ハードディスクの残り容量の計算が行なわれ、インストールするファイル・セットの選択画面に進みます。

注意 ホーム・ディレクトリのパスには、インストール・ディレクトリのパスと同様、日本語やスペースが含まれないようにご注意ください。日本語やスペースが含まれている場合には、ADS 2004A が正しく動作しません。

(例)「C:\users\ADS ユーザ」を指定した場合の、警告メッセージ



注意 ホーム・ディレクトリに、ハードディスクのルート・ディレクトリを設定しないでください。ADS 2004Aは正常に動作いたしません。

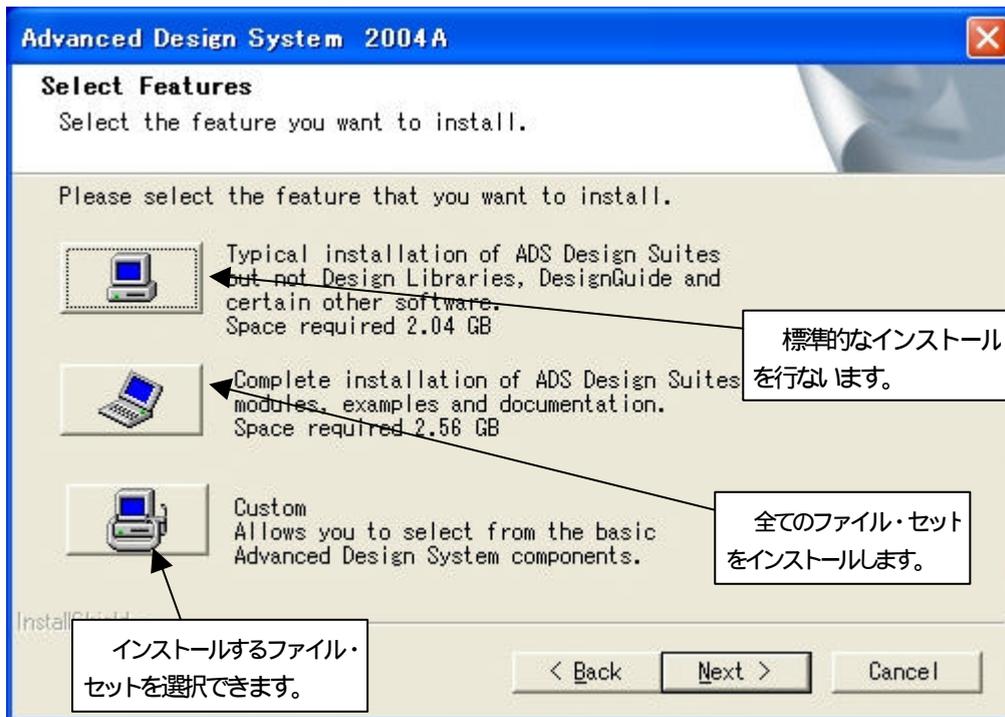
注意 ホーム・ディレクトリには、ネットワーク・ドライブを指定しないことをお勧めします。ネットワーク・ドライブを指定した場合は、ADS 2004A の動作が極端に遅くなる場合があります。

3 - 4 インストール作業

(1) インストール方法の選択

[Select Features] ダイアログ・ボックスで、インストール方法の選択を行ないます。

ここではインストール方法を三つの中から選ぶことができます。



重要 ネットワーク・インストール用の“LAN Client Files”ファイル・セットは、“Typical Installation”、“Complete Installation”ではインストールされません。（英文マニュアルでは“Complete Installation”に含まれると記されていますが、これは誤りです）ネットワーク・インストールを行なう場合は、“Custom”でインストールを行なうか、“Typical”、“Complete”の完了後、3 - 7 節を参考に“LAN Client Files”ファイル・セットを追加インストールしてください。

Typical installation of ADS Design Suites

ADS 本体, Momentum electromagnetic simulator, Digital Filter Designer, Vendor Component Libraries 等の重要なモジュール群, サンプル・ファイル, ドキュメントファイルがインストールされます。約 2.04GB 必要です。

インストールされるファイル・セットの種類は、(3) 表3-1 を参照してください。

注意 Typical Installationでは、下記のファイル・セットはインストールされません。
Wireless Design Libraries、デザイン・ガイド、HDL Co-simulation用ツール

Complete installation of ADS Design Suites

ADS 2004A の全てのファイル・セットをインストールします。

約 2.56GB 必要です。

インストールされるファイル・セットの種類は、(3) 表3-2 を参照してください。

通常は、これを選択してください。

Custom

インストールするファイル・セットを自由に選択することができます。

こちらを選んだ場合は、(2)のインストールファイル・セットの選択に進んでください。

インストールできるファイル・セットの種類は、(3) 表3-3 を参照してください。

注意 どのファイル・セットもインストールすることはできますが、ご利用いただけるのはライセンスをご購入いただいた製品のみです。

(2) ファイル・セットの選択 (Custom インストールの場合)

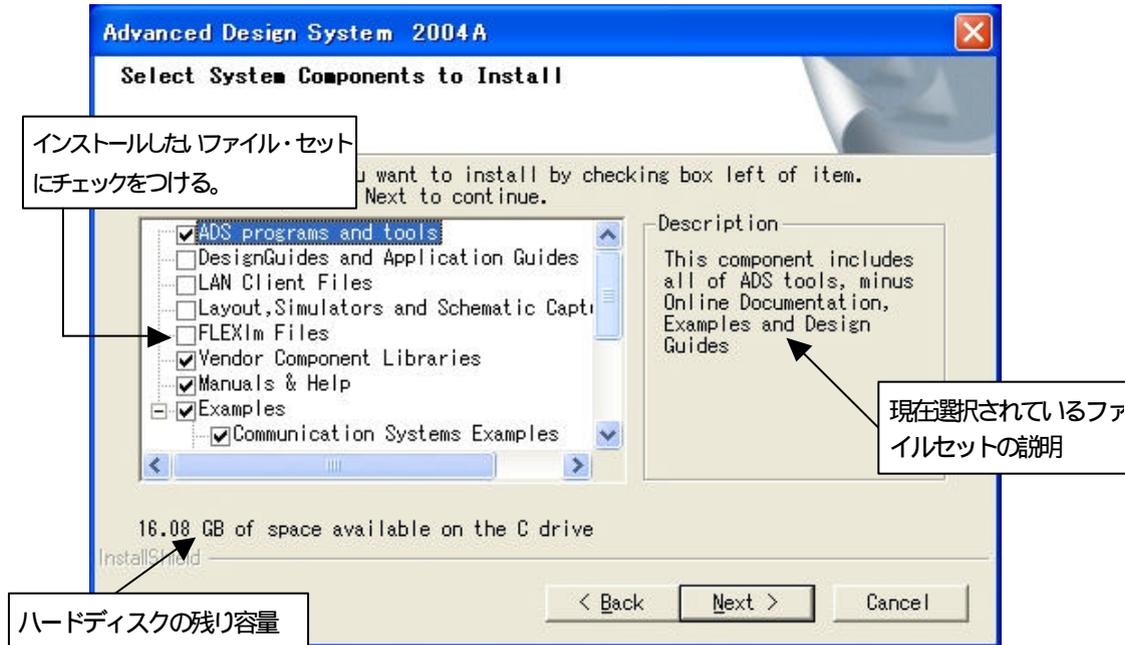
(1) で、Custom を選ぶと、[Select System Components to Install] ダイアログ・ボックスが現れます。

[File Set] フィールドに、チェック・ボックス付きのファイル・セット名がリスト表示されていますので、この中から必要な全てのファイル・セットのチェック・ボックスをチェックします。(3) 節で各コンポーネントの簡単な説明をします。

[Description] エリアには、[File Set] で選択(色が反転)しているファイル・セットの簡単な説明が表示されます。

ダイアログ・ボックス下部には、インストール先ハードディスクの残り容量が表示されています。

チェックが全て終了したら、[Next>] をクリックして次に進みます。



注意 ファイル・セット“**ADS programs and tools**”がインストールされていない場合は、ADS 2004A を起動することができません。
FLEXlm ライセンス・サーバのみをインストールする等の特別な場合以外は、このファイル・セットは**必ずインストールしてください**。

注意 オンライン・マニュアル、ヘルプ、サーチ・エンジンを含んだドキュメントは、ファイル・セット“**Manuals and Help**”としてハードディスクにインストールされます。オンライン・マニュアルとヘルプはインストールされているコンポーネントと関連付けられています。インストールされているコンポーネントの数によりませんが、最大560.3MBの空き容量が必要となります。
また、ADS 2004A はHTMLベースのドキュメントを使用しているため、表示するためにウェブブラウザ(Netscape version4.5以上、Microsoft Internet Explore version4.0以上)を必要とします。

(3) コンポーネントの種類

Typical Installation でインストールされるファイル・セット (表3-1)

ファイル・セット	概要
ADS Run-Time Files	ADS の基本コンポーネント。ユーザ・インターフェースと各種ツール、データ・ディスプレイ、および、Analog/RF Systems、Signal Processing、電磁界解析の各シミュレータが含まれます
Vendor Component Libraries	RF Transistor Library や Analog Parts Library 等の部品関係のライブラリ
Examples (約 800MB)	検索エンジンを含む、ADSのサンプル・プロジェクト
Online Documentation (約 508MB)	ADS 2004A オンライン・マニュアルと、検索ツールです。HTML でかかれていますので閲覧するためには WEB ブラウザが必要になります

Complete Installation でインストールされるファイル・セット (表3-2)

ファイル・セット	概要
ADS Run-Time Files	ADS の基本コンポーネント。ユーザ・インターフェースと各種ツール、データ・ディスプレイ、および、Analog/RF Systems、Signal Processing、電磁界解析の各シミュレータが含まれます
Vendor Component Libraries	RF Transistor Library や Analog Parts Library 等の部品関係のライブラリ
Design Guides	デザイン・ガイド、および、アプリケーション・ガイド
Examples (約 800MB)	検索エンジンを含む、ADSのサンプル・プロジェクト
Online Documentation (約 508MB)	ADS 2004A オンライン・マニュアルと、検索ツールです。HTML でかかれていますので閲覧するためには WEB ブラウザが必要になります

Custom Installation で選択できるファイル・セット (表3-3)

ファイル・セット	概要
ADS Programs and Tools (約 613MB)	ADS の基本コンポーネント。ADSを起動する為に必要な、最小限のファイル・セット
Design Guides and Application Guides	デザイン・ガイド、および、アプリケーション・ガイド
LAN Client Files	ネットワーク・インストール用の setupフォルダ
Layout, Simulators and Schematic Capture	スキマティックとレイアウト作成用の各種ツール、データ・ディスプレイ、および、Analog/RF Systems、Signal Processing、電磁界解析の各シミュレータ
FLEXlm Files	ライセンス・サーバとして使用する為の FLEXlmライセンス管理ソフトウェア
Vendor Component Libraries	RF Transistor Library や Analog Parts Library 等の部品関係のライブラリ
Manual and Help (約 508MB)	ADS 2004A オンライン・マニュアルと、検索ツールです。HTML でかかれていますので閲覧するためには WEB ブラウザが必要になります
Examples (約 800MB)	検索エンジンを含む、ADSのサンプル・プロジェクト カテゴリ毎の選択が可能

“LAN Client Files” は、ネットワーク・インストールを行なうためのファイル・セットです。現在インストール中のコンピュータをネットワーク・インストールのサーバにする場合は、このコンポーネントを必ず選択してください。

ネットワーク・インストールの概要については、

3 - 5 節 「ネットワーク・インストール」

を参照してください。

(4) ADS 2004A を使用するユーザ範囲の指定

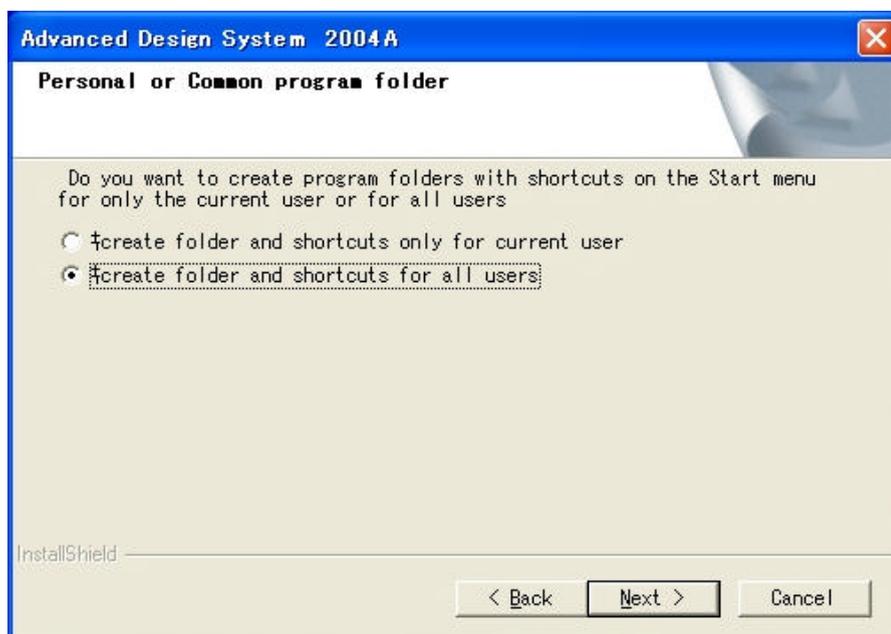
[Personal or Common program folder] ダイアログ・ボックスが現れます。ここでは、ADS 2004A のプログラム・フォルダとショートカット・アイコンを、インストールを実行するユーザのみ作成するか、その PC を使用するの全てのユーザに対し作成するかどうかを指定します。

■ create folder and shortcuts only for current user

現在インストール作業を行なっているユーザのみ、ADS 2004A のプログラム・フォルダとショートカット・アイコンを作成します。

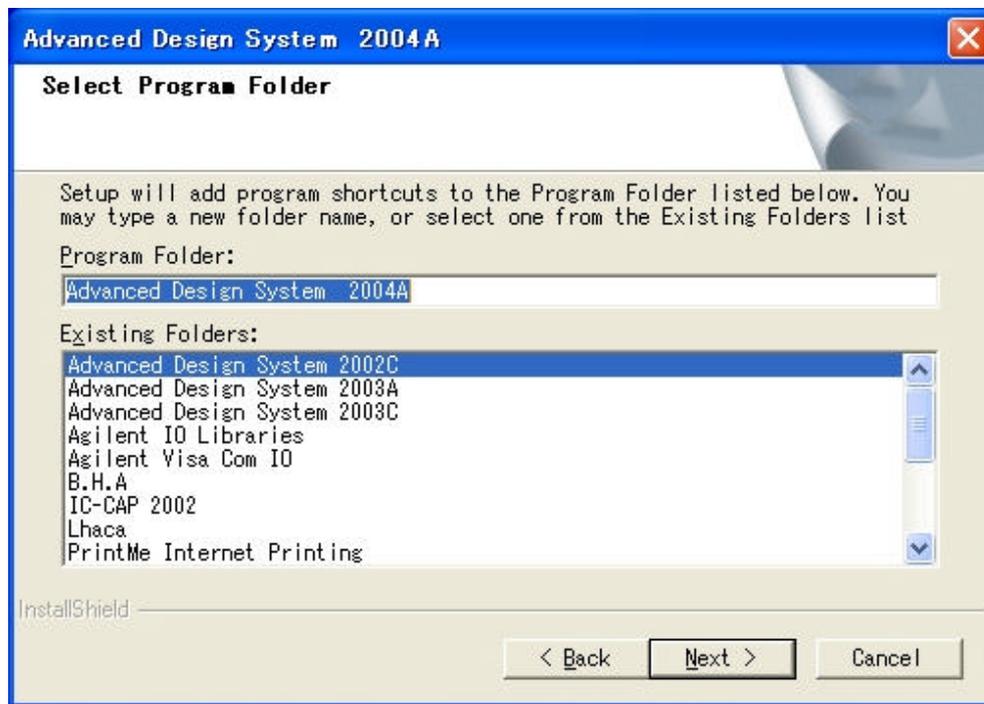
■ create folder and shortcuts for all users

こちらを選択した場合、そのコンピュータ上のどのユーザにも ADS 2004A のプロジェクト・フォルダとショートカット・アイコンを作成します。ただし、こちらを選ぶにはコンピュータの「管理者権限のあるユーザ」(Administrator 等)で行なう必要があります。



(5) プログラム・グループの指定

[Select Program Folder] ダイアログ・ボックスが現れます。ここでは、ADS 2004A プログラムのショートカットが作成されるプログラム・フォルダの名前を指定します。



初期設定では、[スタート] > [プログラム] > [Advanced Design System 2004A] フォルダに、アプリケーションのショートカットが作成されることとなります。

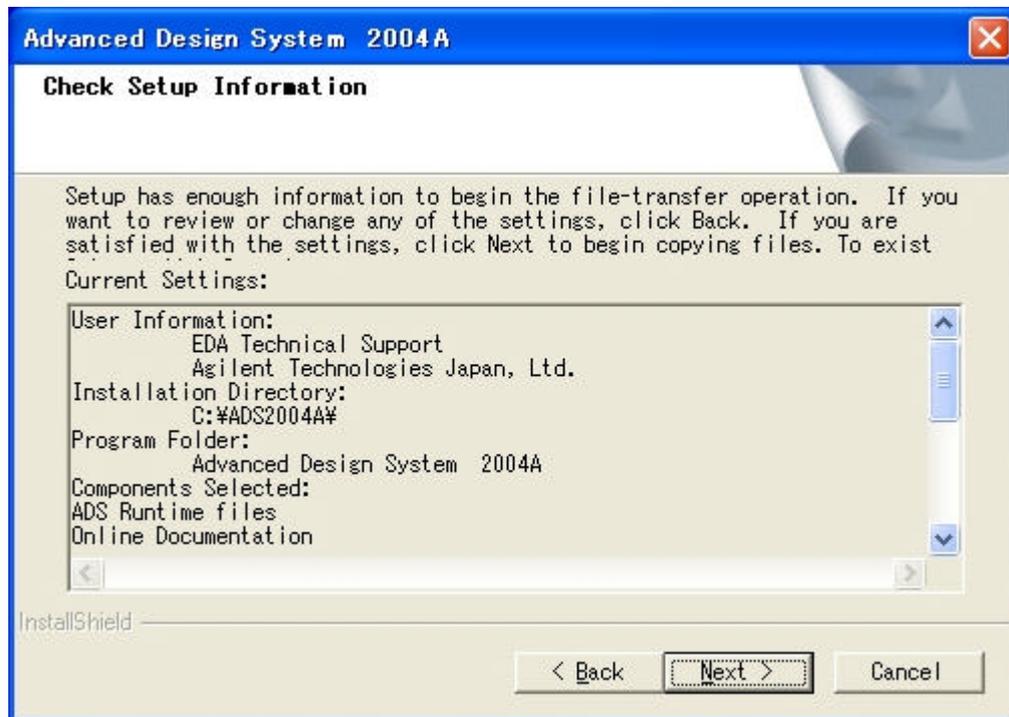
変更する場合は、[Program Folder:]欄に直接キーボードから入力してください。

[Existing Folders:]欄には、既存のプログラム・フォルダの一覧がリストされています。

(6) セットアップ情報の確認

[Check Setup Information] ダイアログ・ボックスが現れます。

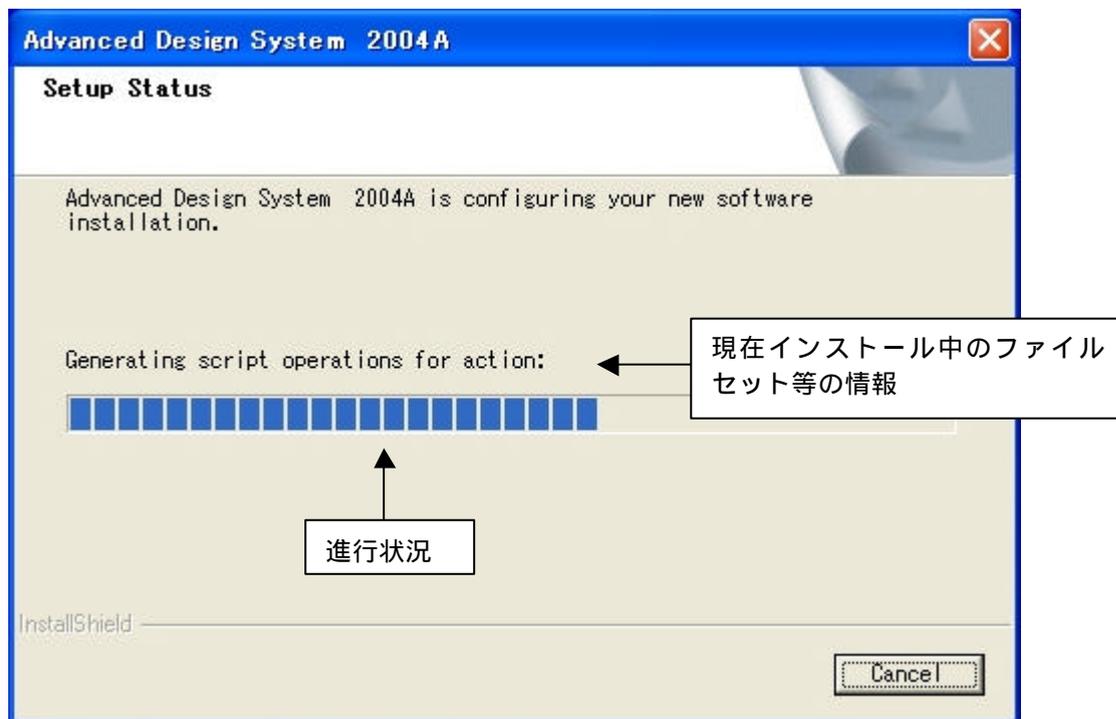
ここでは、セットアップ情報の確認を行ないます。問題が無ければ、[Next >] ボタンをクリックして、インストールを開始します。



(7) インストール作業の開始

以上が終わるとインストールが始まります。[Setup Status] ダイアログ・ボックスが現れ、インストールの進行状態を表示します。

途中、Windows® OSのコマンドプロンプトが立ち上がる場面がありますが、これはインストール作業の正しい動作ですので、ウィンドウを閉じたりせず、そのままにしておいてください。



Typical Installation、Complete Installation、もしくは、Custom で Examples ファイル・セットを選択した場合は、途中で CD-ROM Disk2を要求するダイアログ・ボックスが表示されます。



下記ラベルの CD-ROMを CD-ROMドライブに挿入し、**[OK]** ボタンをクリックしてください。

Advanced Design System Release 2004A
PC Setup Program Disk 2 Windows® 2000, Windows® XP
(Part No. E8900-10234)

(8) ライセンス取得の注意

ここまでの作業が終わると、最後に [License Required] ボックスが現れます。
ここでは ADS 2004A を使用するためには、ライセンス・ファイルを取得する必要がある旨のメッセージが表示されています。内容を確認したら、**[OK]** をクリックしてください。



(9) FLEXid ドライバのインストール

続いて、FLEXid ドライバのインストール実行に関するダイアログ・ボックスが表示されます。



FLEXid ドライバは、ノードロック・ライセンス製品やライセンス・サーバとして使用する場合の、ハードウェア・キー (sentinel key, dallas key, Aladdin USB key) を認識するためのドライバです。

ハードウェア・キーを接続する場合は、必ずインストールが必要です。
また、既に以前のバージョンの ADS で FLEXid ドライバを導入済みである場合でも、ADS 2004A 付属ドライバのインストールを推奨いたします。

通常はここで **[はい]** を選択してください。下記のようなメッセージが表示され、FLEXid ドライバのインストールが自動的に行なわれます。



[いいえ(N)] を選んだ場合でも、4 - 4 節「**FLEXid** ドライバのインストール」の手順で、手動にてインストールする事ができます。

なお、ハードウェア・キーの詳細については、4 - 5 節「ハードウェア・キーの接続と確認」に掲載しています。

(10) インストール作業の終了

全てのインストールが終わると、[InstallShield Wizard Complete]ダイアログ・ボックスが表示されます。**[Finish]** ボタンをクリックしてください。



この時、ダイアログ・ボックスのメッセージが、下記のようにコンピュータの再起動を促す場合があります。この場合には再起動を行なってください。



すぐにコンピュータの再起動をするならそのまま **[Finish]** ボタンをクリックします。再起動を後で行なう場合は、“ No, I will restart my computer later.” を選択して **[Finish]** ボタンをクリックしてください。

ネットワーク・サーバ/クライアント・システムを構築する場合は、
3 - 5 節「ネットワーク・インストール」
に進んでください。

インストールを完了する場合は、
3 - 6 節「セットアップの終了」
に進んでください。

3 - 5 ネットワーク・インストール

ADS 2004A では、ネットワーク・サーバ/クライアント・システムを構築することができます。この場合の、インストール作業について説明します。

注意 どのファイル・セットもインストールすることはできませんが、ご利用いただけるのはライセンスをご購入いただいた製品のみです。

(1) ネットワーク・インストール・サーバの確認

ネットワーク・インストールのサーバ・マシンになるには、以下の二つの条件が必要となります。

- ADS 2004A がインストールされていて、インストール・オプションで “LAN Client files” ファイル・セットが選択されている。

サーバ・マシンには、ADS 2004A が既にインストールされており、かつ、**“LAN Client Files”**ファイル・セットがインストールされている必要があります。
まだ、インストールを行っていない場合は、インストールを行なってください。

注意 **“Typical Installation”**、または、**“Complete Installation”** を行なった場合、**“LAN Client Files”** ファイル・セットはインストールされていません。
3 - 7 節を参考にして、必ず **“LAN Client Files”** を追加インストールしてください。

インストール・オプションに “Custom Install” を選んだ場合は、インストールするファイル・セットの選択画面で (3 - 4 節(2)参照) で、上から 3 番目のオプション、**“LAN Client Files”** を必ず選択してください。

このファイル・セットをインストールしますと、**“<Installation Directory>¥setup”** (通常は “C:¥ADS2004A¥setup”) ディレクトリに、クライアント・マシン用のインストール・プログラムがインストールされます。

- ADS 2004A がインストールされたサーバのディレクトリを、共有接続することが可能になっている。

ネットワーク・インストールを行なうには、サーバ・マシン上で ADS 2004A のインストールされているディレクトリが、各クライアントから共有接続可能になっている必要があります。

ディレクトリの共有については、8 - 1 節「**ファイル・システムの共有**」も参照してください。より詳しいことは、お使いになっている Windows® OS のヘルプを参照してください。

以上の手順が終了していない場合は、クライアント側へのインストールは実行することができません。

サーバ側での、全ての手順を完了させてから、次の節に進んでください。

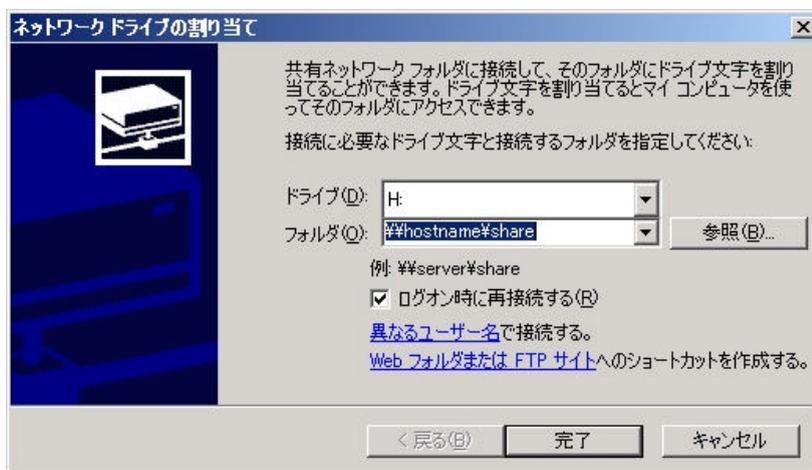
(2) クライアント側のインストール準備

(1) のサーバ・システムの構成が終わっていることを確認してください。そしてサーバ・マシン上の ADS 2004A がインストールされているディレクトリが、クライアントから共有可能になっていることを確認してください。(ディスクの共有についての詳細は、8 - 1 節を参照してください)

クライアント・マシンへのインストールは、サーバ・マシン上のインストール・プログラム (setup.exe) を用いて行なわれます。そのため、クライアント・マシンから、サーバ・マシンの共有ディスクへの接続を行ないます。

■ Windows® 2000

[スタート] メニューの、**[プログラム]** > **[アクセサリ]** > **[エクスプローラ]** を選択して、エクスプローラを起動します。**[ツール]** メニューの **[ネットワーク・ドライブの割り当て]** を選択します。



■ Windows® XP

[スタート] メニューの、**[すべてのプログラム]** > **[アクセサリ]** > **[エクスプローラ]** を選択して、エクスプローラを起動します。**[ツール]** メニューの **[ネットワーク・ドライブの割り当て]** を選択します。(設定画面は、Windows® 2000と同等です)

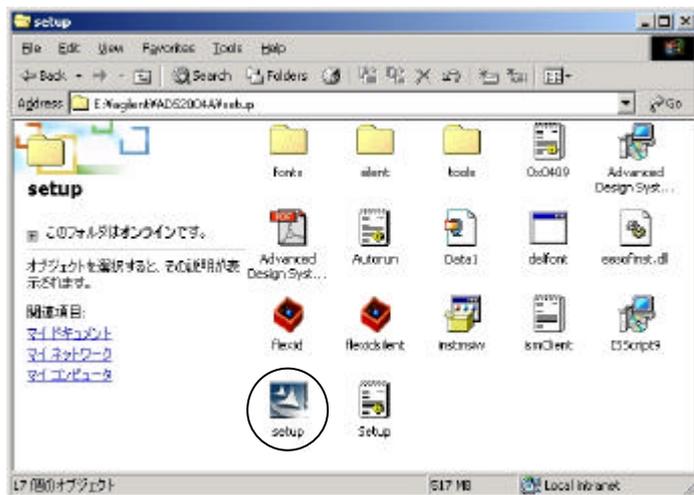
クライアント・マシンで、サーバ・マシン上の ADS 2004A がインストールされているドライブに接続します。

ここでは、サーバ・マシンの “D:¥share” ディレクトリ(共有名 “share”)を、クライアント・マシンの “E:” ドライブに割り当てたとします。また、サーバ・マシンには、“D:¥agilent¥ADS2004A” ディレクトリに ADS 2004A がインストールされているとします。

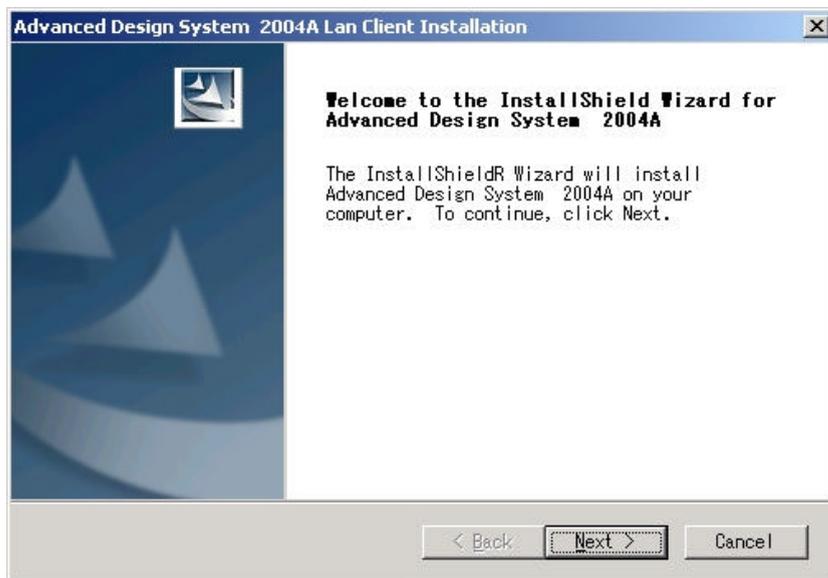
(3) セットアップの起動

クライアント・マシンで、接続したドライブの“setup”ディレクトリにある“**setup.exe**”を実行します。

エクスプローラを起動し、共有ドライブの“¥ADS2004¥setup”ディレクトリの、“setup.exe”もしくは、“setup”を起動します。



“**Advanced Design System 2004A Lan Client Installation**”というタイトル画面に、“Welcome to the InstallShield Wizard for Advanced Design System 2004A”というウィンドウが現れます。



インストール・プログラムの操作は、ローカル・インストールと共通ですので、各ダイアログ・ボックスの表示例については、3 - 3 節、3 - 4 節をご参照ください。

[Welcome] ダイアログ・ボックスの説明を読んでから、[Next >] をクリックして、次に進みます。

(4) ライセンス使用許諾の確認

[License Agreement] ダイアログ・ボックスが現れます。(3 - 3 節 (3) 参照)
必ずよく読み、同意できる場合のみ **[Yes]** をクリックしてください。また、このライセンス使用許諾書は、ADSを起動するために必要であるライセンス・コードワードとは、関係がありません。

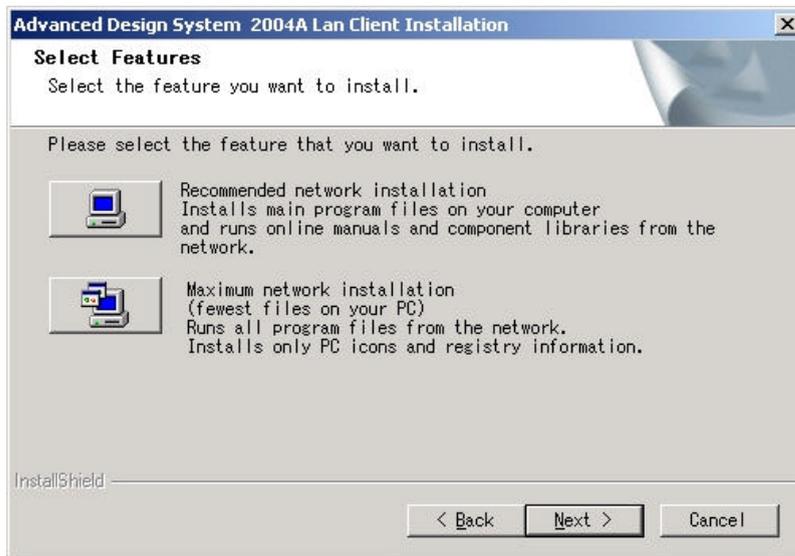
(5) ホーム・ディレクトリの指定

[Specify Your Home Directory] ダイアログ・ボックスが現れ、システム標準のホーム・ディレクトリとして、“C:¥users¥default” 表示されます。(3 - 3 節 (6) 参照)
ホーム・ディレクトリとは、個々のユーザ毎の設定ファイルを保存するためのディレクトリです。このディレクトリは、クライアント側固有の設定ですので、クライアントPCのローカル・ディスク上に作成する事をお勧めします。
異なるバージョンのADSを使用する場合には、このホーム・ディレクトリを各バージョンごとに作成してください。

注意 ホーム・ディレクトリのパスには、日本語やスペースが含まれないようにご注意ください。**日本語やスペースが含まれている場合には、ADS2004A が正しく動作しません。**
(例)「C:¥users¥ADS ユーザ」等

(6) インストール方法の選択

[Select Features]ダイアログ・ボックスが現れます。



ここでは、ネットワーク・インストールの方法を選択します。

ADS 2004A のネットワーク・インストールには、二通りの方法があります。

■ **Recommend network installation**

オンライン・マニュアル・ライブラリはサーバ上のものを使い、実行形式ファイルは、ローカルのハードディスクにインストールします。実行形式ファイルがネットワーク上にある場合、プログラムの動作が極端に遅くなる場合がありますので、この問題を回避するために推奨されるインストール方法です。

■ **Maximum network installation**

アイコンとレジストリ・エントリの作成のみを行ない、ファイル・セットは全てサーバ上のものを使用します。ディスク容量はほとんど必要無くなりますが、シミュレータの実行速度が極端に遅くなる場合があります。

インストール方法を選択すると、サーバ側のファイル・セットの確認を行ないます。ネットワークの速度によっては、下記のメッセージを表示したまま、しばらく時間がかかる場合があります。



続けて、ネットワーク・ドライブのパスの確認が行なわれます。



クライアント・マシンで ADS 2004A を起動する時は、常にこの共有接続が確立されている必要があります。

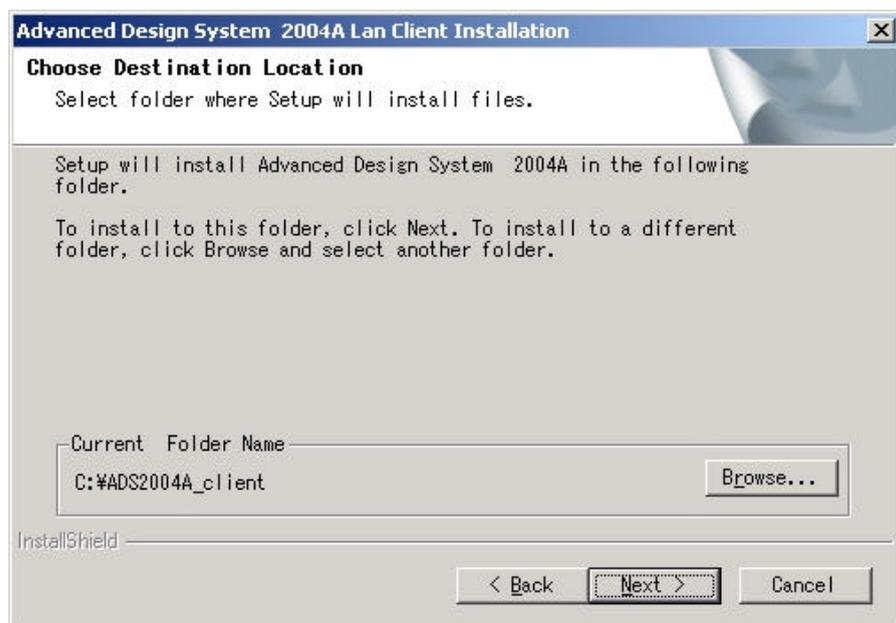
このままでよい場合は、**[Yes]** をクリックして次に進みます。

パスを変えたい時は、**[No]** をクリックして、ネットワーク・ドライブの接続からやり直してください。

(インストール・プログラムは終了します。)

(7) インストール先の指定

Recommended network installation を選択した場合は、[Choose Destination Location] ダイアログ・ボックスが現れます
ファイル・セットのインストール先ディレクトリをここで指定します。初期設定値は
"C:¥ADS2004A_client"です。

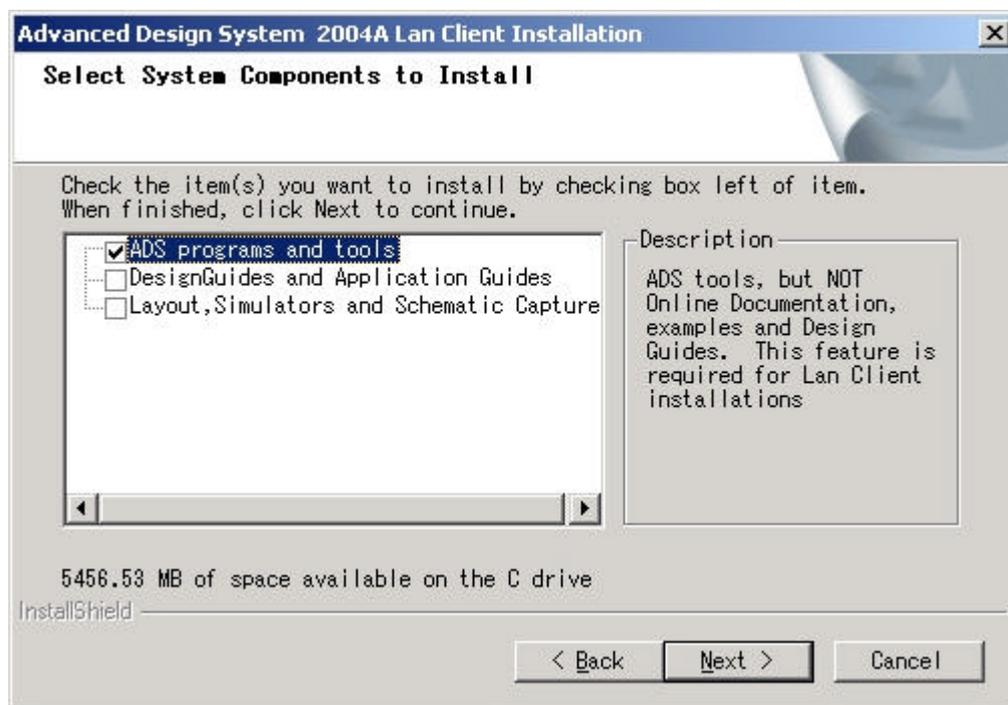


指定方法は、3 - 3節(5)と同様ですので、詳細はそちらを参照してください。

(8) ファイル・セットの選択

Recommended network installation を選択した場合は、[Select System Components to Install] ダイアログ・ボックスが現れます。

ここでは、クライアント・マシンにコピーするファイル・セットを選択します。



ADS programs and tools

ADSのユーザ・インターフェース等、最小限起動に必要な機能

Design Guides and Application Guides

デザイン・ガイド、および、アプリケーション・ガイド

Layout, Simulators and Schematic Capture

スキマティックとレイアウト作成用の各種ツール、データ・ディスプレイ、および、Analog/RF Systems、Signal Processing、電磁界解析の各シミュレータ

ハードディスク占有量は、上記最小構成で約 350MB、全て選択した場合は約 1.1GBです。

(9) ADS2004A を使用するユーザ範囲の指定

[Personal or Common program folder]ダイアログ・ボックスが表れます。(3 - 4 節(4) 参照)

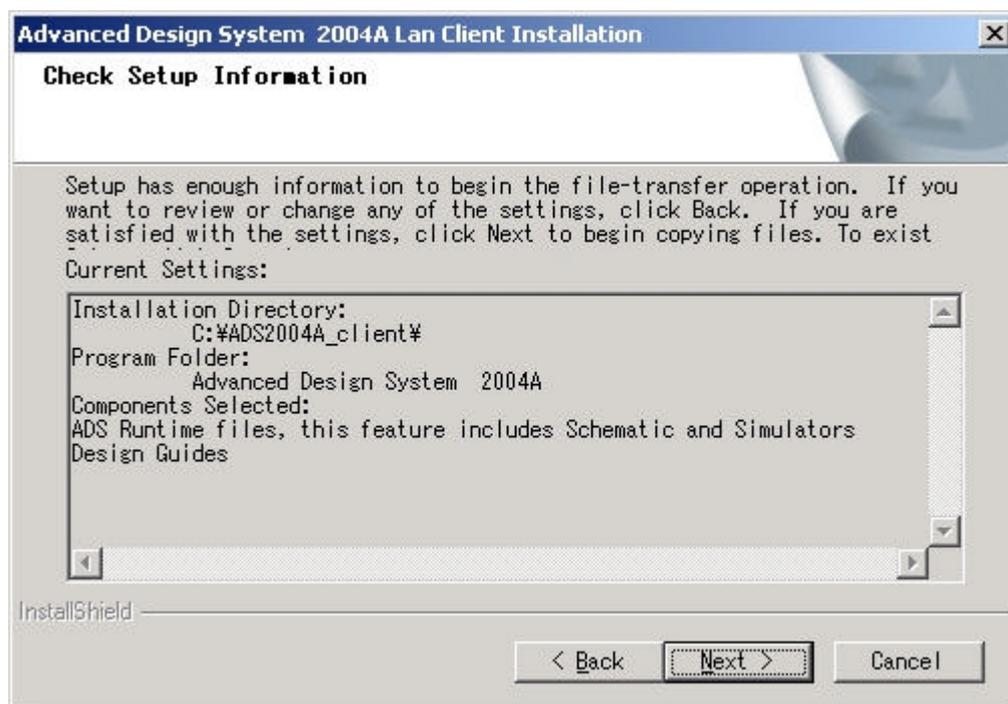
ここでは、ADS 2004A のプログラム・フォルダとショートカット・アイコンを、インストールを実行するユーザのみ作成するか、その PC を使用するの全てのユーザに対し作成するかどうかを指定します。

(10) プログラム・フォルダの指定

[Select Program Folder] ダイアログ・ボックスが現れます。(3 - 4節(5)参照)
ここでは、ADS 2004A プログラムのショートカットが作成されるプログラム・フォルダの名前を指定します。

(11) セットアップ情報の確認/インストールの開始

[Check Setup Information] ダイアログ・ボックスが現れます。インストール方法・インストール先等が正しければ、[Next >] をクリックしてください。インストールが開始されます。



参考 インストール途中で、[Repaintind while Draggind Turned OFF] というダイアログ・ボックスが表示される場合があります。[Yes]、[No] のどちらを選んでも、インストールには差し支えありません。どちらかを選択して、インストールを続行してください。([Yes] を選択すると、Windows®の”ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する”の設定が無効になります。これはVGAが比較的低性能なコンピュータで、表示速度の低下を防ぐことに効果があります)
[No] を選択した場合は、最後の“status”ウィンドウのタイトル表示がおかしくなる場合があります。

(1 2) ライセンス取得の注意

[License Required] ボックスが現れます。(3 - 4 節 (8) 参照)
ここでは ADS 2004A を使用するためには、ライセンス・ファイルを取得する必要がある旨のメッセージが表示されています。内容を確認したら、**[OK]** をクリックしてください。

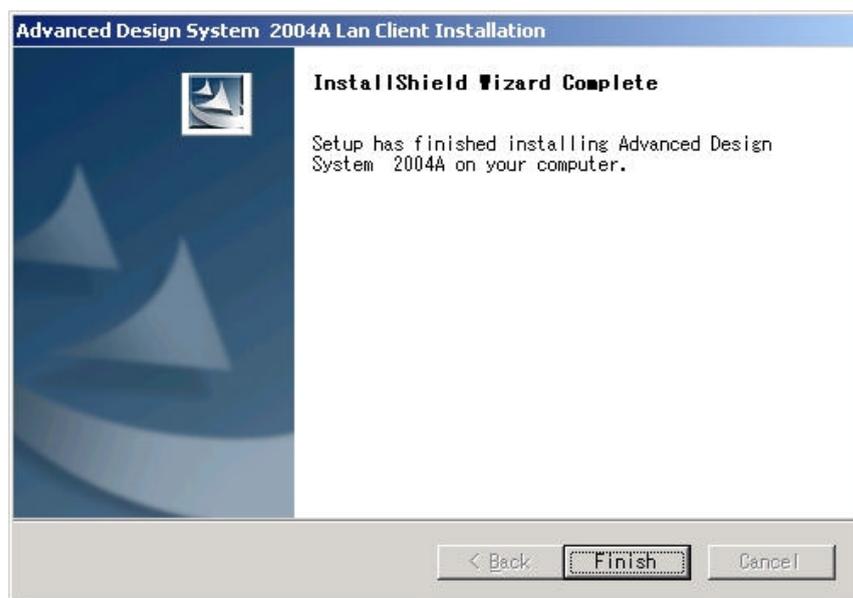
(1 3) FLEXid ドライバのインストール

続いて、FLEXid ドライバのインストール実行に関するダイアログ・ボックスが表示されます。(3 - 4 節 (9) 参照)

注意 クライアント・マシンがノードロック・ライセンスを使用する場合は、FLEXid ドライバのインストールが必要です。

(1 4) ネットワーク・インストール・セットアップの終了

インストールが完了すると、[InstallShield Wizard Complete] ダイアログ・ボックスが表示されます。**[Finish]** ボタンをクリックしてください。



この時、ダイアログ・ボックスのメッセージが、下記のようにコンピュータの再起動を促す場合があります。この場合には再起動を行なってください。



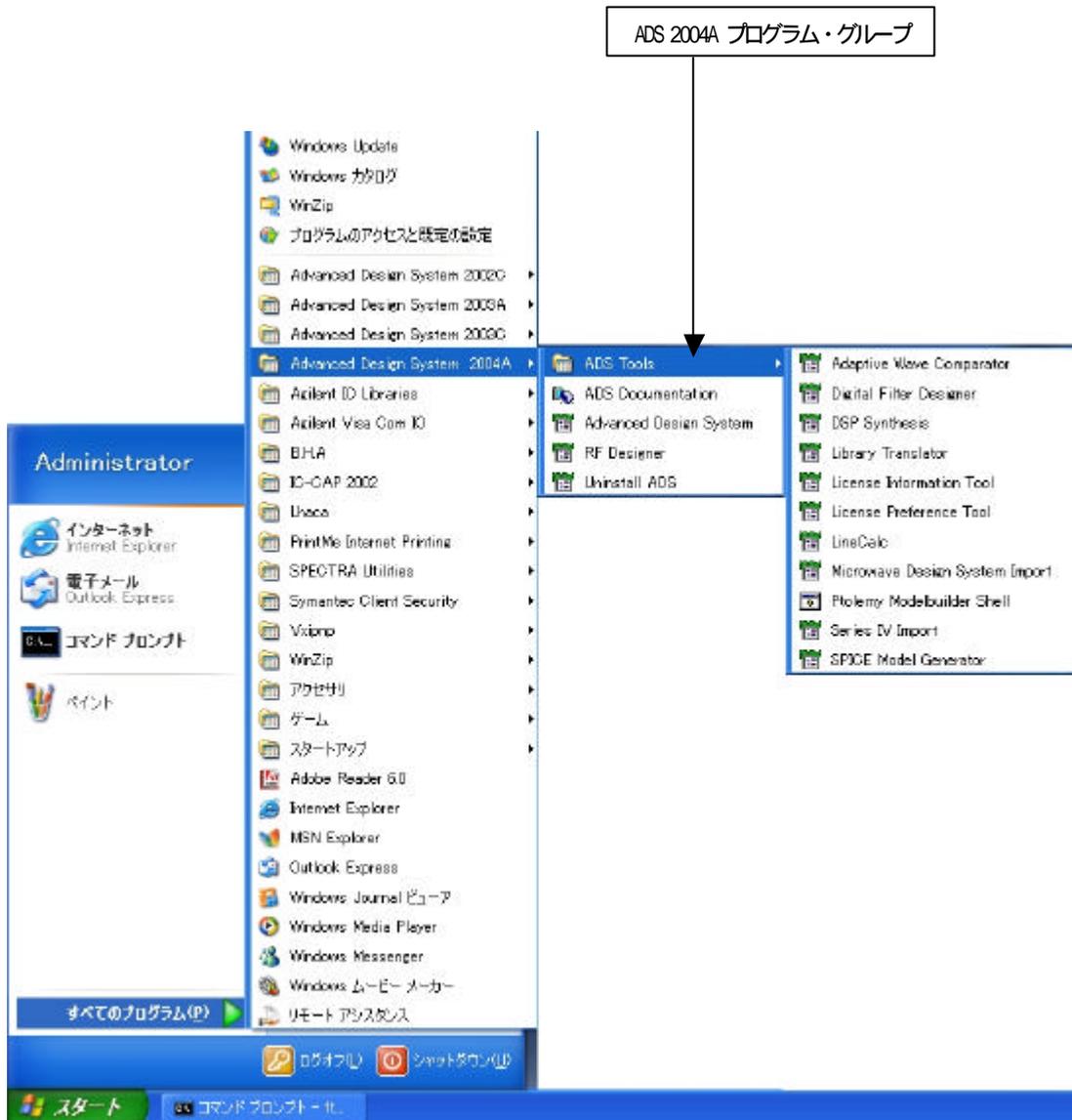
すぐにコンピュータの再起動をするならそのまま **[Finish]** ボタンをクリックします。再起動を後で行なう場合は、“ No, I will restart my computer later. ” を選択して **[Finish]** ボタンをクリックしてください。

以上でネットワーク・クライアントの構築が終了しました。クライアント・マシンが複数台ある場合は、全てのコンピュータで、**3 - 5 節(2)~(10)** までの手順を繰り返してください。

3 - 6 セットアップの終了

ADS 2004A プログラムのインストール作業の完了後、プログラムを起動する為にはライセンスの設定を行なう必要があります。

ライセンスの設定については、4章で詳しく述べていますので、こちらの作業も必ず行なってください。3 - 5節までの状態では、ADS 2004A は起動できません。



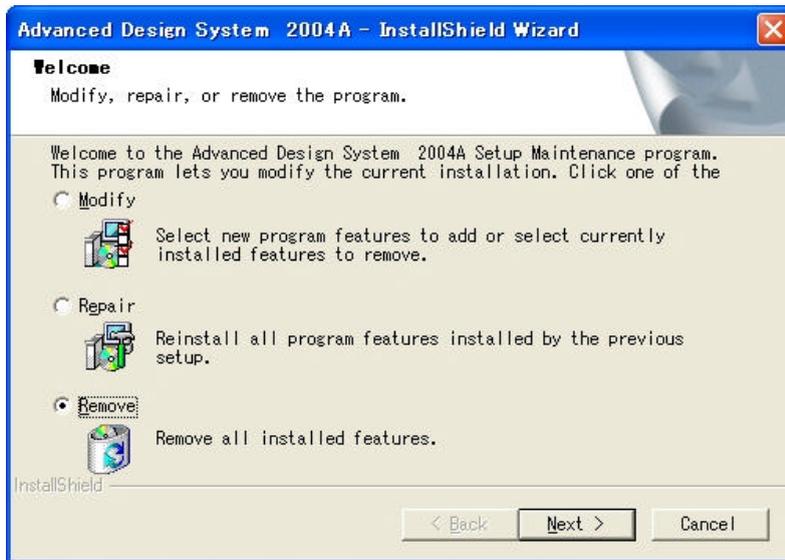
3 - 7 参考；後から一部のファイル・セットをインストールする方法

最初のインストール時にインストールを行なわなかったファイル・セットは、下記の手順で追加インストールを行なうことができます。

ADS 2004A PC Setup Program Disk 1 をCD-ROMドライブにセットします。

ADS 2004A がすでにインストールされているPCの場合、下図のような [Welcome] ダイアログ・ボックスが現れます。

注意 CD-ROMの自動起動が無効になっている場合は、CD-ROM上の“setup.exe”を実行してください。



Modifyを選択して [**Next>**] ボタンをクリックすると、インストール可能なファイル・セット一覧が表示されますので、インストールを行ないたいものをチェックし、インストールを行ないます。



ファイル・セットと選択方法の詳細については、3 - 4 節「インストール作業」をご参照ください。

3 - 8 参考 ; アンインストールの方法

ADS 2004Aをハードディスク上から消去する場合は、下記の手順でアンインストールを行なってください。

アンインストール・プログラムの起動は、下記 3種類の方法のどれかを選択してください。

方法 1) Advanced Design System 2004A プログラム・グループで、**Uninstall ADS** アイコンを選択

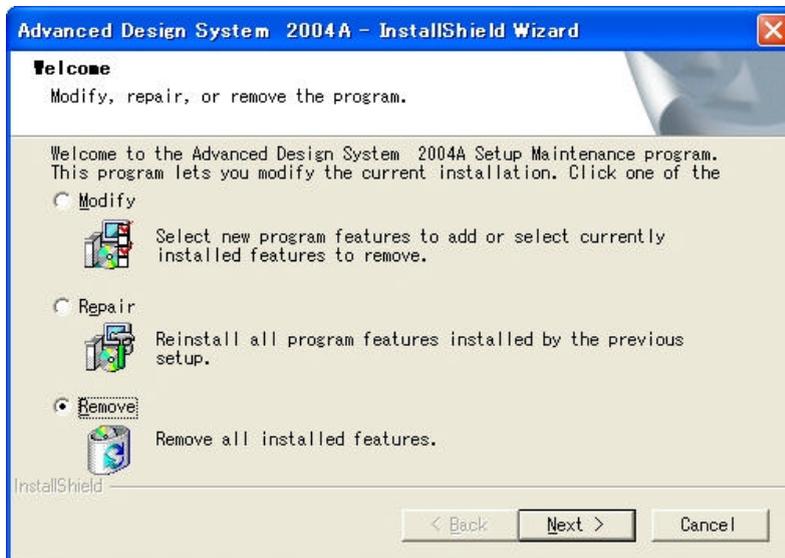
方法 2) コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」(Windows® 2000)、または、「プログラムの追加と削除」(Windows® XP) で、**Advanced Design System 2004A** を選択

注意 ADS 2004A Early Access版の場合は、
Advanced Design System 2004A Early Access 1
という名称になります。

方法 3) **ADS 2004A PC Setup Program Disk 1** を CD-ROM ドライブにセット

注意 CD-ROMの自動起動が無効になっている場合は、CD-ROM上の“setup.exe”を実行してください。

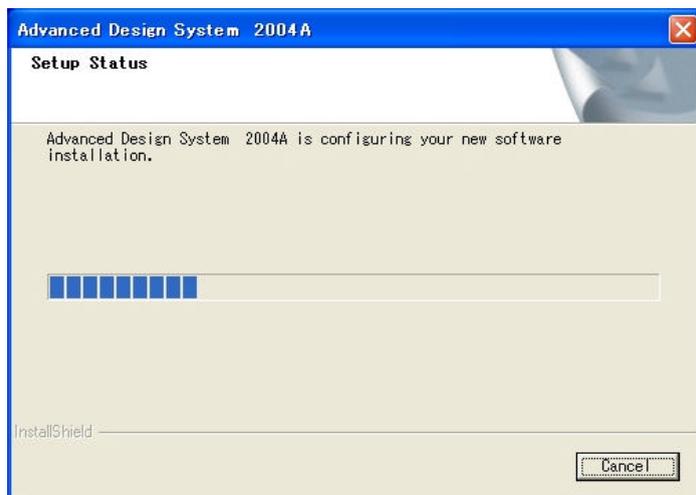
下図のような [Welcome] ダイアログ・ボックスが現れます。



Removeを選択して **[Next>]** をクリックすると、下図の **[Confirm Uninstall]** ダイアログ・ボックスが表示されます。本当にアンインストールを実行する場合は、**[Yes]** をクリックしてください。



下図のような進行状況を示す **Setup Status**ダイアログ・ボックスが表示されます。



ADS 2004Aのアンインストール作業には、インストール内容やコンピュータの性能にも依存しますが、**およそ 1時間前後**かかります。

アンインストールを行なった後、インストール・ディレクトリ下には、下記のようなフォルダと幾つかのファイルが残ります。（インストール内容により異なります）



これらのフォルダには、ユーザがカスタマイズした設定、ライブラリやライセンス・ファイル、或いはネットワーク・インストール用のファイル等が含まれています。

バックアップの必要があるものを他のフォルダ等にコピーした後は、これらのフォルダは消去していただいてもかまいません。

注意 もし、アンインストール・プログラムの実行時にエラーが発生して、アンインストールが完了しなかった場合は、対処方法について **EDAテクニカルサポート**までお問い合わせください。エクスプローラ等から、インストール・ディレクトリ以下をそのまま消去しただけでは、次回インストールを実行した際、正常に動作しない場合があります。

3 - 9 参考；ファイル・サーバからのインストール

注意 このインストール方法は正式サポート対象外となっております。本件に関するお問い合わせには回答できない場合もありますので、予めご了承ください。

ADS 2004A インストール CD-ROMの内容を、全て大容量のハードディスク・ドライブを備えるファイル・サーバとなるコンピュータにコピーし、そのハードディスクを共有するクライアント・コンピュータでインストールを実行することができます。

ディスク共有の設定方法に関しては、9 - 1 節をご参照ください。

- (1) ファイル・サーバとなるコンピュータのハードディスクに、下記のディレクトリ ADS2004A、および、サブ・ディレクトリ cdromを作成してください。ドライブは C である必要はありません。



- (2) ADS 2004A の PC Setup Program Disk 1 を CD-ROMドライブに挿入してください。インストール・プログラムが起動したら、**[cancel]** ボタンでキャンセルします
- (3) PC Setup Program Disk 1 の内容を、全て cdrom ディレクトリにコピーします。エクスプローラを用いる場合は、CD-ROMのトップ・レベルにて **[編集]** > **[全て選択]** でファイルを全て選択し、**[編集]** > **[コピー]** を実行します。続けて、ハードディスクの cdrom ディレクトリで **[編集]** > **[貼り付け]** を実行して、ファイルを転送します。
- (4) PC Setup Program Disk 2 を CD-ROMドライブに挿入し、(3) と同じ手順で cdromディレクトリにコピーします。全てのファイルがコピーされたら、CD-ROMを取り出します。
- (5) ファイル・サーバのコンピュータで、C:\ADS2004A ディレクトリを共有可能に設定します。
- (6) 各クライアント・コンピュータで、(5) で共有可能に設定したディレクトリをネットワーク・ドライブとして接続し、cdrom ディレクトリ下の **setup.exe** を実行します。
- (7) これ以降の操作は、3 - 3 節からのローカル・インストールと同等です。インストールを完了させ、ライセンスの設定を行なってください。

3 - 10 参考 ; サイレント・インストール

注意 このインストール方法は正式サポート対象外となっております。本件に関するお問い合わせには回答できない場合もありますので、予めご了承ください。

3 - 3 節からのローカル・インストールは、対話形式のインストール・プログラムを実行していますが、ADS 2004A はマイクロソフト社の Windows Installer (MSI) に準ずるサイレント・インストールに対応し、設定をファイルから読み込ませることにより非対話形式でインストールを行なうことが可能です。

サイレント・インストールを行なう場合は、3 - 9 節「ファイル・サーバからのインストール」を併用してください。

サイレント・インストールを実行するには、予め設定情報を記述したレスポンス・ファイル (InstallShiled silent response file) を用意する必要があります。

ファイル・サーバ・コンピュータの共有ハードディスクにコピーされた ADS 2004A インストール・ファイルのディレクトリ (¥ADS2004A¥cdrom) に、拡張子 **.iss** のレスポンス・ファイルを置いて、**setup.exe** でインストール・プログラムを起動します。

ADS 2004A の PC Program Setup Disk 1 の silent ディレクトリ下に、レスポンス・ファイルのサンプルが収録されています。

- ・ typical.iss Typical Installation の実行用
- ・ complete.iss Complete Installation の実行用
- ・ uninst.iss アンインストール (silent uninstall) の実行用

注意 typical.iss、および、complete.iss を使用した場合、“LAN Client Files”ファイル・セットはインストールされません。ネットワーク・インストールのサーバとして設定する場合は、3 - 7 節を参考に追加インストールしてください。

これらのサンプル・ファイルには、下記の設定が行なわれていますので、実際のインストール環境に合わせて変更を加えてください。

- ・ インストール・ディレクトリは C:¥ADS2004A
- ・ ホーム・ディレクトリは C:¥users¥default
- ・ スタートメニューにプログラム・グループ Advanced Design System 2004A 作成

サイレント・インストールは下記の手順で実行します。既に、クライアントはファイル・サーバ上の cdrom ディレクトリを参照できるものとします。

- (1) オプション `/s`、および、レスポンス・ファイルとログ・ファイルを指定するオプション `/f1`、`/f2` を付けて、`setup.exe` を実行します。

```
<実行例> cd D:¥ADS2004A¥cdrom
          setup.exe /s /f1"D:¥ADS2004A¥cdrom¥disk1¥silent¥complete.iss"
          /f2"C:¥temp¥complete.log"
```

注意 `/f1`、`/f2` オプションと引数の間には、空白を入れないでください。また、ファイル・パスは、” “で括ってください。

- (2) インストールの経過を確認する場合は、実行開始から 3分～ 5分待ってください。
その後、ADS 2004Aのインストール先ディレクトリに移動して、インストールされた **tail** コマンドを用いて、コマンドプロンプトにログ・ファイルの内容を表示させます。

```
<実行例> cd C:¥ADS2004A¥tools¥lib¥dpkg
          ..¥..¥bin¥tail -f adsinstalllog.txt
```

インストール完了時には、下記のメッセージが表示されます。

```
End of silent installation
```

サイレント・インストールがうまく動かない場合は、まず、通常の対話形式インストールを行ない、問題が発生しないことを確認してください。

4章 ライセンスの設定

4 - 1 概要

ソフトウェアのインストールが終了したら、ライセンスの設定を行いません。

注意 ADS 2004A の実行には、**ADS 2004A 専用のライセンス・コードワード(ライセンス・ファイル)が必要です。**

ADS 2004A 用のコードワード(ライセンス・ファイル)をお持ちでない場合は、

9 - 1 節「コードワード発行依頼の方法」

をご参照いただき、弊社コードワード発行受付までご請求ください。

ADS 2003C 以前のライセンス・コードワードでは、ADS 2004A は動作いたしません。

ライセンス・コードワードと、動作するアプリケーションのバージョンごとの対応

製品 ライセンス	ADS 2004A	ADS 2003C	ADS 2003A	ADS 2002C	ADS 2002
ADS 2004A		1	1	×	×
ADS 2003C	×		2	×	×
ADS 2003A	×	3		×	×
ADS 2002C	×	×	×		4
ADS 2002	×	×	×	5	

注意：1 ADS 2004A で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。

2 ADS 2003C で新規に追加された機能、ライセンス・バンドルはご利用いただけません。

3 ADS 2003C で削除された機能はご利用いただけません。

4 ADS 2002C で新規に追加された機能はご利用いただけません。

5 ADS 2002C で削除された機能はご利用いただけません。

ADS 2004A のライセンス・コードワードは、一つ前の世代の ADS に対する互換性(LBC ; License Backward Compatibility)を持っております。

これにより、ADS 2003C、および、ADS 2003Aは、ADS 2004Aのライセンス・コードワードでご利用いただくことができます。

移行の為に併用期間が必要な場合は、ADS 2004A用のライセンス設定を行なって、ADS 2003A / 2003Cをご利用ください。

ADS 2002C、および、それ以前のバージョンの ADS、MDS、SeriesIV等の旧製品については対応いたしませんので、ご注意ください。

ADS 2004Aでの変更点

リリース名	ライセンス コードワード バージョン	Daemon名	FLEXlm バージョン	ライセンス ファイル指定 環境変数	ライセンス・ファイル デフォルト ロケーション
ADS 1.5	1.5	hpeesofd	7.0g	LM_LICENSE_FILE	\$HPEESOF_DIR/ licences/license.dat
ADS 2001	1.7			HPEESOFD_LICENSE_FILE	
ADS 2002	1.9	agileesof	7.2h CRO	AGILEESOF_LICENSE_FILE	\$HPEESOF_DIR/ licences/
ADS 2002C	2.1				
ADS 2003A	2.3	agileesofd	8.2a CRO	AGILEESOFD_LICENSE_FILE	
ADS 2003C					
ADS 2004A	2.34	agileesofd	9.2a CRO	AGILEESOFD_LICENSE_FILE	

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 08-nov-2006 uncounted ¥
VENDOR_STRING="7-36C70F19 : MMUIWQU LPBVYAH XDAXLNO GIAHPBC ¥
REYDXGC TQKDCYA RW1QGNP G" HOSTID=FLEXID=7-36c70f19 SIGN="029E ¥
D21D E210 939C 5745 3EBC C5A1 6005 240F 55DE 5F03 D04A 7A6F ¥
BDA6 62FD AE1B 8478 6E31 169E 86E9 D004"
```

これは、ADS 2004A 用ライセンス・コードワードの記述例です。

INCREMENTで始まる行を確認することで、ライセンス・コードワードのバージョンを確認することができます。

INCREMENT <ライセンス(機能)名> <ベンダ・デーモン名> <バージョン>
<有効期限> <ライセンス本数>
VENDOR_STRING="<ライセンス・サーバ FLEXid>" <暗号コード>
(**HOSTID**=<ノードロック・クライアント FLEXid>) <暗号コード>

ベンダ・デーモン名は **agileesofd** です。
バージョンは **2.34** です。
有効期限を過ぎていないことが必須です。

この条件を満たしていないライセンス・コードワードは、ADS 2004A用ではないか、無効になったライセンスです。

お手元に ADS 2004A 用ライセンス・ファイルが無い、もしくは、失効している場合は、下記をご参照いただき、ADS 2004A 用のライセンス・ファイルの発行申請を行なってください。

9 - 1 節「コードワード発行依頼の方法」

4 - 2 FLEXlmの概念

FLEXlm™ (Flexible License Manager) は、アメリカ合衆国 Macrovision Corporation (旧社名 GLOBEtrouter Software) が開発した、ライセンス管理ソフトウェアの名称です。

<http://www.macrovision.com>

Products > Legacy Products > FLEXlm

(1) FLEXlm のライセンスの形態(種類)

ライセンスの形態(種類)には、「ノードロック・ライセンス」、「フローティング(ネットワーク)・ライセンス」の2種類があります。以下にそれぞれの説明を簡単に記します。

基本的な設定方法は「ノードロック・ライセンス」でも「フローティング・ライセンス」でも同じです。

ノードロック・ライセンス

ある**限定**されたコンピュータでのみ、アプリケーション・ソフトウェアを実行できます。

フローティング・ライセンス

ネットワークで接続された**任意**のコンピュータで、アプリケーション・ソフトウェアを実行できます。ただし、ライセンス・サーバは、**限定**されたコンピュータになります。

また、同時に実行できるアプリケーション・ソフトウェアの数(本数)は、取得したライセンスの本数までになります。

(2) FLEXlm で使用されるプログラム/ファイル

次に、FLEXlm で使用されるプログラム/ファイルを簡単に説明します。

FLEXlm では、「ライセンス管理デーモン」「ベンダ・デーモン」「ライセンス・ファイル」の3つが使用されています。以下にそれぞれの説明を簡単に記します。

ライセンス管理デーモン (lmgrd)

ライセンス管理デーモン(lmgrd)は実行形式のプログラムです。

ベンダ・デーモン(agileesofd)と協力して、ライセンスを管理します。UNIX の場合、lmgrd はライセンス・サーバでは必ず実行させなければならないプログラムです。

同一のコンピュータで複数の lmgrd を実行することも可能(ただし、それぞれ異なる TCP/IPポート番号の割り当てが必要)ですので、Agilent EEsof EDA製品以外のソフトウェアが FLEXlm を使用している場合でも、問題無く併用することができます。

ベンダ・デーモン (agileesofd)

ベンダ・デーモン(agileesofd)は実行形式のプログラムです。

ライセンス管理デーモン(lmgrd)と協力してライセンスを管理します。agileesofd は、ライセンス・サーバでは必ず起動していなければならないプログラムです。

同一のコンピュータで、複数の agileesofd を実行することは**できません**。ベンダ・デーモン名は使用するアプリケーション・ソフトウェアで異なります。

MDS B.07.X、Series IV 6.X、agilent HFSS 5.X、IC-CAP 5.X および ADS 2001 では、ベンダ・デーモン名はすべてhpeesofd、IC-CAP 2001,2002/ ADS 2002,2002C は agileesof、ADS 2003A/2003C,2004A では agileesofd になります。

ライセンス・ファイル (license.lic)

ライセンス・ファイル (license.lic) はテキスト・ファイルです。Windows®付属のメモ帳で編集したり、プリンタに出力することができます。

以下が、ライセンス・ファイル (license.lic)の記述例です。

ノードロック専用のライセンス・コードワード

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 28-apr-2006 uncounted ¥
  VENDOR_STRING="9-08C99148 : KMYMQAR FZAWDGX YDNSH1G Y2GPVZU ¥
  JCELDEU LOQLIWS JE1YMNB WJ1Y" HOSTID=FLEXID=9-08C99148 ¥
  SIGN="0013 126B 1326 5566 5A59 A509 E999 2E8F 453B 5C0E 6E01 ¥
  90C0 1B77 4B40 A369 C489 977C 0A71 7ED8 E17B 319C"
```

この形式のライセンス・コードワードは、**HOSTID=** で示された **FLEXid** を持つハードウェア・キーを備えるコンピュータのみでご利用いただけます。

ライセンス管理デーモンを起動する必要はありません。

ライセンス管理デーモンが管理するライセンス・コードワード

```
SERVER licserver FLEXID=9-08C99148
VENDOR agileesofd

INCREMENT sim_linear agileesofd 2.34 28-apr-2006 1 ¥   ノードロック
  VENDOR_STRING="9-08C99418 : UKJU1YM LHYKAQC OMDNCWF OTMXYDG ¥
  XAHBGCT Z2DLFKW 2MW" HOSTID= FLEXID=9-08C99148 SIGN="0190 D140 E422 ¥
  DAB8 6A52 79C6 E5E9 A4EC 27CD FEDE 9B00 E318 C56A F734 209C ¥
  F17D E50C E505 6CBA 9905 CDB5"
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 28-apr-2006 3 ¥   フローティング
  VENDOR_STRING="9-08C99418 : MMUIWQU LPBVYAH XDAXLNO GIAHPBC ¥
  REYDXGC TQKDCYA RW1QGNP G" SIGN="029E D21D E210 939C 5745 3EBC ¥
  C5A1 6005 240F 55DE 5F03 D04A 7A6F BDA6 62FD AE1B 8478 6E31 ¥
  169E 86E9 D004"
```

SERVER行、および、**VENDOR**行を持つライセンス・ファイルの場合、**VENDOR_STRING=**で示される **FLEXid** を持つハードウェア・キーを備えるコンピュータをライセンス・サーバとして設定し、ライセンス管理デーモンを起動しなければなりません。

上記は、ノードロック・ライセンスとフローティング・ライセンスが混在したファイルの例です。ノードロック・ライセンスについては、**HOSTID=** で示された **FLEXid** を持つハードウェア・キーを備えるコンピュータのみでご利用いただけます。

license.lic ファイルの書式は、発行された対象となる ADS のバージョンによって多少異なります。

(3) ライセンス・サーバとライセンス・クライアント

ここでは、「ライセンス・サーバ」と「ライセンス・クライアント」の違いについて説明します。

ライセンス・サーバ

ライセンス・サーバとは、ライセンスを供給するコンピュータを指します。前述の license.lic ファイルの中では SERVER で始まる行に、「ホスト名」と「CPU-ID」が記述されています。これは、ライセンス発行時のみ指定可能で、「CPU-ID」をユーザが後から変更することはできません。「ホスト名」は変更可能です。

ライセンス・サーバのコンピュータでは、前述した lmgrd と agileesofd が実行されている必要があります。もし、SERVER 行が複数個あれば、それぞれのコンピュータで lmgrd を実行する必要があります(冗長ライセンス・サーバと呼びます)。

ライセンス・クライアント

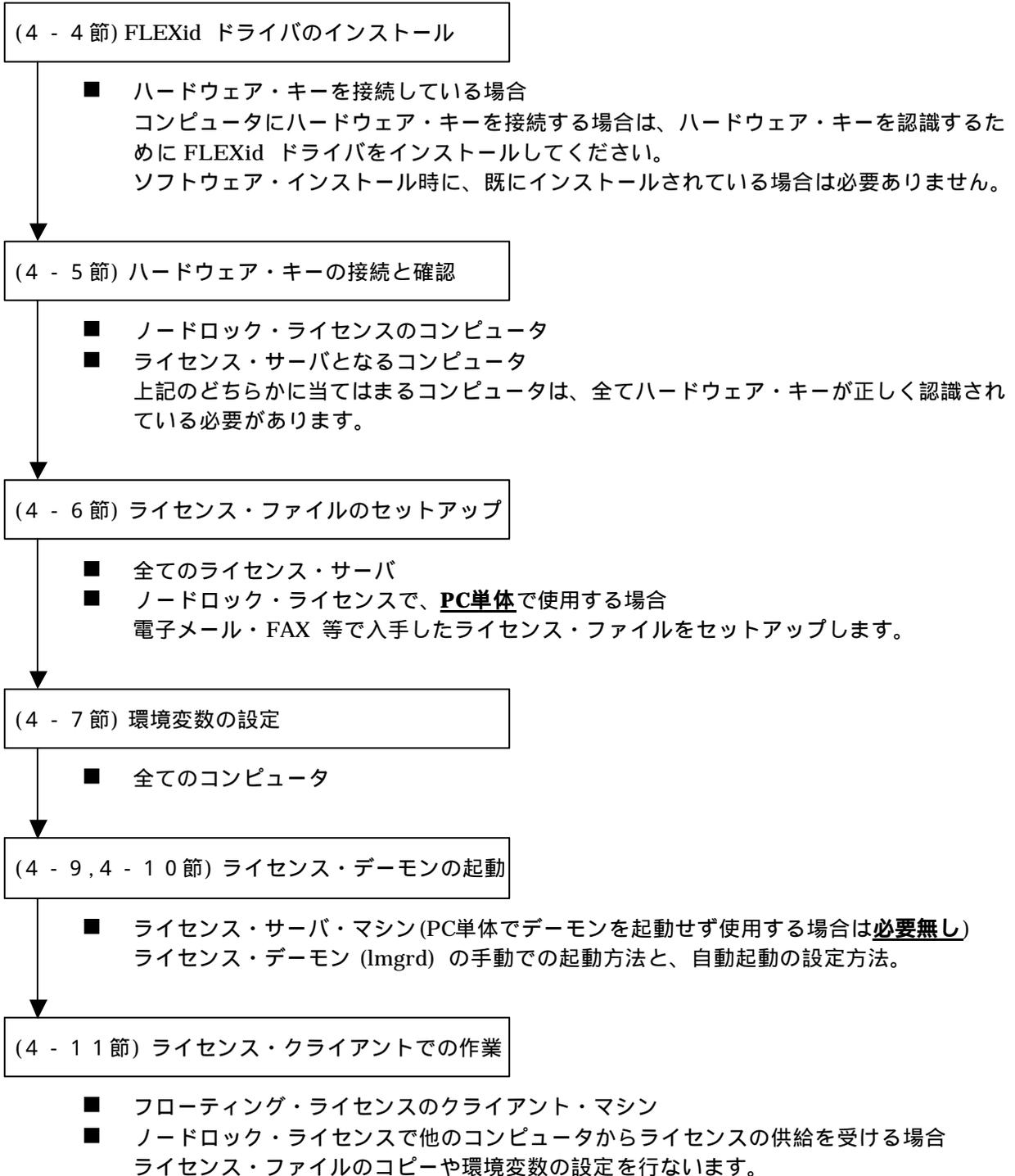
ライセンス・クライアントとは、ライセンス・サーバからライセンスを受け取って、実際にアプリケーション・ソフトウェアを実行するコンピュータを指します。

ノードロック・ライセンスの場合、前述した license.lic ファイルの中の INCREMENT 行に含まれる「HOSTID=<CPU-ID>」で指定されています。

ライセンス・クライアントでは、lmgrd と agileesofd を実行しては**いけません**。

4 - 3 セットアップの手順

ライセンス関連のセットアップの手順について示します。



4 - 4 FLEXid ドライバのインストール

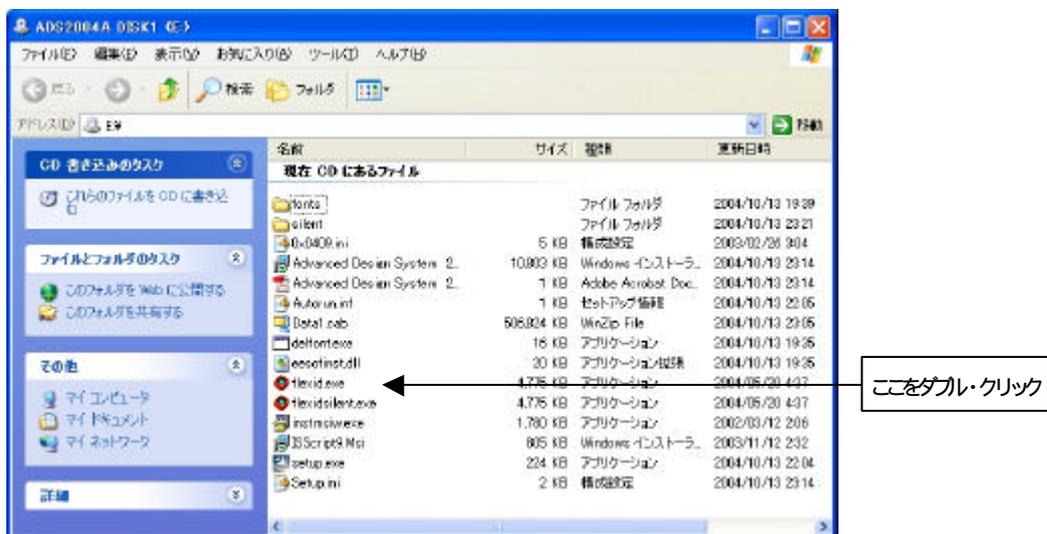
ハードウェア・キーを使用する場合は、ハードウェア・キー検出のために、PC に FLEXid ドライバをインストールする必要があります。FLEXid ドライバは、ADS 2004A PC Setup Program Disk 1 に収録されています。

重要 既に、ADS 2003C 以前のバージョンのインストール時に FLEXid ドライバをインストールされている場合でも、**ADS 2004A 付属の FLEXid ドライバをインストールする必要があります。**

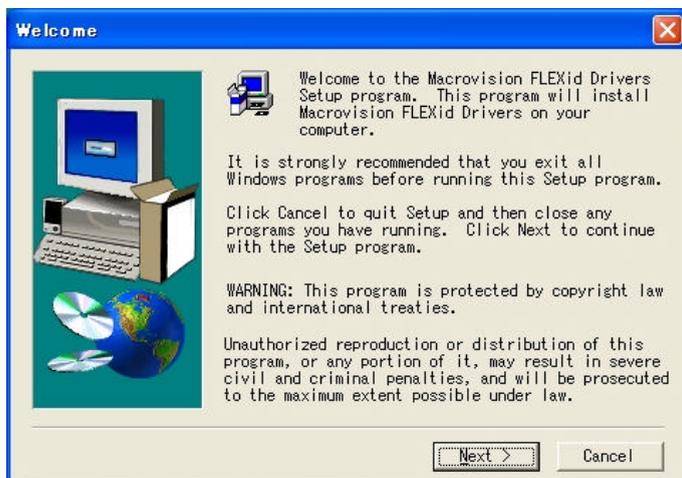
ADS 2004A を使用する場合は、必ずインストールしてください。FLEXid ドライバを更新しても、旧バージョンの ADS は問題なく利用できます。

FLEXid ドライバのインストール・プログラムは、ADS 2004A PC Setup Program Disk 1 に収録されている、“flexid.exe” を実行することによって起動できます。下記の手順は起動方法の一例です。

- (1) ADS 2004A PC Setup Program Disk1 を CD-ROM ドライブに挿入します。
ADS 2004A のインストール・プログラムが自動起動した場合は、キャンセルします。
- (2) エクスプローラを起動します。
- (3) CD-ROM ドライブの “flexid.exe” を起動します。“flexid.exe” はエクスプローラの設定によって、“flexid” と表示される場合があります。



- (4) インストール・プログラムが起動します。[Next >] をクリックすると、インストールが始まります。



- (5) インストールが終了すると下図のウィンドウが現れますので、すぐにコンピュータの再起動をするならそのまま [Finish] ボタンをクリックします。
再起動を後で行なう場合は、“ No, I will restart my computer later. ” を選択して [Finish] ボタンをクリックしてください。
これで FLEXid ドライバのインストールは終了です。



注意 FLEXidドライバのインストール後、コンピュータの再起動は必須です。

“ No, I will restart my computer later. ” を選択した場合は、再起動処理を忘れずに行なってください。

4 - 5 ハードウェア・キーの接続と確認

ハードウェア・キーを装着するコンピュータは、次の2つの場合があります。

- ノードロック・ライセンスの場合
- フローティング(ネットワーク)・ライセンスのサーバ・マシンの場合

また、ハードウェア・キーには、現在以下の3種類があります。

- USB キー PCの USBポートに接続します。
(FLEXID=9-xxxxxxx)
- Dallasキー PCの平行(プリンタ)・ポートに接続します。黒色です。
(FLEXID=8-xxxxxxx)
- Sentinelキー PCの平行(プリンタ)・ポートに接続します。緑色です。
(FLEXID=7-xxxxxxx)

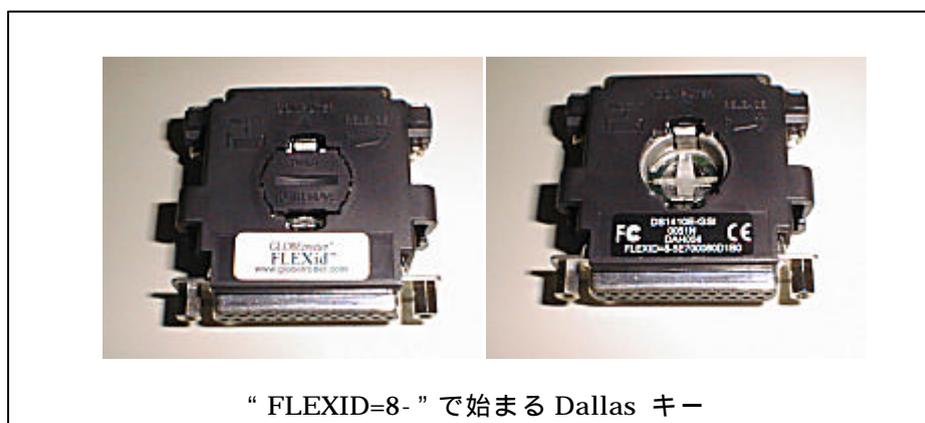


図 4 - 1 : ハードウェア・キーの見本
(ハードウェア・キーの形状は異なる場合があります)

(1) コンピュータにハードウェア・キーを装着します

重要 ハードウェア・キー、特に USB キーの接続前に、必ず FLEXid ドライバのインストールを行なってください。ドライバのインストール前に接続してしまいますと、ハードウェア・キーが正常に動作しなくなる恐れがあります。

ハードウェア・キーをコンピュータに取り付けます。それぞれ、対応するインターフェースの接続ポートに一つ以上の空きが必要となりますので、ご注意ください。

USB キーの場合は、空いている USB ポートに差し込んでください。差し込んだ時点で、Windows2000が新しいデバイスとして検出します。デバイスマネージャでは、USB コントロールの下に“Aladdin USB Key”として表示されます。

Dallas/Sentinel キーの場合は、パラレル・ポートにしっかりと差し込み、ネジを締めてください。

USB-パラレル・ポート変換アダプタ等経由では、正常に認識されません。

注意 パラレル・ポート接続型のハードウェア・キーをご利用の場合、PCの BIOS 設定でパラレル・ポートが無効(Disabled)になっていると、ハードウェア・キーを認識できない場合があります。パラレル・ポートが有効(Enabled、かつ、Bi-directional/EPP/ECP モード等の双方向通信モード)に設定されていることをご確認ください。

接続した後、PC を再起動する必要はありません。

注意 ハードウェア・キーには ID ナンバー (例: **FLEXID=8-5E00060D1B0**) が記載されています。コンピュータへ取り付ける前に、この **FLEXid** ナンバーを控えておいてください。ライセンス・コードワードを確認するときに必要になります。

(2) ハードウェア・キーの認識テストをします。

ハードウェア・キーのテストをしたい時や、ハードウェア・キー取り付け後にキーの FLEXID ナンバーを調べたいときは、コマンドプロンプトから次のコマンドを入力します。

注意 ハードウェア・キーを利用するためには、FLEXid ドライバがインストールされている必要があります。FLEXid ドライバについては、前節 4 - 4 を参照して下さい。

2004年12月現在、ハードウェア・キーは USB キー(“ FLEXID=9- ” で始まるもの)が採用されていますが、これ以前のパラレル・ポート接続型の Dallas キー(黒いハードウェア・キー; “ FLEXID=8- ” で始まるもの)、または Sentinel キー(緑色のハードウェア・キー; “ FLEXID=7- ” で始まるもの)を利用されている方で、以前 sentinel ドライバをインストールして利用できている場合でも、今回は新たに FLEXid ドライバをインストールする必要がありますのでご注意ください。

1. コマンドプロンプトを起動します。

■ Windows® 2000

[スタート] > [プログラム] > [アクセサリ] > [コマンドプロンプト] をクリックしてコマンドプロンプトを起動します。

■ Windows® XP

[スタート] > [すべてのプログラム] > [アクセサリ] > [コマンドプロンプト] をクリックしてコマンドプロンプトを起動します。

2. プロンプトで次のコマンドを実行します。

<書式> cd <installation directory>%licenses%bin

<例> cd C:%ADS2004A%licenses%bin

<installation directory> は ADS 2004A をインストールしたディレクトリを示します。

<例> は、“C:%ADS2004A” にインストールされている場合です。

3. 次に、ハードウェア・キーの ID を読み取るコマンドを実行します。

> Imutil Imhostid -flexid

(正しい結果) 以下のようなコマンドの結果が得られます。

```
Imutil - Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights reserved
The FLEXIm host ID of this machine is "FLEXID=8-5E700060D1B0"
Only use ONE from the list of hostids.
```

二行目の最後の、“FLEXID=8-5E700060D1B0”の部分がハードウェア・キーの番号です。
(三行目は、複数のハードウェア・キーが接続されている場合にのみ、表示されます)

(誤った結果 1)

```
Imutil - Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights reserved
The FLEXIm host ID of this machine is "00a0c90355bf"
```

この場合ハードウェア・キーではなく、LAN-ID が出力されています。コマンドに入力間違いが無いかどうか、もう一度お確かめ下さい。

(誤った結果 2)

```
Imutil - Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights reserved
The FLEXIm host ID of this machine is ""
Imhostid: Can't read dongle: check dongle or driver (-110,511:42 "Illegal byte s
equence")
```

この場合は、ハードウェア・キーが認識されていません。以下の項目をもう一度お確かめ下さい。

- ハードウェア・キーが USBポート、または、パラレル・ポートにきちんと接続されているでしょうか？
もう一度お確かめください。
- FLEXid ドライバのインストールを行ないましたか？
行っていない場合は、4 - 3 節を参考に実施してください。
- ハードウェア・キーにさらにプリンタを接続していますか？
接続している場合は一度プリンタを外してもう一度チェックしてみてください。(プリンタは電源を切るだけでなく、ケーブルをコネクタから外してお試しください)
- PC 本体の BIOS でのパラレル・ポートの設定は入出力が可能な状態になっているでしょうか？
通常パラレル・ポートにはプリンタ等、出力専用の周辺装置を接続することが多く、出力のみの設定になっている場合があります。コンピュータ起動時の BIOS 設定のメニューを起動し、パラレル・ポートの設定を確認してください。この設定はコンピュータの機種に依存しますので、詳細はご使用になられているコンピュータのマニュアル等を参照してください。

注意 パラレル・ポートにハードウェア・キーを取り付け、さらにプリンタもつないだ場合に、OS/プリンタ/ドライバの組み合わせによっては、ハードウェア・キーを認識できなかったり、プリンタが動作しなかったりする場合があります。この場合、もう1枚別にパラレル・ポート増設ボードを用意し、こちらにプリンタを接続する方法があります。

(誤った結果 3) 以下のようなコマンドの結果が得られます。

```
Imutil - Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights reserved.
The FLEXIm host ID of this machine is "FLEXID=8-5E700060D000"
```

ハードウェア・キーに印刷された FLEXid ナンバー“FLEXID=8-5E700060D1B0”であるのに、1～数バイト分誤った表示が現れる、または“FLEXID=8-000000000000”のように全て 0 が表示されてしまう場合は、ハードウェア・キーの故障が考えられます。このような場合は、**EDAテクニカルサポート**までご連絡ください。

4. “**exit**”と入力すると、コマンドプロンプトを終了することができます。

4 - 6 ライセンス・ファイルの作成と設置

ADS 2004A では ライセンス管理に FLEXlm が用いられています。FLEXlm では、ライセンスの情報を license.lic (または、license.dat) ファイルで管理しています。license.lic ファイルは決められたディレクトリに存在する必要があります。これはノードロック・ライセンス下でも、フローティング・ライセンス下でも同様です。license.lic ファイルの標準インストール先は
“<installation directory>¥licenses” ディレクトリ (例えば、C:¥ADS2004A¥licenses)
です。

この節では、この license.lic ファイルの作成を行いません。

参考 FLEXlmは、アメリカ合衆国 Macrovision社(旧 GLOBEtrotter社)が開発した、ライセンス管理ソフトウェアの名称です。

ライセンス・ファイルのセットアップ方法は、ライセンス・デーモンを起動する場合/しない場合・既存のサーバを使用する場合に、作業が若干異なってきます。ライセンス・デーモンとは、ソフトウェアがライセンスの数だけ正しく使用されるように管理を行なうソフトウェアを指します。それぞれの場合に必要な作業を以下にまとめています。

- ライセンス・デーモンを起動しない場合 次ページ(1)の作業を行なってください
PC単体で、ノードロック・ライセンスの製品のみを使用する場合は、この方法をとります。

ライセンス・ファイルに **SERVER行 / VENDOR行の記述が無く**、ライセンスの本数が **uncounted** と記述されているものが対象となります。

ライセンス・ファイルを受け取ったら、license.lic ファイルを所定のパスに保存するだけで終了です。次ページの(1)の手順のみを行なってください。

- ライセンス・デーモンを起動する場合 次々ページ(2)の作業を行なってください
フローティング・ライセンスの場合は、ライセンス・デーモンを起動する必要があります。また、ノードロック・ライセンスの場合で、他のコンピュータからライセンスの供給を受ける場合もライセンス・サーバの起動が必要です。

ライセンス・ファイルに **SERVER行 / VENDOR行の記述が有り**、ライセンスの本数が **uncountedではなく数字** で記述されているものが対象となります。

サーバ・マシンに license.lic ファイルを設置し、ライセンス・デーモンを起動します。クライアント・マシンでの作業は、4 - 11 節を参照してください。

- 他のライセンス・サーバからライセンスの供給を受ける場合
既に ADS 2004A のライセンス・サーバが他のコンピュータで動いている場合は、この方法を選択することができます。
フローティング・ライセンスをご利用いただく場合は手続き不要ですが、新たなノードロック・クライアントを設定する場合は、ライセンスの請求時に、既存のサーバの情報をお知らせしていただく必要があります。

受け取ったライセンス・ファイルをサーバ側の既存のライセンス・ファイルに追加し、再読み込み処理を行いません。

サーバはPCだけでなく、UNIX サーバからもライセンスを取得することができます。

(1) license.lic ファイル作成 (PC一台でノードロック・ライセンスを使用する)

送られてきたライセンス・ファイルを所定のディレクトリに置きます。ライセンス・ファイルは通常、“<Installation Directory>%licenses” ディレクトリに“license.lic”という名前で作ります。ADS 2004A がインストールされているディレクトリを、“C:%ADS2004A” とすると、“C:%ADS2004A%licenses%license.lic” となります。

■ ライセンス・ファイルを受け取ったら、所定の場所にライセンス・ファイルを置きます。

license.lic ファイルの内容は、以下のようになります。

```
INCREMENT ads_datadisplay agileesofd 2.34 08-nov-2006 uncounted ¥
  VENDOR_STRING="7-36C70F19 : DDNLFLA WZBCYQ2 AUJXJ2E IEKCKLI ¥
  WFYQNVN DNJU1YM LHYKAQC OM" HOSTID=FLEXID=7-36c70f19 SIGN="0010 ¥
  18B6 3D5D F3FE 9759 4B1A 7C5C A15D 0E0B A871 7300 585B B0C0 ¥
  D085 9278 DEE0 674D 9E3D 2E02 CC95 26FD"
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 08-nov-2006 uncounted ¥
  VENDOR_STRING="7-36C70F19 : MMUIWQU LPBVYAH XDAXLNO GIAHPBC ¥
  REYDXGC TQKDCYA RW1QGNP G" HOSTID=FLEXID=7-36c70f19 SIGN="029E ¥
  D21D E210 939C 5745 3EBC C5A1 6005 240F 55DE 5F03 D04A 7A6F ¥
  BDA6 62FD AE1B 8478 6E31 169E 86E9 D004"
(以下省略)
```

注意 現在、PC単体でのノードロック・ライセンスの場合は、以前と違いライセンス・ファイルの最初に **SERVER, DAEMON, VENDOR 等の行が入っていません**。この形式のライセンスでは INCREMENT行に記された、ライセンス本数が **uncounted** となっています。
INCREMENT 行のみのライセンス・ファイルが正しい形ですので、SERVER, DAEMON, VENDOR 行等を特に付け加えずご利用になれます。

重要 ライセンス・ファイルの設置ディレクトリには、**最新の有効なライセンス・ファイル以外のファイルは絶対に置かないでください**。
ADS 2004A では、ライセンスの設置ディレクトリ中のファイルを自動的に検索して、ライセンス・コードワードを探す機能があります。よって、このディレクトリに無効なライセンス・ファイルや、バックアップ用のライセンス・ファイル(例えば、license.lic.bak 等)があると、正しいライセンスセットアップを行なっても、ADS 2004A が起動しない場合があります。

ノードロック・ライセンスの場合は、以上で license.lic ファイルの設定は終了です。
4 - 7 節「環境変数の設定/確認」に進んでください。

(2) license.lic ファイル作成 (ライセンス・サーバが必要な場合)

送られてきたライセンス・ファイルを所定のディレクトリに置きます。ライセンス・ファイルはどこに置いても構いませんが、混乱を避けるために通常は “<Installation Directory>¥licenses” ディレクトリに “license.lic” という名前で置きます。

ADS 2004A がインストールされているディレクトリを “C:¥ADS2004A” とすると、“C:¥ADS2004A¥licenses¥license.lic” となります。

送付されてきた license.lic ファイルの内容は、通常以下ようになります。

```
SERVER unknown FLEXID=7-36c70f19
VENDOR agileesofd

INCREMENT ads_datadisplay agileesofd 2.34 08-nov-2006 2 ¥
    VENDOR_STRING="7-36c70f19 : DDNLFLA WZBCYQ2 AUJXJ2E IEKCKLI ¥
    WFYQNVN DNJU1YM LHYKAQC OM" SIGN="0010 18B6 3D5D F3FE 9759 ¥
    4B1A 7C5C A15D 0E0B A871 7300 585B B0C0 D085 9278 DEE0 674D ¥
    9E3D 2E02 CC95 26FD"
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 08-nov-2006 2 ¥
    VENDOR_STRING="7-36c70f19 : MMUIWQU LPBVYAH XDAXLNO GIAHPBC ¥
    REYDXGC TQKDCYA RW1QGNP G" SIGN="029E D21D E210 939C 5745 3EBC ¥
    C5A1 6005 240F 55DE 5F03 D04A 7A6F BDA6 62FD AE1B 8478 6E31 ¥
    169E 86E9 D004"
(以下省略)
```

次に license.lic ファイルの編集を行ないます。

(3) SERVER行の編集

ライセンス・サーバが必要な場合は、license.licファイルの最初の SERVER から始まる行をご使用になっているコンピュータの設定に合わせて編集する必要があります。SERVER 行の書式および、その設定例を以下に示します。その次に各項目の詳しい説明を示しますので、各パラメータをご使用になっている環境に合わせて設定してください。

<書式> **SERVER** ホスト名 **FLEXID=ホストID** **[TCP/IPポート番号]**

<例 1 > SERVER edapc01 FLEXID=7-36c70f19 27000

<例 2 > SERVER edapc02 FLEXID=7-36c70f19

1. ホスト名の入力

ホスト名には、フローティング・ライセンスの「ライセンス・サーバ・マシンのホスト名」を入力してください。ホスト名がわからない場合は、以下の手順で調べてください。不安であればネットワーク管理者に確認する方法が一番確実です。

以下の作業は、ライセンス・サーバ・マシン上で行ないます。

■ Windows® 2000

1. [スタート] > [設定] > [コントロール 補] をクリックして開きます。
2. [システム] アイコンをダブル・クリックして、[システムのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。
3. [ネットワークID] タブを選択すると [フル コンピュータ名] が書かれています。

■ Windows® XP

1. [スタート] > [コントロール 補] をクリックして開きます。
2. [パフォーマンスとメンテナンス] を開き、[システム] アイコンをクリックして、[システムのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。
3. [コンピュータ名] タブを選択すると [フル コンピュータ名] が書かれています。

2. host-id (FLEXid) の確認

ホスト名の次は “FLEXID=host-id” の書式で host-id が書かれています。Windows®版の場合は、この値は ハードウェア・キーのIDナンバー のことを指しており、**FLEXid ナンバー** と呼びます。

送付されてきたコードワード・ファイルには、サーバ・マシンに接続されているハードウェア・キーの FLEXid ナンバーが既に書かれているはずですので、同じかどうか確認してください。なお、FLEXid ナンバーを忘れてしまった時は 4 - 5 節を参照して FLEXid ナンバーを調べてください。

発行されたライセンス・ファイルに記載された “host-id” と、ハードウェア・キーの “host-id” (調べる方法は 4 - 5 節参照) が異なっている場合は、ライセンス・コードワードが間違っている可能性があります。お手数ですがコードワード発行受付までお問い合わせください(お問合せ先に関しては、9 - 1 節を参考にしてください)。

3. TCP/IPポート・アドレス(省略可)

SERVER行の最後で FLEXlm License Manager Daemon(lmgrd)が使用する、TCP/IPポート・アドレスを指定することができます。

何も書かれていない場合は、システムの規定値(27000~ 27009の範囲)が使用されます。

もし別のFLEXlm デーモンや、その他のプロセスがこのポートを使用している場合は、この番号を変更します。セキュリティ管理の為、使用する TCP/IPポートを制限したい場合も、このパラメータで設定を固定することができます。

もし詳しいことが分からなければ、送付されてきたままの状態でご使用ください。

(4) VENDOR行の編集(ベンダ・デーモンの設定)

VENDOR行の書式、および、その例を以下に示します。各パラメータの詳しい内容をその次に示してあります。

<書式> VENDOR ベンダ・デーモン名 [**<ベンダ・デーモンのパスと名前>**] ¥
[**<オプション・ファイルのパスと名前>**] [[**port=<TCPポート番号>**]

<例 1 > VENDOR agileesofd C:¥ADS2004A¥licenses¥vendors¥agileesofd ¥
C:¥ADS2004A¥licenses¥options¥local.option

<例 2 > VENDOR agileesofd

<例 3 > VENDOR agileesofd port=1052

1. ベンダ・デーモン名
VENDOR の次のフィールドにはベンダ・デーモンの名前が入ります。このフィールドには配布時に “agileesofd” と書き込まれているはずですが、これは変更できません。
2. ベンダ・デーモン・パス(省略可)
次のフィールドはベンダ・デーモンの実行ファイルのパスとファイル名を示しています。省略されている場合は、ADS 2004A がインストールされているディレクトリの、<Installation Directory>¥licenses¥bin¥agileesofd が使用されます。
3. 改行マーク
行末にある “¥” マークは、DAEMON行の内容が次の行に継続することを表しています。
4. オプション・ファイル・パス(省略可)
次(二行目)はオプション・ファイルのパスとファイル名を示しています。オプションを付けることにより、ソフトウェアをどのマシンで誰が使用できるか等の制限を設けたりすることができます。特に使わない場合は省略していただいて問題ありません。
(ただし、<例 1 >の場合は、この行を消した時に前行の最後の “¥” マークも消しておいてください)
5. TCP/IPポート番号(省略可)
VENDOR行の最後に Vendor Daemon(agileesofd) が使用する、TCP/IPポート・アドレスを指定することができます。
何も書かれていない場合は、ランダムに空いているポートが使用されます。

通常、VENDOR行での TCP/IPポート番号指定は不要ですが、セキュリティ管理の為、使用可能な TCP/IPポート・アドレスが制限されている場合は、このオプションで設定を行ってください。

(5) SEVER,VENDOR 行以外の行について

INCREMENT 行など、SERVER,VENDOR 以外の行については、ユーザが編集することはできません。これらの行を編集するとライセンスを正しく取得できなくなりますので、ご注意ください。

ADS 2001 / IC-CAP 5.3 以前の弊社製品や他社製品において FLEXIm ライセンス・ファイルに、VENDOR 行の代わりに DAEMON 行が用いられている場合があります。その場合、ライセンス・ファイルをマージすると、VENDOR 行、DAEMON 行が混在しますが特に問題はありません。

参考 ADS 2001 以前の弊社製品の FLEXIm ライセンス・ファイルには、VENDOR 行の代わりに DAEMON 行が用いられています。ライセンス・ファイルをマージする場合等は、VENDOR 行、DAEMON 行が混在しても問題はありません。

4 - 7 環境変数の設定/確認

環境変数 “AGILEESOFD_LICENSE_FILE” の設定/確認を行ないます。

環境変数 “AGILEESOFD_LICENSE_FILE” は、ライセンスの所在を表す文字列型の変数です。ファイルのパスを指定する方法と、ネットワーク上の所在を指定する方法があります。

■ ファイルの設置場所を指定する方法

PC単体でノードロック・ライセンスを使用する場合はこの方法を使います。

また、ライセンス・サーバが起動していてそこからライセンスを得る場合でも、使用するクライアントPC上にライセンス・ファイルがある場合は、この方法が使用できます。

環境変数 “AGILEESOFD_LICENSE_FILE” に、license.lic ファイルの場所をフル・パスで指定します。ADS 2004A がインストールされているディレクトリが “C:¥ADS2004A” の場合は、通常 “C:¥ADS2004A¥licenses¥license.lic” になります。

■ ライセンスのネットワーク上の所在を指定する方法

ライセンス・サーバからライセンスを取得する場合は、“ポート番号@ホスト名” で指定することもできます。この方法で指定すると、ライセンス・ファイルをクライアントのPCにコピーする必要がないため、ライセンス・ファイルがサーバで変更された時に便利です。

例えば、サーバ・ホスト名 “edasvr”、TCP/IPポート番号 “27000” の場合は、

“AGILEESOFD_LICENSE_FILE= 27000@edasvr” と指定します。

また、ポート番号に 27000 ~ 27009 を使用している場合は、ポート番号を省略する事ができます。先程の例では、“AGILEESOFD_LICENSE_FILE = @edasvr” と記述する事もできます。

注意 以前はライセンス・ファイルの所在は、環境変数 “LM_LICENSE_FILE” で行なっていたが、ADS 2004A では通常 “**AGILEESOFD LICENSE FILE**” のみで行ないます。

“AGILEESOFD_LICENSE_FILE” と “LM_LICENSE_FILE” が両方存在する場合は

“**AGILEESOFD LICENSE FILE**” のみ有効になります。

また “AGILEESOFD_LICENSE_FILE” 環境変数を設定した場合で “LM_LICENSE_FILE” を使用しない場合は、混乱を避ける為 “**LM_LICENSE_FILE**” 環境変数を削除しておくことを、**強くお勧めします**。

<環境変数と ADS の各バージョンの対応表>

	ADS 2003A/C / 2004A	ADS 2002 / 2002C	ADS 2001 以前
AGILEESOFD_LICENSE_FILE		x	x *1
AGILEESOF_LICENSE_FILE	x		x *2
LM_LICENSE_FILE	x	x	

(*1) AGILEESOFD_LICENSE_FILE が存在する場合、AGILEESOFD_LICENSE_FILE のみ有効

(*2) AGILEESOF_LICENSE_FILE が存在する場合、AGILEESOF_LICENSE_FILE のみ有効

ADS 2003A / 2004A と ADS 2002 / 2002C を同時に使用する場合、
“AGILEESOFD_LICENSE_FILE” と “AGILEESOF_LICENSE_FILE” をそれぞれ設定する
必要があります。

以下に、Windows® での環境変数の設定方法について簡単に解説します。詳細については、マイクロソフト社 Windows® のマニュアルや、オンラインヘルプを参考にしてください。

(1) Windows® 2000

1. [スタート] > [設定] > [コントロール 補] アイコンを選択します。[コントロール 補]中の [システム] アイコンをダブル・クリックし、[システムの 補 補] ダイアログ・ボックスを開きます。
2. [詳細] タブをクリックして選択します。
3. [環境変数] ボタンをクリックすると環境変数ダイアログ・ボックスが開きます。
4. システム環境変数フィールドの[新規]ボタンをクリックし、
[変数名] 欄に “AGILEESOFD_LICENSE_FILE”、
[変数値] 欄にライセンス・ファイルのパス
を入力します。
5. [OK] ボタンをクリックして設定を完了します。

(2) Windows® XP

1. [スタート] > [コントロール 補] アイコンを選択します。[コントロール 補]中の [パフォーマンスとメンテナンス] を開き、[システム] アイコンをクリックして、[システムの 補 補] ダイアログ・ボックスを開きます。
2. [詳細設定] タブをクリックして選択します。
3. [環境変数] ボタンをクリックすると環境変数ダイアログ・ボックスが開きます。
4. システム環境変数フィールドの[新規]ボタンをクリックし、
[変数名] 欄に “AGILEESOFD_LICENSE_FILE”、
[変数値] 欄にライセンス・ファイルのパス
を入力します。
5. [OK] ボタンをクリックして設定を完了します。

フローティング・ライセンスの場合は、この後、サーバ・マシンでライセンス・デーモン(lmgrd)を起動する必要がある。次の 4 - 8 節に進んでください。

参考 複数のライセンス・ファイル(license.lic)を参照するには、環境変数
“AGILEESOFD_LICENSE_FILE” を以下のように設定します。

AGILEESOFD_LICENSE_FILE=27000@server1 ; 27001@server2

上記のように、複数の参照先をセミコロン(;)で区切って定義します。この場合、最初(左側)に定義したライセンス・ファイルの方が先に参照されますので、ノードロック・ライセンスのライセンス・ファイルの方を最初(左側)に定義してください。

参考 Windows®版 ADSの環境変数は、レジストリにも登録されています。レジストリは各 ADSのバージョン毎に作成されており、ADS 2004Aの場合は下記のレジストリ・キーの下になります。

[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Agilent\ADS\2.7]

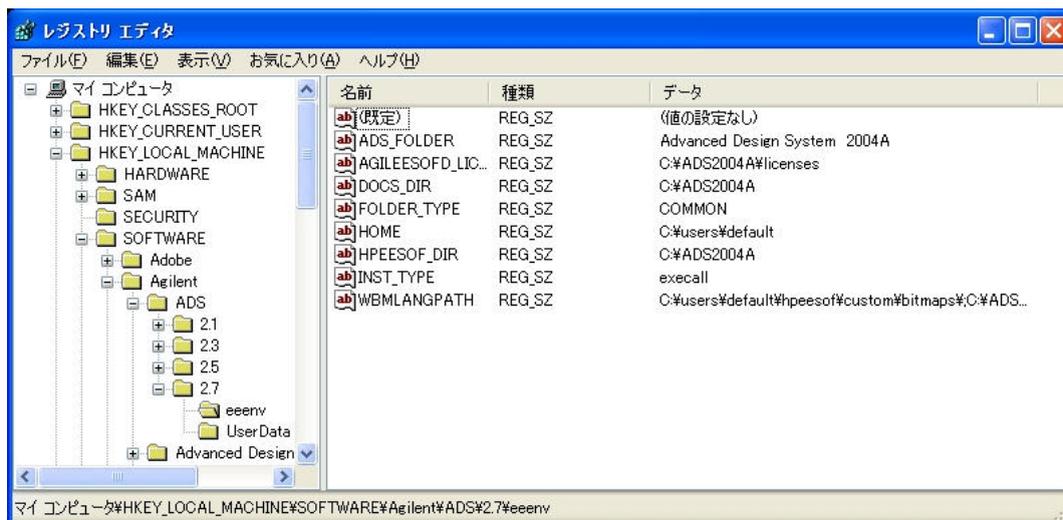
「システムのプロパティ」で環境変数を定義した場合は、その設定がレジストリ設定値よりも優先して使用され、全てのバージョンの ADSに対して適用されます。

逆に「システムのプロパティ」では環境変数を定義せず、レジストリで各バージョン毎に独立した設定を行なうこともできますので、同じコンピュータで複数バージョンの ADSを併用する場合は便利です。

レジストリの編集には Windows® OSのレジストリ・エディタを使用します。レジストリには OSやアプリケーションの動作に関する重要な設定が記録されています。設定を誤ると、アプリケーション、或いは、OS そのものの動作に支障を来たす場合がありますので、編集を行なう際は十分にご注意ください。

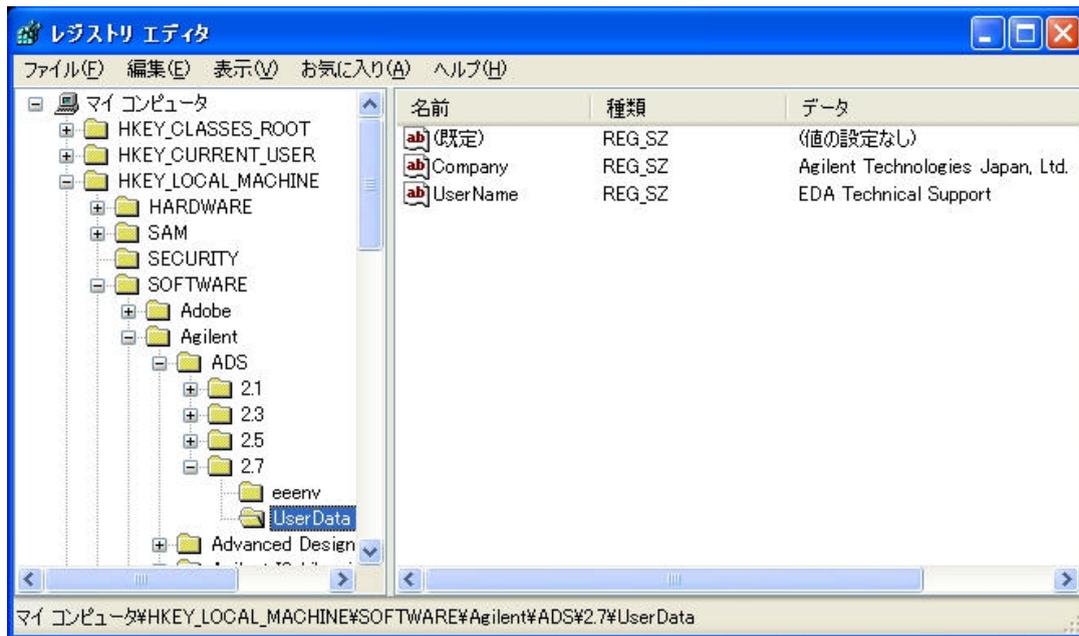
以下に ADS 2004Aのレジストリ設定の例を示します。

eeenv キー



ADS_FOLDER	プログラム・フォルダの名前
AGILLESOFD_LICENSE_FILE	ライセンス・ファイルの場所
DOCS_DIR	オンライン・ドキュメントの場所
FOLDER_TYPE	プログラム・フォルダのタイプ
HOME	ホーム・ディレクトリ
HPEESOF_DIR	インストール・ディレクトリ
INST_TYPE	インストール形式
WBMLANGPATH	ビットマップ・ファイル検索パス

User Dataキー



Company

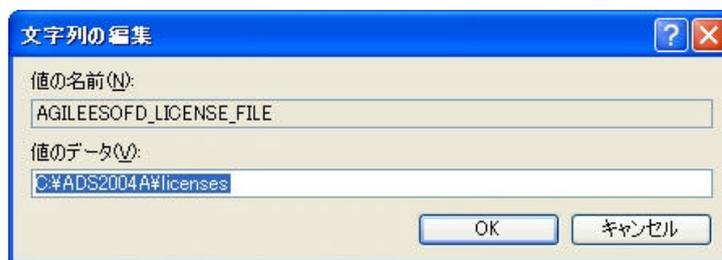
会社名

UserName

ユーザ名

これらの値は、3 - 3 節 (4) で入力していただいたものです。

値を変更する場合は、対象となる変数の名前をマウスでダブル・クリックしてください。
下図のようなダイアログ・ボックスが現れます。



[値のデータ:] フィールドに適切な設定を入力して、**[OK]** ボタンをクリックしてください。

レジストリの編集が完了したら、**[レジストリ] > [レジストリ エディタの終了]** でレジストリ・エディタを終了します。レジストリ・エディタの変更内容は、コンピュータを再起動しなくても反映されます。

4 - 8 ライセンス・デーモン(lmgrd)とは？

フローティング(ネットワーク)ライセンスの場合と、ノードロック・ライセンスを供給する必要がある場合は、ここでライセンス・デーモン(lmgrd)を起動する必要があります。PC 一台でノードロック・ライセンスを使用する場合は必要ありませんので、5章に進んでください。

(1) ライセンス・デーモンとは？

ライセンス・デーモンは、本製品を正当に使用していただくための、ライセンスを管理するソフトウェアのことを指します。ADS 2004A では、FLEXlm (**FLEX**ible **l**icense **m**anager) というライセンス管理ソフトウェアを使用しています。

フローティング(ネットワーク)・ライセンスを利用するためには、ライセンス・デーモン(License ManaGeR Daemon = lmgrd)をサーバ・マシンで起動する必要があります。

参考 デーモンとは常時動作している監視用プログラムのことです。FLEXlmの場合、クライアントからの要求を常に監視しており、要求があればライセンスを与えてよいかどうかを判断して、結果を送り返すプログラムです。

(2) ライセンス・サーバを立ち上げる場合において必要なもの

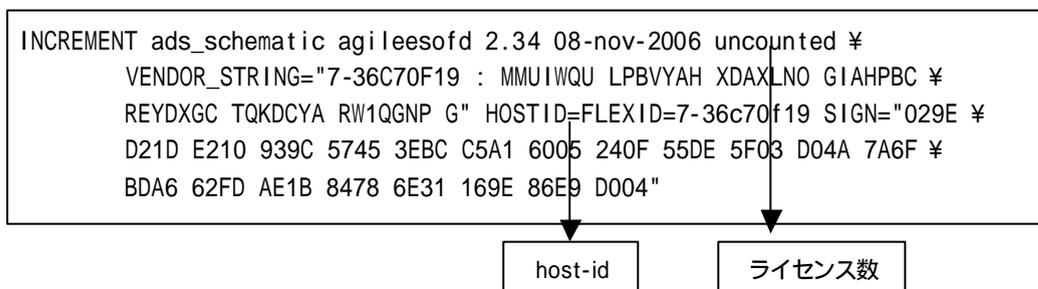
FLEXlm を利用する時は次の条件が必要です。

- **TCP/IP,IPX/SPX プロトコルがインストールされていること。**
確認方法は、8 - 2節「TCP/IP,IPX/SPX プロトコルのインストール」に示してありますので、そちらを参照してください。
IPX/SPX プロトコルは、ライセンスが LAN アドレスで発行されている時に必要です。
- **FLEXlmのソフトウェアがライセンス・サーバにインストールされていること。**
“<Installation directory>\licenses\bin” ディレクトリの中に、“lmgrd.exe” と “lmutil.exe” というファイルがあることを確認してください。
- **license.lic ファイルにライセンス・サーバの ハードウェア ID (PC では FLEXid) が含まれていること。**
ライセンス・デーモンは、license.lic ファイルの SERVER 行に記載されている FLEXid を持ったコンピュータで起動します。もし、お持ちのコンピュータの FLEXid と、license.lic ファイルに記載の FLEXid が異なる場合は、弊社コードワード発行受付までお問い合わせ下さい。

(3) ライセンス・ファイルの種類

ライセンスの形態によって、ライセンス・ファイルが違ってきます。ここではその見分け方について説明しています。

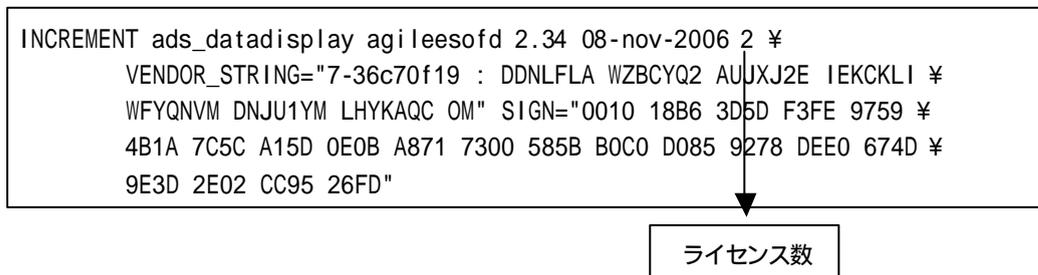
■ ノードロック・ライセンス



ライセンス数のフィールドが **uncounted** の場合は、無制限を意味しています。PC単体で使用するノードロック・ライセンスの場合は、uncounted になっています。ここがライセンスの本数を表す数字になっている場合は、PCでもライセンス・サーバを起動する必要があります。

無制限の記述は“ uncounted ”の他に、“ uncount ”，“ 0 ”の場合もあります。host-id のフィールドがあります。

■ フローティング・ライセンス



ライセンス数のフィールドは **1 以上の整数** (ライセンスの数) になっています
host-idのフィールドはありません

ライセンス・ファイルは、サーバ・マシンとクライアント・マシンの両方で必要となります。最初にサーバ・マシンでライセンス・ファイルのセットアップを行ったら、クライアント・マシンにも同じライセンス・ファイルをコピーしてください。

(ただし、“ AGILEESOFD_LICENSE_FILE = ポート番号@ホスト名 ”形式で指定する場合は、コピーは必要ありません)

4 - 9 lmgrd の起動および停止の方法

この節ではフローティング・ライセンスを利用するために必要な、lmgrd を手動で起動する方法、および lmgrd を停止する方法について説明します。

- (1) lmgrd の手動での起動法
lmgrd デーモンを起動する方法です。

参考 lmgrd を手動で起動することは、FLEXlm が正しく起動するかを確認するには、大変有効な方法ですが、一般的にサーバにおいて手動で起動することはお勧めいたしません。これは、起動を行なったコマンドプロンプトを FLEXlm が起動している間ずっと開いている必要があり、また、サーバ を再起動した場合には再起動後に再び手動で起動させる必要があるためです。特に問題がない場合には、4 - 10 節で紹介している、自動で起動させる方法をご利用ください。

1. コマンドプロンプトを立ち上げて次の命令を実行し、ディレクトリの移動を行ないます。

<書式> cd <Installation directory>%licenses%bin

< 例 > cd C:%ADS2004A%licenses%bin

例は、<Installation Directory> (ADS 2004A がインストールされているディレクトリ) が、“C:%ADS2004A” の場合です。

2. 次にライセンス・デーモンを起動します。

<書式> lmgrd -app -c <license.lic のパス>

< 例 > lmgrd -app -c C:%ADS2004A%licenses%license.lic

と、入力します。ただし、“-c” から後の部分 (<license.lic のパス>) は、license.lic ファイルのある場所のフル・パスを表しています。例は、最も標準的なインストールを行なった場合のものであります。

ライセンス・ファイルは“license.lic” というファイル名である必要はありませんが、混乱を避けるためにこの名前を使用することをお勧めします。

参考 lmgrd を手動で起動した場合でも、-l オプションを付けることで、ログを取得することが可能です。

<書式> lmgrd -app -c <license.lic のパス> -l <ログ・ファイルのパス>

コマンド実行後少しすると、正しくライセンス・デーモンが起動した場合は、コマンドプロンプト画面が他に二つ現れます。

一つ目は “ Imgrd: FLEXIm license server ” ウィンドウで、ここにはライセンス・デーモン Imgrd のログが表示されます。

```
10:45:22 (Imgrd) -----
10:45:22 (Imgrd) Please Note:
10:45:22 (Imgrd)
10:45:22 (Imgrd) This log is intended for debug purposes only.
10:45:22 (Imgrd) There are many details in licensing policies
10:45:22 (Imgrd) that are not reported in the information logged
10:45:22 (Imgrd) here, so if you use this log file for any kind
10:45:22 (Imgrd) of usage reporting you will generally produce
10:45:22 (Imgrd) incorrect results.
10:45:22 (Imgrd) -----
10:45:22 (Imgrd)
10:45:22 (Imgrd) Done rereading
10:45:22 (Imgrd) FLEXIm (v9.2 ) started on edasvr (IBM PC) (12/6/2004)
10:45:22 (Imgrd) Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights
reserved.
10:45:22 (Imgrd) US Patents 5,390,297 and 5,671,412.
10:45:22 (Imgrd) World Wide Web: http://www.macrovision.com
10:45:22 (Imgrd) License file(s): C:\ADS2004A\licenses\v9.2\license.lic
10:45:22 (Imgrd) Imgrd tcp-port 27000
10:45:22 (Imgrd) Starting vendor daemons ...
10:45:22 (Imgrd) Started agileesofd (pid 724)
16:45:22 (Imgrd) agileesofd using TCP-port 4012
```

ベンダ・デーモンが起動

Imgrd で使用されたTCPポート番号

使用されたライセンス・ファイル

二つ目は “ agileesofd: FLEXIm vendor daemon ” ウィンドウで、ここにはベンダ・デーモン agileesofd のログが表示されます。

```
10:45:21 (agileesofd) FLEXIm version 9.2
10:45:21 (agileesofd) Server started on edasvr for: ads_datadisplay
10:45:21 (agileesofd) ads_layout ads_schematic mom_vis
10:45:21 (agileesofd) momentum sim_harmonic sim_linear
```

正しく発行されているライセンス・リスト

ライセンス・デーモンの起動に失敗した時は、他のコマンドプロンプト画面が一瞬現れた後、lmgrd を実行したコマンドプロンプト画面に以下のメッセージが残ります。

```
10:55:22 (lmgrd) -----
10:55:22 (lmgrd)   Please Note:
10:55:22 (lmgrd)
10:55:22 (lmgrd)   This log is intended for debug purposes only.
10:55:22 (lmgrd)   There are many details in licensing policies
10:55:22 (lmgrd)   that are not reported in the information logged
10:55:22 (lmgrd)   here, so if you use this log file for any kind
10:55:22 (lmgrd)   of usage reporting you will generally produce
10:55:22 (lmgrd)   incorrect results.
10:55:22 (lmgrd) -----
10:55:22 (lmgrd)
10:55:01 (lmgrd)
10:55:01 (lmgrd) Running lmgrd in dedicated windows ...
10:55:01 (lmgrd)           Use -z to run in foreground in this window
```

この時、一瞬現れてすぐ閉じたウィンドウにエラー・メッセージが出ていますので、それを確認するために、-z オプションをつけて、再度 lmgrd コマンドを実行します。

```
C:¥ADS2004A¥licenses¥bin>lmgrd -app -c C:¥ADS2004A¥licenses¥license.lit -z
10:55:01 (lmgrd) -----
10:55:01 (lmgrd)   Please Note:
10:55:01 (lmgrd)
10:59:44 (lmgrd)
10:59:44 (lmgrd) pid 1352
license manager: can't initialize: Cannot find license file
The license files (or server network addresses) attempted are
listed below. Use LM_LICENSE_FILE to use a different license file,
or contact your software provider for a license file.
Filename:      C:¥flexlm¥license.dat
License path:  C:¥flexlm¥license.dat
FLEXlm error: -1,359. System Error: 2 "No such file or directory"
For further information, refer to the FLEXlm End User Manual,
available at "www.globetrotter.com".
10:59:44 (lmgrd) Using license file "C:¥flexlm¥license.dat"
```

ライセンス・ファイルが見つからないというメッセージ

ライセンス・ファイルが見つからないというメッセージが出ています。コマンドを確認してみると、license.lic の名前をlicense.lit と間違えているのがわかります。

(2) lmgrd の停止方法

lmgrd デーモンを止めるための手順を以下に示します。

1. コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行し、ディレクトリを移動します。

> cd <Installation directory>%licenses%bin

<Installation Directory> (ADS 2004A がインストールされているディレクトリ)が、“C:%ADS2004A” の場合は、“cd C:%ADS2004A%licenses%bin”と入力することになります。

2. 次に以下のコマンドを実行してライセンス・デーモンを停止します。

> lmutil lmdown -c <license.lic のパス>

と、入力します。約10秒ほどで、デーモンプロセスは終了します。ただし、“-c”から後の部分 (<license.lic のパス>) は、license.lic ファイルのある場所の絶対パスを表しています。

このコマンドで終了しない時は、起動した時の license.lic ファイルと止める時の license.lic ファイルが違っている可能性があります。license.lic ファイルのパスとファイル名をもう一度ご確認ください。

4 - 1 0 Imgrd の自動起動

コンピュータの起動時に自動的に Imgrd デーモンが起動するように設定できます。この節では Imgrd デーモンを自動起動させる設定の方法と、その設定の解除の方法について説明します。

注意 以前のバージョンの ADS(ベンダ・デーモン名が hpeesofd のもの) や、他の FLEXlm 製品のライセンスも同じPCで起動したい時は、ライセンス・ファイルをマージする方法があります。ライセンス・ファイルの結合方法については、4 - 1 3 節をご覧ください。マージしないで、同時に二つの Imgrd を自動起動したい時は、8 - 3 節をご覧ください。

注意 この操作は、Administrator 等の「サービスを変更できる権限のあるユーザ」でログインして行ってください。

(1) ライセンス・デーモンの自動起動

ここでは、ライセンス・デーモンの自動起動の設定方法について説明します。

Imgrd をサービスとして登録します。登録手順を以下で説明します。

1. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行しディレクトリの移動を行ないます。

> cd <Installation directory>%licenses%bin

ただし、<Installation Directory> は、ADS 2004A がインストールされているディレクトリを指します。標準的なインストールを行なった場合は、上記のコマンドは、“cd C:%ADS2004A%licenses%bin” と入力することになります。

更に次のコマンドを実行し、サービスのインストールを行ないます。

**<書式> install -n <サービス名> -e <Imgrdのパス> -c <license.licのパス>
-l <ログのパス>**

**<例 1 > install -n "FLEXlm License Manager for ADS2.34"
-e C:%ADS2004A%licenses%bin%Imgrd.exe
-c C:%ADS2004A%licenses%license.dat
-l C:%ADS2004A%licenses%flex234.log**

<サービス名> には、任意の名前を付けてください。この名前を用いてサービスの停止・削除を行ないます。

<Imgrdのパス> は、ADS 2004A の Imgrd.exe を、フル・パスで記述します。

<license.datのパス> は、ADS 2004A用の license.lic ファイルをフル・パスで指定します。

<ログのパス>は FLEXlm のログ・ファイルのパスを表します。

参考 Imgrd 起動時に、<ログのパス>を指定せずに **-I** オプションをつけて起動した場合には、**system32 ディレクトリ** (Windows® 2000ではC:¥winnt¥system32、Windows® XPでは C:¥windows¥system32) にログ・ファイルが作成されます。また、その際の名前は Imgrd.log や Imgrd.xxxx (xxxx は Imgrd のプロセスID) となります。

下記が実際にコマンドを実行した時の、表示例です。

```
C:¥> cd C:¥ADS2004A¥licenses¥bin
C:¥ADS2004A¥licenses¥ > installs -n "FLEXIm License Manager for ADS2.34"
-e C:¥ADS2004A¥licenses¥bin¥Imgrd.exe -c C:¥ADS2004A¥licenses¥license.lic
-l C:¥ADS2004A¥licenses¥flex234.log

FLEXIm License Manager is successfully installed
as one of your Windows Services. Some handy tips:

* The FLEXIm License Manager will be automatically started
  every time your system is booted.

* The FLEXIm service log file is Imgrd.log in your NT system
  directory.

* To remove FLEXIm License Manager, type 'installs -r'

*****
The permissions of one of the files that you just installed seems
to have the correct settings.
C:¥ADS2004A¥licenses¥bin>
```

サービス・インストールの実行例

2. サービスを確認します。

■ Windows® 2000 の場合

[スタート] > [設定] > [コントロール ʼ ʼ] で、コントロールパネルを開きます。

[管理ツール] アイコンをダブル・クリックして開きます。

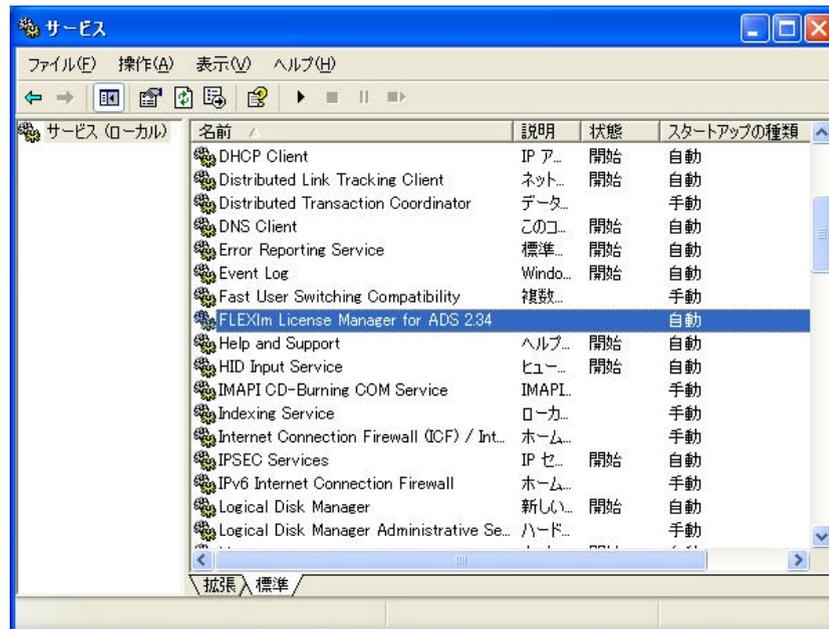
[サービス] アイコンをダブル・クリックすると、**[サービス]** ダイアログ・ボックスが現れます。

■ Windows® XP の場合

[スタート] > [コントロールパネル] > [パフォーマンスとメンテナンス] > [管理ツール] アイコンをダブル・クリックして開きます。

[サービス] アイコンをダブル・クリックすると、[サービス] ダイアログ・ボックスが現れます。

インストールしたサービスの [状態] 欄は空白になっており、まだサービスが開始されていないことを示します。



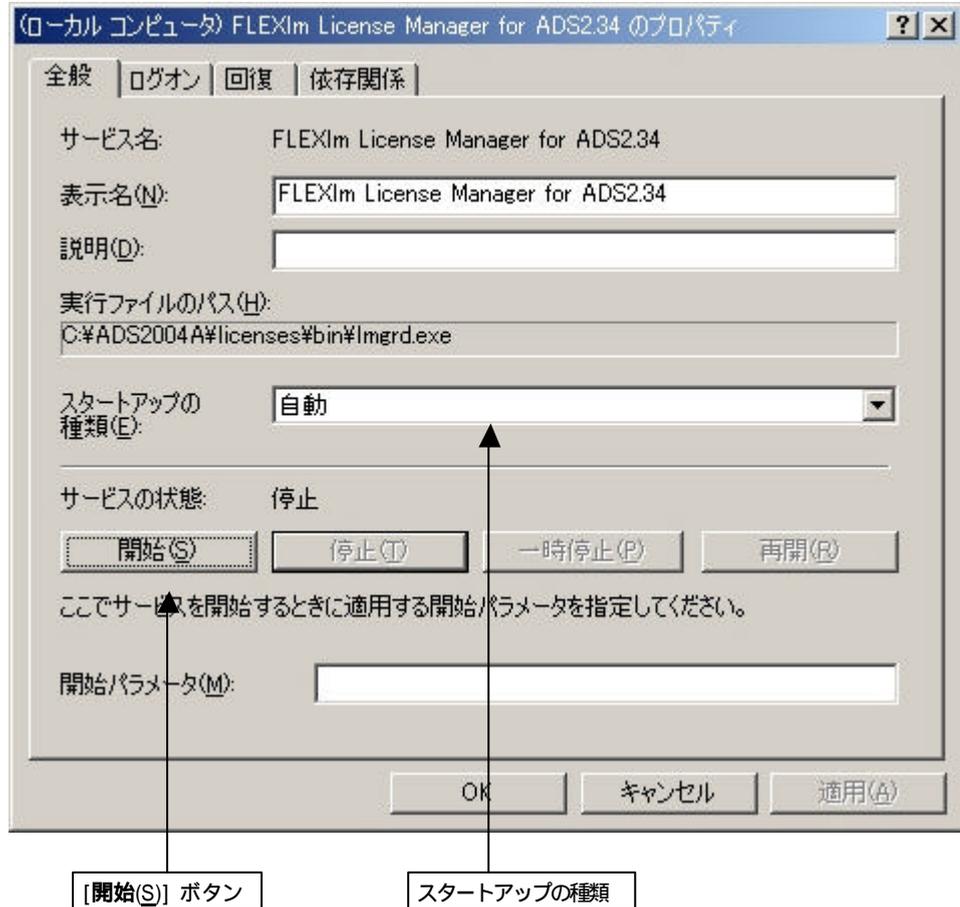
3. ダイアログ・ボックス中の一覧から、インストールしたサービスを選択して、サービスを **[開始]** させます。

サービスはコンピュータの再起動により自動的に開始しますが、手動で開始させる手順を以下に記します。

注意 この時、エラー・メッセージが表示されてサービスが開始されなかった場合は、インストール時の "lmgrd.exe" ファイルのパスが間違っている可能性があります。次の「**ライセンス・デーモン自動起動サービスの削除方法**」を参考に、一度サービスを削除した後、"lmgrd.exe" のパスを確認のうえ、再度インストールを行なってください。

■ Windows® 2000 の場合

FLEXlm License Manager for ADS2.34 をダブル・クリックします。下記のウィンドウが現れます。

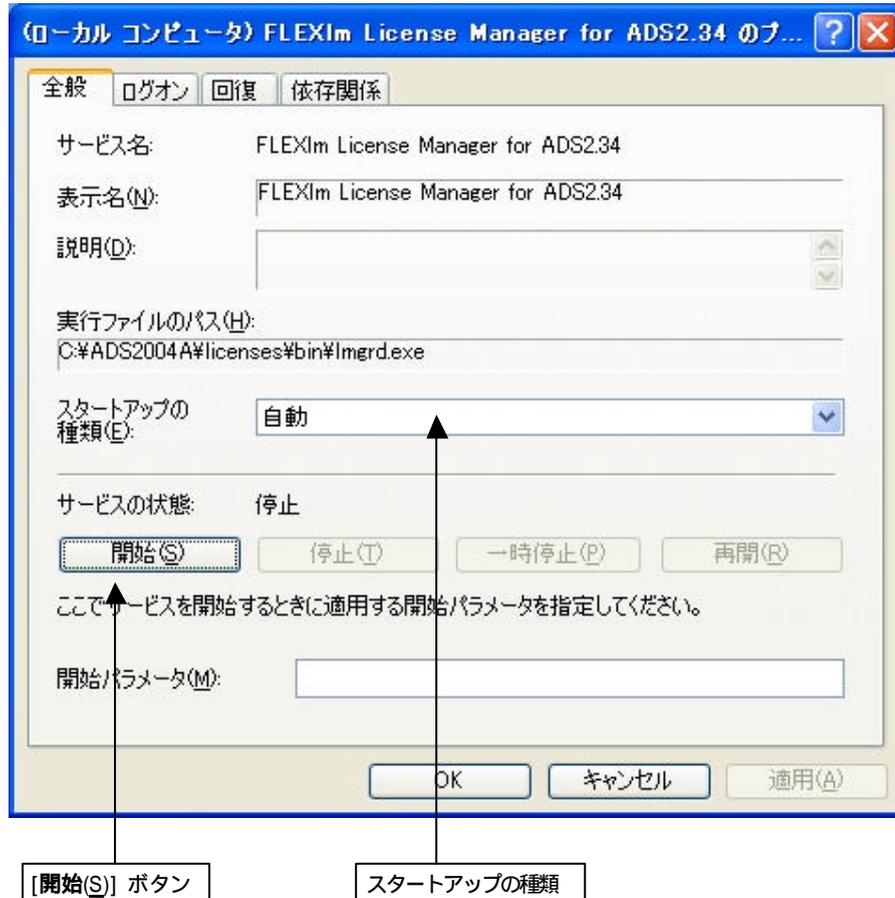


スタートアップの種類が「自動」になっていれば、次回PC起動時から lmgrd が自動起動します。

手で開始させる場合は、**[開始]** ボタンをクリックします。

[OK] をクリックして、[サービス] ダイアログ・ボックスを閉じます。

■ Windows® XP の場合



スタートアップの種類が「自動」になっていれば、次回PC起動時から lmgrd が自動起動します。

手動で開始させる場合は、**[開始]** ボタンをクリックします。

[OK] をクリックして、[サービス] ダイアログ・ボックスを閉じます。

4. ここで一度コンピュータをリブートします。
5. “flex.log” ファイルを確認します。ログ・ファイルは、installs コマンドを実行した時に -l オプションで指定したファイルです。

設定が完了すれば、次からはコンピュータが立ち上がると自動的に lmgrd が起動するようになります。

もし、この設定を行わない場合は、コンピュータを起動するたびに手動で、lmgrd を起動し直す必要があります。

(2) ライセンス・デーモン自動起動サービスの削除方法

(i) サービスの削除

1. コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、ディレクトリの移動を行いません。

> cd <Installation Directory>\licenses\bin

2. そして次のコマンドで、サービスを削除します。

この時、サービス名を忘れずにつけてください。

<書式> install -n <サービス名> -r

<例 1 > install -n " FLEXlm License Manager for ADS2.34" -r

3. install -r コマンドの実行後、コンピュータを再起動してください。

以上で、ライセンス・サーバ・マシンでは自動的に lmgrd は起動しなくなります。

ライセンス・サーバ・マシンで lmgrd を再度起動しなければ、ライセンス・クライアント・マシンの方でも ADS 2004A の起動はできなくなりますので、ご注意ください。

(ii) 環境変数の削除

設定した環境変数 “AGILEESOFD_LICENSE_FILE” も必要なくなる場合は次の手順で削除します。詳細な手順については、マイクロソフト社 Windows® のマニュアルや、オンラインヘルプを参考にしてください。

■ Windows® 2000

- 1) **[スタート] > [設定] > [コントロール 板]** アイコンを選択します。
- 2) **[コントロール 板]**中の **[システム]** アイコンをダブル・クリックし、**[システムのフ ォーティ]** ダイアログ・ボックスを開きます。
- 3) **[詳細]** タブをクリックして選択します。**[環境変数]** ボタンをクリックすると環境変数ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4) システム環境変数フィールドの中から、“AGILEESOFD_LICENSE_FILE” を選択します。**[削除]** ボタンをクリックして、削除します。
- 5) **[OK]** ボタンをクリックして設定を完了します。

■ Windows® XP

- 1) **[スタート]** > **[コントロールパネル]** アイコンを選択します。
- 2) **[コントロールパネル]**中の**[パフォーマンスとメンテナンス]** を開き、**[システム]** アイコンをクリックして、**[システムのプロパティ]** ダイアログ・ボックスを開きます。
- 3) **[詳細設定]** タブをクリックして選択します。**[環境変数]** ボタンをクリックすると環境変数ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4) システム環境変数フィールドの中から、“ **AGILEESOFD_LICENSE_FILE** ” を選択します。
- 5) **[削除]** ボタンをクリックして、削除します。
- 6) **[OK]** ボタンをクリックして設定を完了します。

4 - 1 1 ライセンス・クライアントの設定

ライセンス・クライアントでは、lmgrdを起動する必要はありません。

ライセンス・クライアントでは、下記の(1)か(2)の設定を行なう必要があります。また、この手続きは全てのクライアント・マシンで行なってください。環境変数の設定方法は、4 - 7 節で説明した方法と同じです。

また、パッケージ(ライセンス・バンドル)タイプのライセンスをご利用の場合は、各ライセンス・クライアント毎に **License Preference Tool** を用いて、使用するライセンスを設定する必要があります。License Preference Tool の操作方法に関しては、7 - 1 節をご参照ください。

(1) **license.lic** ファイルをコピーする方法

クライアント・マシンでもサーバ・マシンと同じ内容の **license.lic** ファイルを読み込む必要があります。クライアント・マシンから license.lic ファイルを読むには以下の二通りの方法があります。

- クライアント・マシンのローカル・ディスクに、サーバ・マシンの license.lic ファイルをコピーします。
- 二つ目は、サーバ・マシンの license.lic ファイルの存在するドライブ・ディレクトリを共有し、サーバ・マシン上のファイルを直接読む方法です。この場合は次に ADS 2004A をクライアントで起動する時も同じドライブに license.lic ファイルのあるドライブ・ディレクトリが共有されている必要があります。

クライアント・マシンで、環境変数 “AGILEESOFD_LICENSE_FILE” の内容をコピーした license.lic ファイルのパスに合わせて設定します。設定方法は4 - 7 節を参照してください。

(2) **ポート番号@ホスト名** 形式で指定する方法

環境変数 “AGILEESOFD_LICENSE_FILE” を、LANで接続されたライセンス・サーバのホスト名と FLEXlm の **TCP/IP** **ポート番号** を用いて、“**ポート番号@ホスト名**” の書式で指定します。

例えば、サーバ・ホスト名 “edasvr”、TCP/IPポート番号 “27000” の場合は、

“**AGILEESOFD_LICENSE_FILE = 27000@edasvr**”

と指定します。

ポート番号に 27000 ~ 27009 を使用している場合は、TCP/IPポート番号を省略することができます。先程の例では、“**AGILEESOFD_LICENSE_FILE = @edasvr**” と指定することもできます。

また、ライセンス・ファイルの SERVER 行のポート番号を指定していない(省略している)場合においても、TCP/IPポート番号を省略して書くことができます。

この方法でうまくライセンスが取得できない場合は、(1)の方法をお試しく下さい。

以上で設定は終わりです。この手続きを全てのクライアント・マシンで行なってください。

4 - 1 2 UNIXライセンス・サーバの利用

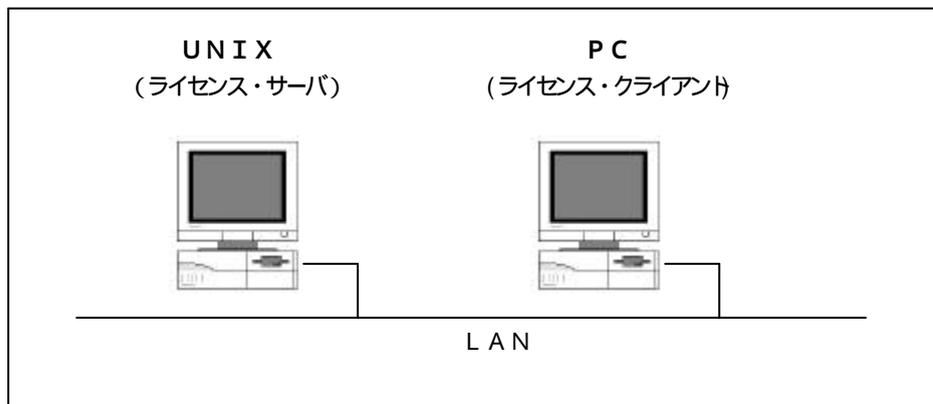
前節までは PC のライセンス・サーバの構築について説明してきましたが、PC で ADS 2004A を使用する際、UNIX マシンのライセンス・サーバからライセンスの供給を受けることも可能です。

UNIX マシンが既にある場合は、この方法を取ることをお勧めします。ただし、既にコードワード発行の申請を行なっている場合は、サーバの変更(プラットフォーム・チェンジ)には別途費用が必要となりますので、ご注意ください。

(1) UNIX ライセンス・サーバの設定

UNIX ライセンス・サーバを利用する場合は、ライセンス・コードワード取得時に UNIX 用のライセンス・ファイルを取得する必要があります。

UNIX のライセンス・サーバの設定については、UNIX版のインストール・マニュアルをご覧ください。



(2) PC ライセンス・クライアント側での設定

4 - 1 1 節「ライセンス・クライアントの設定」と同様の設定を行なう必要があります。
以下の二通りの方法を使用することが出来ます。

- UNIX ライセンス・サーバから license.lic ファイルを PC にコピーして使う。

UNIX ライセンス・サーバの license.lic ファイルを、PC 上にコピーします。ライセンス・ファイルは、混乱をさけるため <Installation Directory>\licenses に置いておく事をお勧めします。

コピーが終わったら、環境変数 **AGILEESOFD_LICENSE_FILE** に license.lic ファイルのパスを設定します。方法は既に 4 - 6 節で述べていますので、そちらをご参照下さい。

- 環境変数 **AGILEESOFD_LICENSE_FILE** を以下のように設定する。

<書式> **set AGILEESOFD_LICENSE_FILE=<port>@<hostname>**

<例 1 > **set AGILEESOFD_LICENSE_FILE=27000@edasvr**

<例 2 > **set AGILEESOFD_LICENSE_FILE=@edasvr**

この時の <port> は、UNIX ライセンス・サーバの license.lic ファイルの SERVER 行の最後に書いた TCP/IP ポート番号です。TCP/IP ポート番号が省略されている場合は、通常 27000 ~ 27009 の範囲の値が使用されます。

TCP/IP ポート番号として 27000 ~ 27009 が使用可能な場合は、例 2 のように TCP/IP ポート番号を省略して、@<hostname> のように記述することができます。

<hostname> は、UNIX ライセンス・サーバのホスト名となります。

これらの設定も 4 - 7 節の説明と同じ手順で、Windows® 2000 / XP のシステム環境変数として設定しておくこと、そのコンピュータを使用する**全てのユーザ**に対して有効になります。

また、**ユーザ環境変数**の場合には、**そのアカウントのユーザのみ**に有効になります。

有効範囲に注意して設定を行なってください。

4 - 13 ライセンスを追加・結合する方法

この節では、既に使用しているライセンス・ファイルに、ライセンスを追加する方法を説明します。

ライセンスを結合して追加する場合、新しいライセンス・コードワードをライセンス・ファイルに加える作業が必要となります。

この方法は、ライセンスを追加購入した時や、既に動作しているライセンス・サーバで別のコンピュータのライセンスも供給する場合等にも用います。

FLEXlmライセンス・サーバを使用してライセンスを提供している場合は、ライセンス・ファイルの編集後に、ライセンス・デーモン (lmgrd) にライセンス・ファイルを再読み込みさせます。

注意 フローティング・ライセンスの場合、SERVER 行が完全に一致しないライセンス・ファイル同士を結合 (ライセンスの追加) することはできません。

<ライセンス・ファイルをマージすることのできない例>

SERVER 行の行数が異なる

ライセンス・ファイル中の、SERVER 行の数が異なるライセンス・ファイルを一つにまとめることはできません。

license.lic ファイル (サーバ数: 1)	license.lic ファイル (サーバ数: 3)
SERVER ads1 FLEXID=8-5E700060E94 1700	SERVER ads1 FLEXID=8-5E700060E94 1700 SERVER ads2 FLEXID=7-c3604b23 1700 SERVER ads3 FLEXID=7-b285635f 1700

SERVER 行のコンピュータID番号が異なる例

同一のコンピュータ(ホスト名が同じ)であるが、SERVER 行が FLEXid と LAN-ID (ethernet address) で発行されているライセンス・ファイル

license.lic ファイル (FLEXid)	license.lic ファイル (LAN-ID)
SERVER ads1 FLEXID=8-5E700060E94 1700	SERVER ads1 080001971512 1700

uncountedタイプのノードロック・ライセンスでは、ライセンス・ファイルの編集作業だけで、次回起動時から新しいライセンスを使用することができます。

次ページから具体的な作業について説明します。

(1) 既存のライセンス・ファイルにライセンスを追加する。

メモ帳等のテキスト・エディタを用いて、現在使用しているライセンス・ファイル（例：C:\¥ADS2004A¥licenses¥license.lic）に、購入したライセンスの INCREMENT 行を加えます。

uncountedタイプのノードロック・ライセンスの場合は、この作業が終われば完了です。

FLEXlmライセンス・サーバを使用している環境で、ベンダ・デーモンが複数種類ある場合は、VENDOR 行（または DAEMON 行）も加えます。

VENDOR行には、必ずファイル・パス付きのベンダ・デーモン名も指定してください。

ファイル・1

```
SERVER FLEXID=8-5E700060E94 1700
DAEMON hpeesofd C:\¥ads2001¥licenses¥vendors¥vendors¥hpeesofd ¥
C:\¥ads2001¥licenses¥options¥local.options

INCREMENT analog_lib hpeesofd 7.000 10-Feb-2006 1 FC708E7192CBE931172E ¥
"s=8-5E700060E94"
```

ファイル・2

```
SERVER edasvr FLEXID=8-5E700060E94 1700
VENDOR agileesofd

INCREMENT ads_datadisplay agileesofd 2.34 08-nov-2006 2 ¥
  VENDOR_STRING="8-5E700060E94 : DDNLFLA WZBCYQ2 AUJXJ2E IEKCKLI ¥
  WFYQNVM DNJU1YM LHYKAQC OM" SIGN="0010 18B6 3D5D F3FE 9759 ¥
  4B1A 7C5C A15D 0E0B A871 7300 585B B0C0 D085 9278 DEE0 674D ¥
  9E3D 2E02 CC95 26FD"
```

結合後のファイル

```
SERVER edasvr FLEXID=8-5E700060E94 1700
DAEMON hpeesofd C:\¥ads2001¥licenses¥vendors¥hpeesofd ¥
/ads2001/licenses/options/local.options
VENDOR agileesofd C:\¥ADS2004A¥licenses¥vendors ¥agileesofd

INCREMENT analog_lib hpeesofd 7.000 10-Feb-2006 1 FC708E7192CBE931172E ¥
"s=8-5E700060E94"
INCREMENT ads_datadisplay agileesofd 2.34 08-nov-2006 2 ¥
  VENDOR_STRING="8-5E700060E94 : DDNLFLA WZBCYQ2 AUJXJ2E IEKCKLI ¥
  WFYQNVM DNJU1YM LHYKAQC OM" SIGN="0010 18B6 3D5D F3FE 9759 ¥
  4B1A 7C5C A15D 0E0B A871 7300 585B B0C0 D085 9278 DEE0 674D ¥
  9E3D 2E02 CC95 26FD"
```

(2) ライセンス・ファイルの再読み込み (FLEXlm ライセンス・デーモンが起動している場合)

ライセンス・サーバが起動している場合は、ライセンス・サーバでライセンス・デーモン(lmgrd)に新しいライセンスを読み込ませなければなりません。

一旦ライセンス・デーモン(lmgrd)を停止させた後にライセンス・デーモンを再起動する方法と、ライセンス・デーモンを停止させずにライセンスを再読み込みさせる方法があります。

- ライセンス・デーモンを停止させ、再起動させる
4 - 9 節(2)の手順にしたがって、ライセンス・デーモン(lmgrd)を停止させ、再起動してください。
- ライセンス・デーモンを停止させずにライセンスを再読み込みさせる
この方法は、“license.lic” ファイルのパスとファイル名が更新前・更新後で変更が無い場合のみ可能です。パス名・ファイル名が変わってしまった場合は、一度ライセンス・デーモンを停止した後、再度ライセンス・デーモンを起動してください。

前ページ(1)の手続きをライセンス・サーバが起動しているマシン上で行って、license.lic ファイルを更新します。また、クライアント・マシンに license.lic ファイルのコピーを置いている場合は、それぞれサーバ側の新しい license.lic ファイルに置き換えます。

1. サーバ・マシンでコマンドプロンプトを立ち上げ、

```
<書式> lmutil lmreread -c <Installation Directory>%licenses%license.lic  
<例> lmutil lmreread -c C:%ADS2004A%licenses%license.lic
```

を実行し、サーバ・マシン上のライセンス・デーモン(lmgrd)に license.lic ファイルを再読み込みさせます。

2. 次のコマンドを用いると現在使用できるライセンスの一覧が表示されます。ライセンス・サーバが新しいライセンス情報を読み込んだか確認します。

```
<書式> lmutil lmstat -a -c <Installation Directory>%licenses%license.lic  
<例> lmutil lmstat -a -c C:%ADS2004A%licenses%license.lic
```

また、flex.log ファイルにも、以下のようにライセンスの再読み込みを示すメッセージが記録されます。

< flex.logファイルのImrread 実行時メッセージの例 >

```
2:30:02 (lmgrd) TIMESTAMP 11/1/2004
8:30:02 (lmgrd) TIMESTAMP 11/1/2004
10:16:39 (agileesofd) Rereading license file...      Imrread コマンドの実行
10:16:39 (lmgrd) Done rereading                      新たに認識されたライセンス
10:16:39 (agileesofd) Server started on licserver1 for: ads_datadisplay
10:16:39 (agileesofd) ads_drc      ads_encoder  ads_layout
10:16:39 (agileesofd) ads_lite ads_schematic dg_4mfg
10:16:39 (agileesofd) dg_ad_da dg_amp_modeling dg_amps
10:16:39 (agileesofd) dg_catv      dg_commsys  dg_filter
10:16:39 (agileesofd) dg_ina      dg_linear  dg_ltcc
10:16:39 (agileesofd) dg_mimo      dg_mini_lib dg_mixer
10:16:39 (agileesofd) dg_multi_carrier dg_opt2    dg_opt3
10:16:39 (agileesofd) dg_opt4      dg_oscillator dg_passives
10:16:39 (agileesofd) dg_pll      dg_pwr_amp   dg_rx
(一部省略)
10:16:39 (agileesofd) Updating feature ads_datadisplay 既存ライセンスの更新
10:16:39 (agileesofd) Updating feature ads_drc
10:16:39 (agileesofd) Updating feature ads_encoder
10:16:39 (agileesofd) Updating feature ads_layout
10:16:39 (agileesofd) Updating feature ads_lite
(一部省略)
10:16:39 (agileesofd) Rereading options file...
10:16:39 (agileesofd) ...Finished rereading          再読み込み処理の完了
```

もし正常に動作しなければ、4 - 9 節(2)を参考にライセンス・デーモン(lmgrd)を一度止め、4 - 9 節(1)の手順に従って、もう一度ライセンス・デーモン(lmgrd)を起動し直してください。

Q 1 ライセンス・ファイル (license.lic) の SERVER 行の CPU-ID 番号が、uname -i 命令の結果と異なる(HPコンピュータの場合)

HP-UX の uname -i 命令は、CPU-IDを10進数で表示します。一方、SERVER 行のCPU-IDは16進数で記入されています。

<例> uname -i の実行結果が 2008302740 の時、SERVER 行には 77B44494 (16進数に変換された値)と記入されます。

SERVER licserver 77B44494

Q 2 ノードロック・ライセンスとフローティング・ライセンスの見分けかた

ノードロック・ライセンスとフローティング・ライセンスを見分けるためには、ライセンス・ファイル(license.lic)を参照します。

以下の例のように、license.licファイルのINCREMENT 行に「**HOSTID=<CPU-ID>**」が記入されていれば、それはノードロック・ライセンスです。記入されていなければ、フローティング・ライセンスです。言い換えれば、INCREMENT 行に「**HOSTID=<CPU-ID>**」が記入されているということは、そのCPU-IDを持つコンピュータのみに限定されたライセンスである、とすることができます。

ノードロック・ライセンスの例

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 12-may-2005 1 ¥
VENDOR_STRING=2014460207 HOSTID=7812392f ¥
SIGN="012A ED70 15F9 B8ED以下省略
「HOSTID=<CPU-ID>」が有るのでノードロック・ライセンス
```

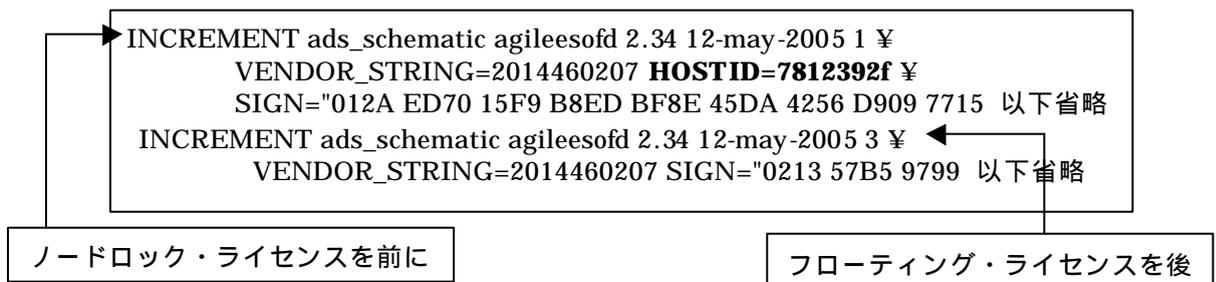
```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 12-may-2005 uncounted ¥
VENDOR_STRING=2014460207 HOSTID=7812392f ¥
SIGN="012A ED70 15F9 B8ED以下省略
ライセンス本数が「uncounted」なのでノードロック・ライセンス (PCのみ)
```

フローティング・ライセンスの例

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 12-may-2005 3 ¥
VENDOR_STRING=2014460207 SIGN="0213 57B5 9799 15F9以下省略
「HOSTID=<CPU-ID>」が無いのでフローティング・ライセンス
```

Q 3 ノードロック/フローティング・ライセンスが混在する場合の注意点

下記の例のような、ノードロックとフローティング・ライセンスが混在するライセンス・ファイルを使用する場合は、必ずノードロック・ライセンスの方を行の上(始め)の方に記入してください。さもないと、ノードロック・ライセンスを割り当てられたライセンス・クライアントであっても、フローティング・ライセンスの方を先に取得してしまいます。

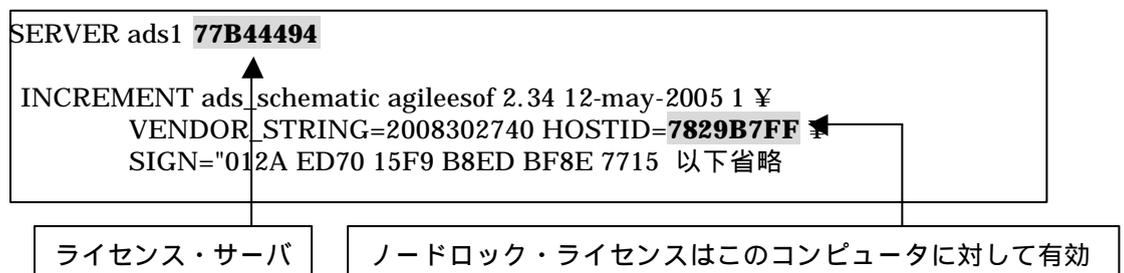


Q 4 ノードロック・ライセンスを別のライセンス・サーバから提供する方法

FLEXlm のライセンス・サーバであるコンピュータ A から、ノードロック・ライセンスを別のコンピュータ B に提供することができます。

以下の例は、ライセンス・サーバ：CPU-ID=77B44494 から、ノードロック・ライセンス：CPU-ID=7829B7FFに提供できるライセンス・ファイル (license.lic) の例です。

ライセンス・サーバ (供給側) 2008302740 (10進数) = 77B44494 (16進数)
ノードロックの受取側 2015999999 (10進数) = 7829B7FF (16進数)



Q 5 複数の lmgrd を同時に起動する方法 (例: ADS 2004A と、ADS 2001 の運用)

FLEXlm では、1台のコンピュータ上で複数の lmgrd デーモンを同時に起動することができます。

ただし、これは、それぞれの**ベンダ・デーモン名が異なっている場合に限られます**。また、lmgrd を複数立ち上げる場合は、**TCP/IP ポート番号をそれぞれ異なった値に設定**する必要があります。

<ライセンス・ファイルの例: サーバが同一でベンダ・デーモンが異なる >

license.lic ファイル1つめ (**ADS 2004A 用**)
(ベンダ・デーモンは agileesofd / TCPポート番号は 27000)

```
SERVER ads1 77B44494 27000
VENDOR agileesofd /disk/ads2004a/licenses/vendors/agileesofd
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 08-nov-2005 30 ¥
VENDOR_STRING="80C4E936 : MMUIWQU LPBVYAH XDAXLNO (以下略)
```

license.dat ファイル2つめ (**ADS 2001/IC-CAP 5.3/Agilent HFSS 用**)
(ベンダ・デーモンは hpeesofd / TCPポート番号は 27001)

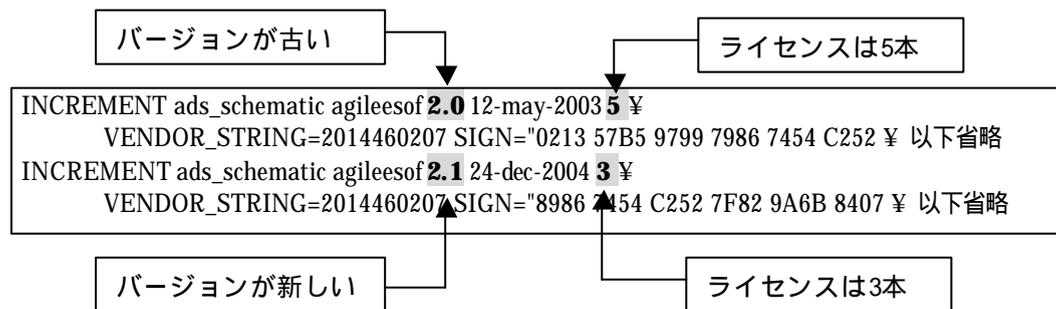
```
SERVER ads1 77B44494 27001
DAEMON hpeesofd /disk/ads2001/licenses/vendors/hpeesofd
INCREMENT Schematic hpeesofd 1.700 12-Jul-2015 3 4C3A006C056758349861 ¥
VENDOR_STRING=s=2014460207 (ADS 2001/MDS/SeriesIV 用)
INCREMENT hp_hfss_engine hpeesofd 5.6 15-jun-2015 1 ¥
1C0A8FA0D26177CCC9CB VENDOR_STRING=s=2014460207 (Agilent HFSS 5.6用)
INCREMENT iccap_environment hpeesofd 5.3 15-aug-2015 1 ¥
4CEC820D7100D8F08980 VENDOR_STRING=s=2014460207 (IC-CAP 5.3 用)
```

ADS 2004A と、ADS 2001/IC-CAP 5.3/MDS/SeriesIV/Agilent HFSS を同一のライセンス・サーバで運用する場合は、この方法をお勧めします。

Q 6 同じライセンス名の INCREMENT 行が存在する場合の注意

license.lic ファイル中に、同じライセンス名・ベンダ・デーモン名の INCREMENT 行が存在し、それぞれバージョンが異なっている場合は、バージョンが最も新しい INCREMENT 行のみが使用され、その他の行は無視されます。

下記の例では、同一のライセンス名“ads_schematic”が最初5本(バージョン 2.0)あり、後から3本(バージョン 2.1)追加購入した例です。つまり、合計8本の“ads_schematic”のライセンスを使用できる権利があります。



ところが、前述したように、バージョンが古い方のライセンス(今回の場合、最初5本)は無視されますので、新しいバージョンの本数である3本のみが有効になります。もし、同一のコンピュータ上でライセンス追加をする必要がある場合は、弊社コードワード発行受付までお問い合わせください。新しいライセンス・ファイル (license.lic)をお送りします。

ADS 2004A の場合は、ADS 2004A、2003C と同じライセンス名、ベンダ・デーモン名となっており、コードワード・バージョンが異なる為、上記の条件に該当します。ただし、ライセンスの互換性によって、ADS 2003A、および、ADS 2003Cは、ADS 2004Aのライセンス・コードワードで動作いたします。
この為、ADS 2004Aのライセンス・ファイルの発行後は、同じ機能の ADS 2003A / 2003C用ライセンス・コードワードは使用せず、ADS 2004Aのライセンスをご利用ください。

Q 7 複数のライセンス・ファイル(license.lic)を参照する方法

FLEXlm では、複数のライセンス・ファイル(license.lic)からライセンスを取得することができます。その例は次のようになります (下記は、B/Kシェルの設定例です)

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=27000@server1:27002@server2
export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
```

上記のように、複数の参照先をコロン(:)で区切って定義します。(Windows® の場合は、セミコロン(;)で区切ります)。この場合、左側に定義したライセンス・パスの方が先に使用されますので、優先して使うライセンス(例えば、ノードロック・ライセンス)のライセンス・ファイル(ライセンス・サーバ)を左側に定義してください。

また、この記述は Series IV Ver 6.X ではサポートしていませんのでご注意ください。

また、Q 6 で説明した INCREMENT 行のバージョンにもご注意ください。2つのライセンス・ファイルで INCREMENT 行のバージョンが異なる場合、新しい方のみが有効になります。

Q 8 ADSを実行すると Security warning と表示される

基本的に、ライセンスは18ヶ月の有効期限を持っています。
 下記のような Warning メッセージが表示される場合は、ライセンスの有効期限が迫っていますので、弊社コードワード発行受付までご連絡ください。新しいライセンスをお送りします。

< 期限切れ約 2 週間前頃から表示されるメッセージ例 >

Security warning: license for 機能名 will expire in x day(s)

x には、失効するまでの日数が表示されます。

```
INCREMENT ads_schematic agileesof 2.34 12-may-2005 ✖
VENDOR_STRING=2008302740 HOSTID=7829B7FF ¥
SIGN="012A ED70 15F9 B8ED BF8E 7715 以下省略
```

ライセンス・コードワードの有効期限

Q 9 複数の FLEXlm ライセンスを使用する時の注意

ADS/MDS/SeriesIV/HFSS/IC-CAP に付属している FLEXlm のバージョン表です。

製品名とバージョン	製品に付属している FLEXlm のバージョン
MDS B.07.00	4.1
MDS B.07.10	4.1
SeriesIV Ver 6.1	4.1
Agilent HFSS 5.6	6.1g
IC-CAP 5.3	4.1
IC-CAP 2001	7.2h
IC-CAP 2002	7.2h
IC-CAP 2004	8.2a
ADS 1.01	5.12
ADS 1.1	5.12c
ADS 1.3	6.1g
ADS 1.5	7.0g
ADS 2001	7.0g
ADS 2002	7.2h
ADS 2002C	7.2h
ADS 2003A	8.2a
ADS 2003C	8.2a
ADS 2004A	9.2a

複数の製品を同一のライセンス・サーバで使用する場合、最新のバージョンの FLEXlm をご使用ください。

< 例 > ADS 2004A と IC-CAP 2004 を同一のライセンス・サーバで使用する場合、**lmgrd/ agileesofd は ADS 2004 のものを使用する。**

MDS B.07.10 と ADS 2001 を同一のライセンス・サーバで使用する場合は、lmgrd, hpeesofd は ADS 2001 のものを使用する。MDS B.07.10 の FLEXlm を ADS 2001 と同じバージョンに置き換えるためには、次の方法で ADS 2001 から MDS B.07.10 にコピーしてください。作業はスーパー・ユーザで行ないます。

```
# cd /mds_b.07.10/hp85150/hpeesof/licenses
# mv bin bin.old
# mv vendors vendors.old
# cp -R /ads2001/licenses/bin /mds_b.07.10/hp85150/hpeesof/licenses
# cp -R /ads2001/licenses/vendors /mds_b.07.10/hp85150/hpeesof/licenses
# chmod -R 755 bin
# chmod -R 755 vendors
```

Q10 ライセンス・ファイル (license.lic) を更新する方法

ライセンス・ファイル(license.lic)を、期限切れ等で更新する場合の作業を説明します。

(1) 古いライセンス・ファイルの検索

まず、いままで使用していた古いライセンス・ファイルを探します。

< 方法 1 >

ADS を実行できる「一般ユーザ」でログインし、次の UNIX の命令を実行します。

```
$ env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE
```

- 表示例 -

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/disk/ads2004a/licenses/license.lic
```

< 方法 2 >

「スーパー・ユーザ」でログインし、次のUNIXの命令を実行します。

```
# find / -name license.lic -print
```

- 表示例 -

```
/disk/ads2004a/licenses/license.lic
```

(2) 新しいライセンス・ファイルの編集

古いライセンス・ファイルを参考にして、新しいライセンス・ファイルを編集します。

変更点は次の4つです。これ以外に変更してはいけません。

SERVER 行のホスト名 (必須)

SERVER 行の TCP/IP ポート番号 (省略可)

VENDOR 行のベンダ・デーモン・パスとオプション・ファイルのパス (省略可)

VENDOR 行の TCP/IPポート番号 (省略化)

ライセンス・ファイルの編集方法については、

4 - 6 節「ライセンス・ファイルの作成と設置」

をご覧ください。

(3) 新しいライセンス・ファイルへの置換

古いライセンス・ファイルと新しいライセンス・ファイルを置き換えます。

注意 ライセンス設置ディレクトリ(通常は、\$HPEESOF_DIR/licenses)に古いライセンス・ファイルが存在すると、ライセンス・トラブルが起こり易くなります。
これは、FLEXlmが AGILEESOFD_LICENSE_FILEで指定されたライセンス・ファイルの他にも、\$HPEESOF_DIR/licenses ディレクトリ下にあるファイルの評価し、ライセンス・ファイルとして認識した場合は取り込む仕様によるものです。
古いライセンス・ファイルをバックアップする場合は、必ず異なるディレクトリに保存してください。

```
# mkdir /disk/ads2004a/licenses/old_license
# mv /disk/ads2004a/licenses/license.lic /disk/ads2004a/licenses/old_license
# mv /tmp/license.lic /disk/ads2004a/licenses/license.lic
# chmod 644 /disk/ads2004a/licenses/license.lic
```

(4) 新しいライセンス・ファイルをシステムに認識させる

ライセンス・ファイルを変更しただけでは、システムはその変更を認識しません。次のいずれかの方法でライセンス・ファイルの変更をシステムに認識させる必要があります。

<方法1> lmutil lmreread コマンドで更新する

```
# AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/disk/ads2004a/licenses/license.lic
# export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
# env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE
# /disk/ads2004a/licenses/bin/lmutil lmreread
- 正常な表示例 -
lmreread successful
```

<方法2> lmgrd を止め、再起動する

```
# AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/disk/ads2004a/licenses/license.lic
# export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
# env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE
# /disk/ads2004a/licenses/bin/lmutil lmdown
(または、ps -ef | grep lmgrd    kill <lmgrdのプロセスID>)
# /ads2004a/licenses/bin/lmgrd -c /ads2002/licenses/license.lic
  -l /ads2002/licenses/flex.log
```

小文字のエル

<方法3> UNIX を再起動する

(ただし、UNIX 起動時にライセンス・デーモンが自動起動されるように設定されている必要があります)

```
# cd /
# shutdown -r now
```

(5) 正しく認識されたかどうかを確認する

flex.log ファイルで確認します。
more /ads2002/licenses/flex.log

lmutil lmstat -a 命令で確認します。
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/ads2004a/licenses/license.lic
export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
env | grep AGILEESOFD_LICENSE_FILE (確認)
/ads2004a/licenses/bin/lmutil lmstat -a | more

Q 1 1 Invalid System Clock Time

FLEXlm を使用した製品で、次のようなエラー・メッセージが表示された時の対策を説明します。

Invalid System Clock Time

これは、コンピュータの日付が狂っている場合や、誤った日付を設定した場合等に発生するエラーです。

原因

FLEXlm では、コンピュータ上のファイル、および、ディレクトリのタイム・スタンプをチェックし、コンピュータ内蔵クロックの時刻と比較しています。

もし、ファイル、もしくは、ディレクトリのタイム・スタンプが、コンピュータに設定されている時刻より24時間以上先(未来)になっている場合、「**Invalid System Clock Time**」というエラーが表示されます。観察するファイルおよびディレクトリは、次の通りです。

UNIX WS

/(ルート)ディレクトリ、および、/etc ディレクトリ下に存在する、全てのファイル、および、ディレクトリ

PC

C:\¥Windows 等、Windows® OS のシステム・ディレクトリ下に存在する、全てのファイル、および、ディレクトリ

対策

1. まず、コンピュータの時刻を正確な時刻にあわせます。
2. 未来の日付のファイルの日付を修正します。

UNIX の場合

- 1) / および /etc ディレクトリ下に存在するファイル、および、ディレクトリのタイム・スタンプを調べます。

```
# ls -alt /  
# ls -alt /etc
```

- 2) 未来の日付になっているものを、正しい時刻に戻します。

```
# touch <ファイル名、または、ディレクトリ名>
```

ただし、ファイル/ディレクトリによっては変更できないものもあります。その場合は、OS の再インストールを行なってください。

PC の場合

- 1) C:\windows ディレクトリ下に存在する全てのファイル、および、ディレクトリのタイム・スタンプを調べます。
[スタート] > [検索] > [ファイルやフォルダ]
[日付]タブを選択し、[日付指定]で検索
- 2) 未来の日付になっているものを、正しい時刻に戻します。対象ファイルを一度別の名前でコピーし、古いものを削除した後、元の名前に戻します。
ただし、ファイル/ディレクトリによっては変更できないものもあります。その場合は、OS の再インストールを行なってください。

Q 1 2 ソフトがクラッシュした時のライセンス開放

アプリケーションがハングアップする等、ソフトウェアは停止してしまっただが、ライセンスを取得した状態のままになり、他のアプリケーションがライセンスを使用できなくなる場合があります。ここでは、そのような時にライセンスを開放する方法を説明します。

(1) lmutil lmstat -a

まず、どのライセンスが開放されていないかを確認します。
「lmutil lmstat -a」命令を使用します。

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/disk/ads2004a/licenses/license.lic
export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
/disk/ads2004a/licenses/bin/lmutil lmstat -a
```

< 表示例 >

```
Users of ads_schematic: (Total of 5 licenses available)
"ads_schematic" v2.300, vendor: agileesofd
floating license
<ユーザ名> <ホスト名> <ディスプレイ:0> (v2.300) (<サーバ名>/1700 1106),...
```

(2) lmutil lmremove

「lmutil lmremove」命令でライセンスを開放します。

< 文法 >

```
lmutil lmremove <ライセンス名> <ユーザ名> <ホスト名> <ディスプレイ>
```

< 例 > 「lmutil lmstat -a」命令で次のように表示されたとします。

```
"ads_schematic" v2.300, vendor: agileesofd
user01 adshost 192.0.0.5:0 (v2.300) (server/1700 1106),...
```

この時、このライセンスを開放する「lmutil lmremove」命令の記述は、以下のようになります。

```
AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/disk/ads2004a/licenses/license.lic
export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
cd /disk/ads2004a/licenses/bin
./lmutil lmremove ads_schematic user01 adshost 192.0.0.5
```

その後、「lmutil lmstat -a」命令でライセンスの開放が行なわれているかどうかを確認します。

注意 「lmutil lmremove」命令で開放できるライセンスは、クラッシュ等を起こし中途半端な状態のライセンスに限定されます。正常に使用している状態では、「lmutil lmremove」命令でライセンス開放は行なえません。

Q 13 ライセンスの自動開放設定

ADS 1.3 Service Pack 2 より、ライセンスの自動開放機能が追加されています。ここでは、その設定方法を説明します。(手動でのライセンス開放方法は、従来通りスキーマティック・ウィンドウで、Simulate > Stop and Release Simulator メニューを実行してください)

概要

1. ADS 1.3 SP 2 以上で有効です。
2. 最小の開放設定時間は 15分(900秒)です。
3. FLEXlm のオプション・ファイルに、秒数で自動開放時間を設定をします。
4. ライセンスの種類によって、ライセンス開放可能なものと不可のものがあります(自動/手動共に)。ライセンス開放が可能な機能は、シミュレータとライブラリです。

設定方法

1. オプション・ファイルに設定します。
option ファイルは通常 **\$HPEESOF_DIR/licenses/options/local.options** となります。
local.options ファイル、および、optionsディレクトリが存在しない場合は、それぞれ新たに作成してください。
以下のように、local.options ファイルに記述してください。

<文法> TIMEOUT <ライセンス名> <時間(秒)>

<例> TIMEOUT sim_linear 900
TIMEOUT mdl_systemlib 900

ライセンス開放可能なもの全てを自動開放したい時は、次のように local.options ファイルに記入します。

TIMEOUTALL 900

2. ライセンス・ファイル(license.lic)中で、local.options ファイルを読み込むように設定します。
license.lic ファイルは通常 **\$HPEESOF_DIR/licenses/license.lic** となります。
VENDOR 行の記述を確認し、オプション・ファイル名をフル・パス付きで記述します。

<例> VENDOR agileesofd /disk/ads2004a/licenses/options/local.options

3. ライセンス管理デーモン (lmgrd) を再起動します。
flex.log ファイル(通常 \$HPEESOF_DIR/licenses/flex.log)に、次のように記入されていることをご確認ください。

00:00:00 (agileesofd) FEATURE <ライセンス名> INACTIVITY TIMEOUT set to 900 seconds

4. ADS 起動し、通常通り使用します。指定された機能のライセンスは、未使用状態で指定された時間が経過すると、自動的にライセンスを開放します。この時、flex.log ファイルに次のように記入されます。

```
19:55:07 (agileesof) OUT: "sim_linear " <ユーザ名>/<ホスト名>  
20:10:07 (agileesof) IN: "sim_linear" <ユーザ名>/<ホスト名> (INACTIVE)
```

15分(900秒)経過後に、自動的にライセンスが開放されていることが確認できます。

Q 1 4 ライセンス・エラー発生時の対策

- (1) ライセンスの有効期限が切れていませんか？

UNIX の場合、date 命令でコンピュータに設定されている時間が、実時間と合っているかどうかをご確認ください。もちろん、ライセンス・ファイル中の INCREMENT 行に記述されている有効期限も同時にご確認ください。

- (2) ライセンスの開始日は過ぎていますか？

ライセンスには、有効期間として、開始日と終了日が符号化(暗号化)されて組み込まれています。終了日は INCREMENT 行に日付として記述されていますので簡単に確認できますが、開始日は符号化されており、ライセンス・ファイルを見ただけでは確認できません。開始日は、lmutil lmdiag 命令で確認できます。FLEXlmユーティリティについては、

8 - 8 節「FLEXlmユーティリティの使用方法」

をご参照ください。また、コンピュータに設定されている時間が、実時間と一致しているかどうかをご確認ください。

- (3) ライセンス・ファイルの内容が間違っていますか？

ライセンス・ファイルそのものが、間違っている可能性があります。

- 1) お使いの電子メール・ソフトウェアによっては、ある文字数で自動的に改行する場合があります。自動的改行機能は OFF にしてください。
- 2) ライセンスを Windows®OS の電子メールで受け取り、UNIX に転送する場合は、Windows®と UNIX で文末の改行コードが異なる為、UNIX で正常に認識できないことがあります。(UNIX の vi エディタでライセンス・ファイルを開くと、各行末に ^M と見えるコードが付加されています)
このような時は FTP コマンドの ASCII モードで転送するか、または dos2ux (または dos2unix) コマンドで改行コードを修正することができます。
- 3) ライセンス・ファイルに目に見えない(画面には表示されない)コードが混入している場合があります。一度、手入力してみるのも良いかもしれません。

(4) lmgrd, agileesof のバージョンが古くありませんか？

FLEXlm のバージョンが古いと、ライセンスを正常に取得できない場合があります。
ライセンス・サーバ上で動作している FLEXlm のバージョンを確認してください。

1) ライセンス・サーバ上で動作している lmgrd の確認

```
ps -ef | grep lmgrd
```

<表示例>

```
root 22292 1 0 08:58:41 ? 0:00 /disk/ads2004a/licenses/bin/lmgrd -c ...
```

2) その lmgrd のバージョン確認

```
/disk/ads2004a/licenses/bin/lmgrd -v
```

<表示例>

```
lmgrd v9.2 - Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights reserved.
```

3) ライセンス・サーバ上で動作しているベンダ・デーモン (agileesof) の確認

```
head /disk/ads2004a/licenses/license.lic | grep VENDOR
```

<表示例>

```
VENDOR agileesof /ads2004a/licenses/vendors/agileesofd
```

4) その agileesofd のバージョン確認

```
/disk/ads2004a/licenses/vendors/agileesofd -v
```

<表示例>

```
18:00:42 (agileesofd) FLEXlm version 9.2
```

```
agileesofd v9.2 - Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights reserved
```

(5) lmgrd が参照している license.lic と、AGILEESOFD_LICENSE_FILEで指定している license.lic が異なっていませんか？

lmgrd 命令起動時に -c オプションで指定した license.lic ファイルと、環境変数 AGILEESOFD_LICENSE_FILE で指定した license.lic ファイルは、一致している必要があります。

(6) AGILEESOFD_LICENSE_FILE を「ポート番号@ホスト名」で指定していますか？

環境変数 AGILEESOFD_LICENSE_FILE の指定方法は2種類あり、license.lic ファイルのパスを指定する方法と「ポート番号@ホスト名」（例：27000@licserver）で指定する方法があります。

「ポート番号@ホスト名」で指定してうまくいかない場合は、license.lic ファイルを指定する方法でお試してください。

(7) AGILEESOFD_LICENSE_FILEがアプリケーションのライセンス・ファイル標準設定パス以外を指している場合、ライセンス・ファイル標準設定パスにも license.lic ファイルがありませんか？

アプリケーションは環境変数 AGILEESOFD_LICENSE_FILE で指定したライセンス・ファイル以外にも、アプリケーションで標準に指定されているディレクトリに存在するライセンス・ファイルを参照します。

もし、アプリケーションで標準に指定されている場所に AGILEESOFD_LICENSE_FILE で指定したファイルと異なるライセンス・ファイルが存在する場合、正常に動作しない場合があります。

< ライセンス・ファイルの標準設置パス >

```
ADS = $HPEESOF_DIR/licenses/license.lic
MDS = $MDSROOT/hp85150/hpeesof/licenses/license.dat
SIV = $EESOF_DIR/licenses/license.dat
ICCAP = $ICCAP_ROOT/licenses/license.dat
HFSS = $HPHFSS_DIR/licenses/license.dat
```

- (8) AGILEESOFD_LICENSE_FILE で指定したライセンス・ファイルの読み取り権限はありますか？

ライセンス・ファイルには、必ず全ユーザに対して読み取り権限を設定してください。
chmod 644 /ads2004a/licenses/license.lic

- (9) lmutil lmdiag、および、lmutil lmstat -a 命令は正しく動作しますか？

lmutil lmdiag、および、lmutil lmstat -a 命令の出力結果は、エラーの原因を探すヒントになる場合がありますので、必ずご確認ください。

FLEXlm ユーティリティの使い方については、

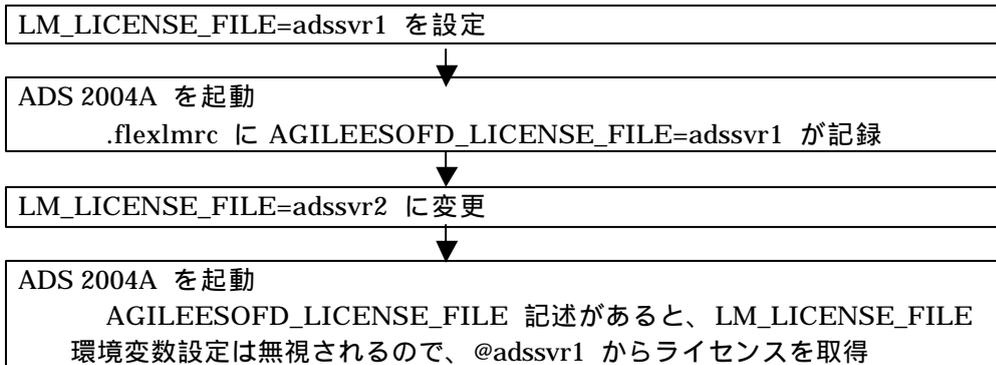
8 - 8 節「FLEXlm ユーティリティの使用方法」

をご覧ください。

また、ライセンス・デーモンのログ・ファイル(flex.log ファイル)もご確認ください。

Q 15 LM_LICENSE_FILE 環境変数を変更したが、以前に設定したライセンスが取得される

LM_LICENSE_FILE 環境変数を使用している場合は、以前の情報が FLEXlm レジストリ (UNIX の場合は .flexlmrc ファイル) に記録されているために、環境変数の設定を変更しても、以前設定したライセンス・サーバからライセンスが取得される問題が発生します。



LM_LICENSE_FILE 環境設定ではなく、AGILEESOFD_LICENSE_FILE 環境変数を使用するとこの問題は発生しませんので、AGILEESOFD_LICENSE_FILE 環境変数を使用してください。

FLEXlm レジストリに記録された内容の参照・追加・削除は、UNIX コマンドラインより行なうことができます。方法は、

8 - 8 節「FLEXlm ユーティリティの使用方法」

(4) lmutil コマンドの使い方 をご参照ください。

5章 プリンタの設定

ADS 2004A でプリンタを使う場合、予め Windows® OS 上でプリンタの設定が終了している必要があります。そして、Windows® 側で設定が終わってさえいれば、ADS 側ではどのプリンタを使うかを指定するだけで印刷を行なうことができます。

以下で、Windows® でのプリンタの設定方法について簡単に解説します。詳しいことはマイクロソフト社 Windows® のマニュアルや、オンラインヘルプを参考にしてください。

注意 プリンタの Windows® への登録/プリンタ自体の使用方法は、マイクロソフト社、またはご使用になっているコンピュータ/プリンタのメーカーにお問い合わせください。

5 - 1 プリンタの設定

(1) Windows® 2000

1. **[スタート] > [設定] > [プリンタ]**を選択します。
2. **[プリンタ]** フォルダ中の **[プリンタの追加]** をダブル・クリックします。
3. **[プリンタの追加ウィザード]** が現れます、プリンタの種類を指定します。プリンタがローカル・プリンタか、ネットワーク・プリンタかで手続きが異なります。
 - ローカル・プリンタを使用する場合
 - 1) **[ローカル プリンタ]** を選択して、次に進みます。
 - 2) 使用するプリンタのポートを聞いてきます。該当するポートを選択し、**[次へ >]**をクリックします。
 - 3) プリンタの製造元を選び、その後プリンタ名を選択します。プリンタに付属のディスクを使用する場合は、**[ディスク使用]** をクリックして画面の指示に従います。
 - ネットワーク・プリンタを使用する場合
 - 1) ネットワーク・パスを直接入力するか、またはそのまま **[次へ]** をクリックして**[プリンタの参照]** ダイアログ・ボックスで目的のプリンタを探し、選択してから**[次へ]** をクリックします。
 - 2) プリンタのドライバが必要な場合は、ローカルPCにドライバをインストールします。プリンタの種類のダイアログが現れるので、製造元を選び、その後プリンタ名を選択します。プリンタに付属のディスクを使用する場合は、**[ディスク使用]** をクリックして画面の指示に従います。
4. 「**通常のプリンタとして使いますか?**」のチェック・ボックスが現れますので、通常使うプリンタにする場合は **[はい]** をチェックして、**[次へ >]** をクリックします。
5. テスト印刷をするかどうか決定して、**[完了]** をクリックします。

(2) Windows® XP

1. **[スタート] > [プリンタとFAX]** を選択します。
2. **[ファイル] > [プリンタの追加]** を選択します。
3. **[プリンタの追加ウィザード]** が現れます、プリンタの種類を指定します。プリンタがローカル・プリンタか、ネットワーク・プリンタかで手続きが異なります。
 - ローカル・プリンタを使用する場合
 - 1) **[このコンピュータに接続しているローカルプリンタ]** を選択して、次に進みます。
 - 2) 使用するプリンタのポートを聞いてきます。該当するポートを選択し、**[次へ >]**をクリックします。
 - 3) プリンタの製造元を選び、その後プリンタ名を選択します。プリンタに付属のディスクを使用する場合は、**[ディスク使用]** をクリックして画面の指示に従います。
 - ネットワーク・プリンタを使用する場合
 - 1) **[ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続しているプリンタ]** をチェックします。次へ進みます。
 - 2) ネットワーク・パスを直接入力するか、または **[プリンタを参照する]** をチェックし、ダイアログ・ボックスで目的のプリンタを探し、選択します。
 - 3) プリンタのドライバが必要な場合は、ローカルPCにドライバをインストールします。プリンタの種類のダイアログが現れるので、製造元を選び、その後プリンタ名を選択します。プリンタに付属のディスクを使用する場合は、**[ディスク使用]** をクリックして画面の指示に従います。
4. プリンタの名前を変更する場合は、**[プリンタ名]** ボックスの中を変更します。「**通常のプリンタとして使いますか?**」のチェック・ボックスの **[はい]** をチェックして、**[次へ >]** をクリックします。
5. テスト印刷をするかどうか決定して、**[完了]** をクリックします。

6章 GPIBインターフェースの設定

GPIBインターフェースを搭載する PCの場合、同様に GPIBインターフェースを搭載するアジレント・テクノロジー製ネットワーク・アナライザ等から、Sパラメータの測定データ等を ADS 2004A に読み込ませることができます。

6 - 1 サポートしている GPIB(HP-IB) インターフェース

Windows®版 ADS 2004A では、以下の GPIBインターフェース製品をサポートしています。

Agilent LAN/GPIB Gateway Interface/SICL drivers	E2050A ¹ /B ¹ w/ Opt AG6 ²
Agilent LAN/GPIB Gateway Interface/SICL drivers	E5810A ²
Agilent USB/GPIB SICL/VISA drivers	82357A
Agilent GPIB PCI card/SICL drivers	82350A ¹ /B
Agilent GPIB EISA card/SICL drivers	82341C
National Instruments AT-GPIB/TNT card/NI-488.2M drivers	776836-01
National Instruments PCMCIA-GPIB card/NI-488.2M drivers	777332-02
National Instruments PCI-GPIB card/NI-488.2M/SICL drivers ³	777073-01
National Instruments PCI-GPIB card/NI-488.2M/SICL drivers ³	778032-01

注意事項

1. この製品は既に販売完了となっています。
2. LAN接続の GPIBインターフェース製品は、一般に通信速度は遅めになります。
3. これらの GPIBインターフェース製品は、Agilent IO Libraries でも制御可能です。

最新情報については、下記のオンライン・マニュアルをご参照ください。

<http://www.agilent.com/find/eesof-docs>

Advanced Design System 2004A > Manuals > Design and Display > Using Instruments

National Instruments社製品の仕様、ご購入に関しては、日本ナショナルインスツルメンツ株式会社にお問い合わせください。日本国内向け製品については、型番が異なる場合もございます。

(例: 778032-01 米国版、778032-0112 日本国内版)

<http://digital.ni.com/worldwide/japan.nsf/main?readform>

6 - 2 GPIBインターフェースのインストール

GPIBインターフェースを使用する場合は、ハードウェアを PC に接続した後に、それぞれのドライバのインストールを行なってください。

インストールの詳細については、各 GPIBインターフェース製品に付属のインストール手順書を参考にしてください。

- National Instruments 社の GPIB ボードのインストールについては、National Instruments GettingStarted マニュアルを参照してください。
- アジレント・テクノロジー社の GPIB インタフェースをインストールする場合は、Agilent Technologies GPIB Installation Guide を参照してください。

LAN/GPIB(LAN/HP-IB) ゲートウェイを使用する場合は、PC に SICL ドライバ(IO Libraries for Windows)をインストールする必要がありますのでご注意ください。

IO Libraries for Windows は、下記弊社 WEB サイトからもダウンロードすることができます。PCIバス用 GPIBインターフェースの最新ドライバもこちらです。

<http://www.agilent.com/find/iolib> (英語) ご利用にはユーザ登録(無償)が必要です。

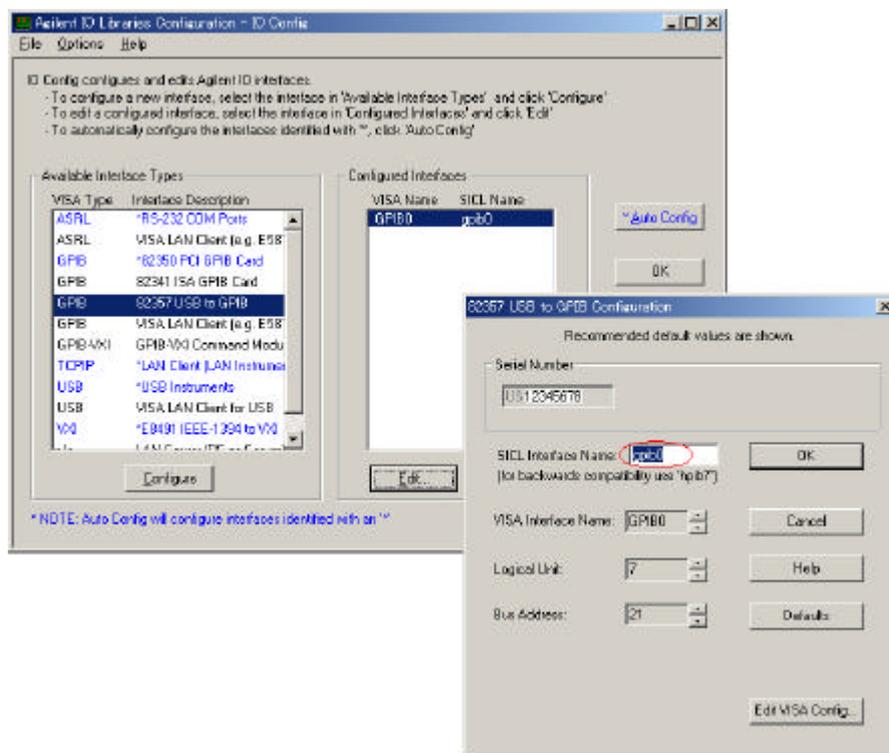
通常は、ドライバのインストール後、それぞれ付属のユーティリティにより、GPIBインターフェースの設定が必要になります。

注意 インストール中、もしくは、設定ユーティリティにおいて、GPIB インターフェースの **SICL Interface Name** (symbolic name) の設定を行ないます。この項目は、ADS の Instrument Server の設定で、GPIB インターフェースの登録を行なう時に使用しますので、控えておいてください。

SICL Interface Name の初期設定値は通常 **gpib0** です。また、LAN/GPIB ゲートウェイを使用する場合は、**lan[<LAN/GPIB GWのIPアドレス>]:<SICL Interface Name>** という表記になります。(例：lan[192.168.0.10]:gpib0)

以下に、アジレント・テクノロジー製の IO Libraries for Windows の **IO Config**ユーティリティの設定例を示します。

IO Configはスタートメニューから、**[スタート] > [プログラムのグループ] > [AgilentIO Libraries] > [IO Config]** で実行します。



[Auto Config] ボタンをクリックすると、自動的に使用可能なインターフェースが検索され、それぞれ設定されます。Auto Config がうまく動作しない場合は、下記の手順で追加してください。

PC に GPIB カードを装着した場合には Available Interface Types フィールドから、適切なカードの種類を選んだ後、**[Configure]** ボタンをクリックします。**[OK]** ボタンをクリックすると、設定が終了します。

また、LAN/GPIB ゲートウェイ を使って、LAN 経由で測定器を利用する場合は、**Lan Client(LAN Instruments)** を選択し、**[Configure] > [OK]** をクリックします。

注意 これらの設定は、**PC を再起動した後に有効**になります。自動的に再起動は行われませんので、PC を再起動する事を忘れないよう、くれぐれもご注意ください。

設定が完了したら、PCと測定器を GPIBケーブルで接続し、測定器の電源を投入してください。

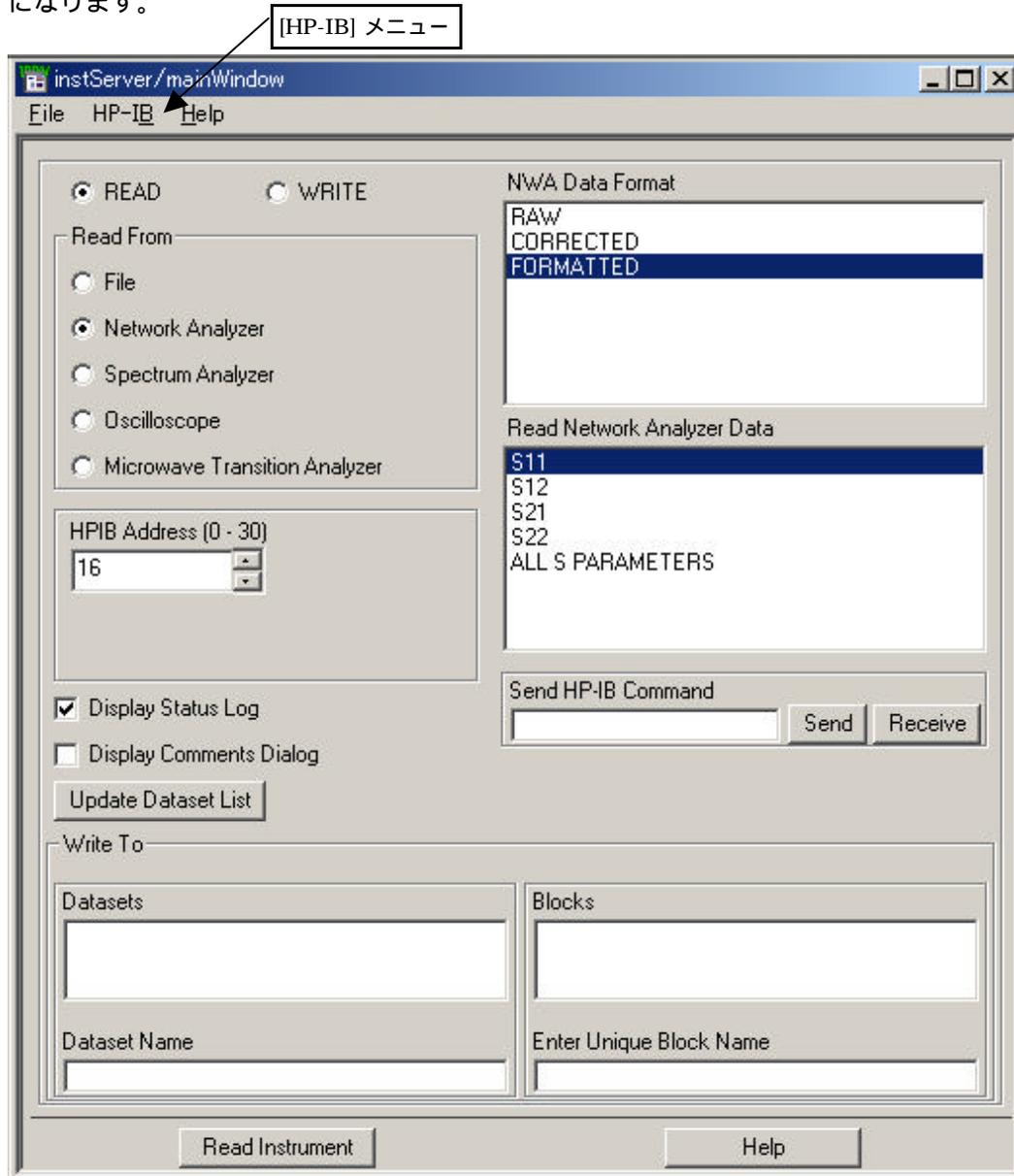
6 - 3 測定セットアップ (Instrument Server の設定)

Windows®版 ADS 2004A では **Instrument Server** を介して、各測定器へのデータの書き込み・読み込みを行ないます。ここでは、 GPIBインターフェースの登録方法のみ説明いたします。

Instrument Server は、スケマティック・ウィンドウの、 **[Window] > [File/Instrument Server]** メニューから開くことができます。

[InstServer/mainWindow] ダイアログ・ボックスの **[HP-IB]** メニューで、 **Symbolic name** と、 **Timeout** の設定を行ないます。通常 Symbolic Nameは **gpib0** 等が使用されますが、 GPIBインターフェースの付属ユーティリティ等を用いてご確認ください。

LAN/GPIB ゲートウェイを使用する時の Symbolic name は、 **lan[192.168.0.10]:gpib0** のような書式になります。



7章 動作確認

7 - 1 ユーザ設定の確認

ADS 2004A を起動する前に、ユーザの設定が完了しているかどうかを確認をします。

ADS を起動するには、ライセンスの設定を行なう必要があります。
環境変数 **AGILEESOFD_LICENSE_FILE** が正しく設定されているか、確認してください。設定されていない場合は、4 - 7 節をご覧ください。設定を行なってください。

お持ちのライセンスがパッケージ(ライセンス・バンドル)の方は、**License Preference Tool** から使用するライセンスを設定する必要があります。

注意 License Preference Tool は、ライセンス・バンドル形式のライセンスをご利用になっている方だけに必要な作業です。
それ以外の通常のライセンスをご利用になっている場合は、7 - 2 節にお進みください。

ADS 2002C 以前のバージョンで使用されていたライセンス・パッケージは、ADS 2003A から**ライセンス・バンドル**に変更されました。

ライセンス・バンドルからライセンスを取得する場合は、必ず License Preference Tool で作業を行なう必要がありますので、ご注意ください。License Preference Tool で使用するライセンス・バンドルを選択した後、ADS を起動してください。

注意 License Preference Tool で選択したライセンス・バンドルの情報は、各ユーザ毎に保存されます。
次回 ADS 起動時、使用するライセンス・バンドルを変更する必要がある場合は、**License Preference Tool を起動する必要はありません**。

(1) License Preference Tool の起動

License Preference Tool を起動するには、以下の二つの方法があります。

License Preference Tool

[スタート] メニューから、[プログラムの起動] (Windows® XP の場合は、[すべてのプログラム]) > [Advanced Design System 2004A] > [ADS Tools] > [License Preference Tool] を選択することで、License Preference Tool が起動します。

ADS 起動用ショートカット

ADS の起動用ショートカットを編集することで、License Preference Tool を起動することができます。

注意 この設定を行なうと、ADS を起動する度に License Preference Tool が起動します。

1. 起動用ショートカットのプロパティを開く

デスクトップ・アイコンから起動する場合は、ADS 起動用デスクトップ・アイコンのプロパティを開きます。デスクトップの ADS 起動用のアイコン上で、マウス・ボタンを右クリックし、プロパティを選ぶと開くことができます。

Advanced Design System プログラム・グループから起動する場合は、まずタスクバー上でマウスボタンを右クリックし、プロパティを選択します。詳細タブを選択すると、詳細ボタンがありますので、これをクリックします。エクスプローラのスタートメニューのフォルダが開きますので、ここから **[プログラム]**(Windows® XP の場合は[すべてのプログラム]) > [Advanced Design System] プログラム・グループを開き、**Advanced Design System 起動用ショートカット**上で、マウスの右ボタンをクリックし、プロパティを選択します。

2. 作業フォルダを変更します

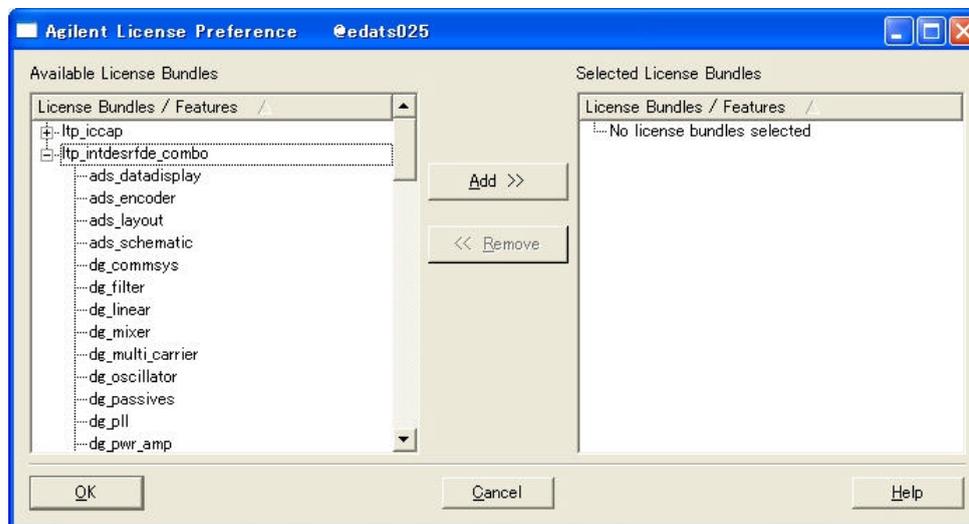
ショートカットのプロパティ・ウィンドウに、**[リンク先]** フィールドがありますので、ここに“-p”を加えます。例えば、ADS のインストール・ディレクトリが“C:¥ADS2004A”の場合、**[リンク先]** フィールドには“C:¥ADS2004A¥bin¥ads.exe”とありますので、これを、

```
C:¥ADS2004A¥bin¥ads.exe -p
```

と編集し、**[OK]** ボタンをクリックします。

(2) ライセンス・バンドルの選択

以下のような、License Preference Tool が起動します。



1. [Available License Bundles] に利用可能なライセンス・バンドル一覧が表示されます。バンドル名の左側の + マークをクリックすると、バンドルに含まれるライセンス一覧が表示されますので、使用したいライセンス・バンドルを探します。
2. [Available License Bundles] から、使用したいライセンス・バンドルを**一つだけ選択**し、**[Add]** ボタンをクリックすると、選択したライセンス・バンドルが [Selected License Bundles] 欄に移動します。
3. ライセンス・バンドルを変更したい場合は、[Selected License Bundles] 欄からライセンス・バンドルを選択して、**[Remove]** ボタンをクリックします。
4. よろしければ、**[OK]** ボタンをクリックして終了します。

参考 ここで設定した License Preference は以下のレジストリに保存されており、以後は License Preference Tool を起動しなくても、そのライセンス・バンドルを使用します。

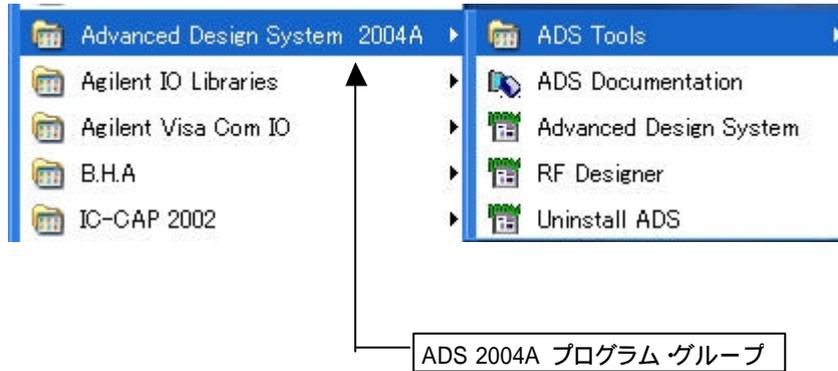
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE

¥FLEXlm License Manager¥AGILEESOFD_LICENSE_PREFERENCE

7 - 2 アプリケーションの起動

ADS 2004A を起動します。

[スタート] メニューから、[プログラム] (Windows® XP は[すべてのプログラム]) > [Advanced Design System 2004A] を選択していくと、ADS 2004A プログラム・グループが作成されています。



目的のメニューを選択してマウスをクリックすると、それぞれのプログラムが起動します。

メニュー中の“**Advanced Design System**”が、通常の ADS 2004A の起動メニューとなります。

注意 メニューの中に“**RF Designer**”がありますが、これは **Designer 製品(Lite版)専用**の起動メニューです。Designer を起動する場合は、専用のライセンス・コードワードが必要ですので、コードワードをお確かめの上、ご使用下さい。Designer 製品の場合は、**コードワードに“lite”という文字がついています。(例：ads schematic lite 等)**

ADS 2004A プログラム・グループには以下のショートカット/フォルダが作成されています。

■ ADS Tools

“ Adaptive Wave Comparator ” , “ Digital Filter Designer ” , “ DSP Synthesis ” , “ Library Translator ” , “ License Information Tool ” , “ License Preference Tool ” , “ LineCalc ” , “ Microwave Design System Import ” , “ Ptolemy Modelbuilder Shell ” , “ Series IV Import ” , “ SPICE Model Generator ” 等のショートカットが作成されています。

ただし、インストール時にこれらを選択していなかった場合は、作成されていません。

■ ADS Documentation

オンライン・マニュアルを開きます。

■ Advanced Design System

ADS 2004A の起動メニューです。通常はこのメニューから ADS 2004A を起動します。シミュレータ等の使い方については、各 User's Guide 等を参照してください。

■ RF Designer

RF Designer の起動メニューです。**RF Designer製品(Lite版)**を起動する時に使用します。詳しくは、Advanced Design System の User's Guide をお読みください。

■ Uninstall ADS

アンインストール・プログラムを起動します。ADS 2004A をコンピュータから削除する時に使用します。

7 - 3 ADS 2004A が起動しない時

ADS 2004A が起動しない時の対処方法を説明します。

ADS 2004A が起動しない場合の原因の殆どは、ライセンスのセットアップの誤りです。まず、ライセンスが正しく取得できているかをお確かめ下さい。

ライセンスの確認方法を含めた対処方法を以下に示します。

(1) 環境変数は正しく設定されていますか？

環境変数 “**AGILEESOFD_LICENSE_FILE**” は正しく設定されているでしょうか？

“**AGILEESOFD_LICENSE_FILE**” で、実際に設定された場所に、**license.lic** ファイルが存在するかどうかをもう一度ご確認ください。環境変数は「ユーザの環境変数」ではなく、「システム環境変数」の欄に設定するようにしてください。

環境変数の詳細については、**4 - 7 節**をご覧ください。

(2) ライセンス・ファイルは正しく設定されていますか？

(i) “license.lic” ファイル中の **SERVER** 行は正しいですか？(フローティング・ライセンスの場合)

ホスト名、FLEXid をもう一度ご確認ください。詳しいことは**4 - 5 節 3.**を参照してください。

(ii) “license.lic” ファイル中の **VENDOR** 行は正しいですか？(フローティング・ライセンスの場合)

サーバ・マシン上の正しいベンダ・デーモンのパスを入力してください。詳細は**4 - 6 節(4)**をご覧ください。

(iii) ライセンス・ファイルは正しいディレクトリに置かれているでしょうか？

環境変数 “**AGILEESOFD_LICENSE_FILE**” の内容と、実際の license.lic ファイルが置かれている場所を確認してください。環境変数については**4 - 7 節**を参照してください。

(iv) 正式なライセンス・ファイル以外のテキストファイルが置かれていないでしょうか？

例えば、以前のライセンス・ファイル(license.dat)等がライセンス設置フォルダにあると、ADS 2004A はそちらも認識し、ライセンス取得に失敗する場合があります。

ライセンスフォルダ(C:\¥ADS2004A¥licenses)には、現在有効なライセンス・ファイル以外のファイルは、バックアップ用も含めて置かないようお願いいたします。

(3) ハードウェア・キーは正しく接続されていますか？

ハードウェア・キーの接続/確認方法については、**4 - 5 節**を参照してください。

(4) サーバ・マシンでライセンス・デーモンは動作していますか？(ライセンス・サーバでの設定)

PC 一台だけでノードロック・ライセンスを使用している場合は、ライセンス・デーモンを起動する必要はありません。フローティング・ライセンス及び、ノードロックのライセンスを他のコンピュータから供給している場合は、この項目をお確かめ下さい。
デーモンを起動していない場合は 4 - 9 節を参考にデーモンの起動を行なってください。

ライセンス・デーモンの動作確認については、8 - 8 節を参照してください。

(5) コンピュータの時間は正確に合っていますか？

コンピュータの時刻が正確ではないと ADS 2004A が起動しない場合があります。コンピュータの時刻を正しく設定し直してください。

[スタート] メニューから、[設定] > [コントロール] を開き、[日付と時刻] のアイコンをダブル・クリックすると調べることができます。

以上の項目を調べても原因が分からない時は、EDAテクニカルサポートまでご連絡下さい。

原因を特定するために、予めソフトウェアのバージョン、OS のバージョン、エラー・メッセージ、発生条件と頻度等の情報を整理して、正しくお伝え下さい。

また、ログ・ファイルの作成をお願いする場合もございますので、

8 - 7 節「デバッグ・モードでの起動」

の方も目を通しておいてください。

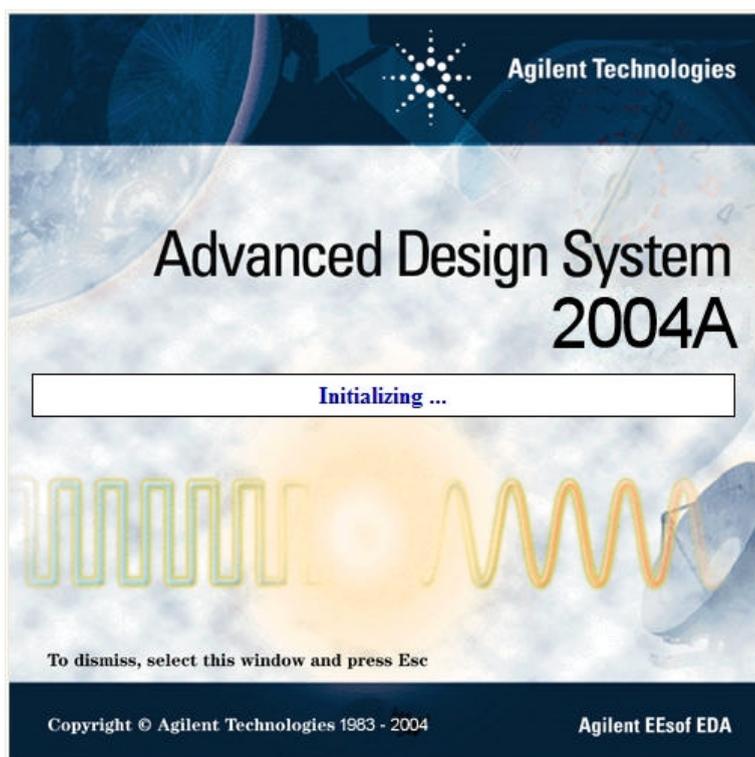
また、ご質問の際にFAXを使われる場合には、この手順書の最後に付属している「EDAテクニカルサポート サポート依頼 FAX 用紙」をご利用ください。

7 - 4 サンプル・ファイルによる動作確認

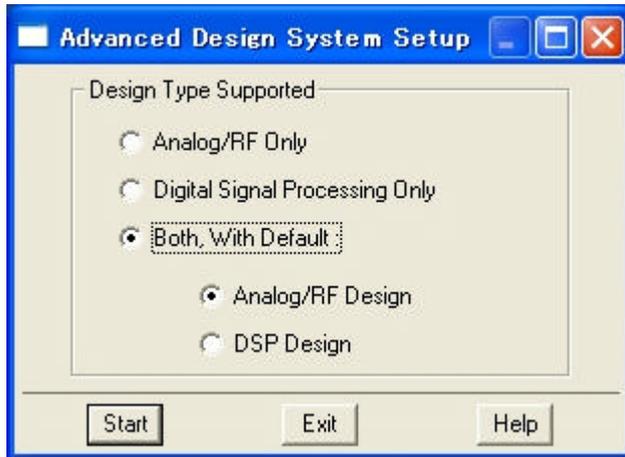
次にサンプル・ファイルを使って、ADS 2004A が正しくインストールされたかどうかを確認します。インストール時にサンプル・ファイルのインストールを行なわなかった場合は、ここでの手順(2)以降は進められません。また、お持ちのライセンスの種類によって、シミュレーションを実行できない場合がありますので、ご注意ください。

(1) ADS 2004A の起動

[スタート] > [プログラム] (Windows® XP の場合は、[すべてのプログラム]) > [Advanced Design System 2004A] > [Advanced Design System] を選択して、アプリケーションを起動します。**最初に** ADS 2004A のバージョン等が表示されたタイトル・バナーが表示されます。



初めて ADS 2004A を起動した場合は、下記の [Setup] ダイアログ・ボックスが表示されます。



ADS を使用する時の環境を定義するウィンドウです。

Analog/RF Only

Digital Signal Processing Only

Both, With Default:

 Analog RF/Design

 DSP Design

アナログ/RF回路設計用機能のみ使用可

デジタル信号処理回路設計用機能のみ使用可

上記両方の設計用機能を使用、

 初期設定を下記から選択

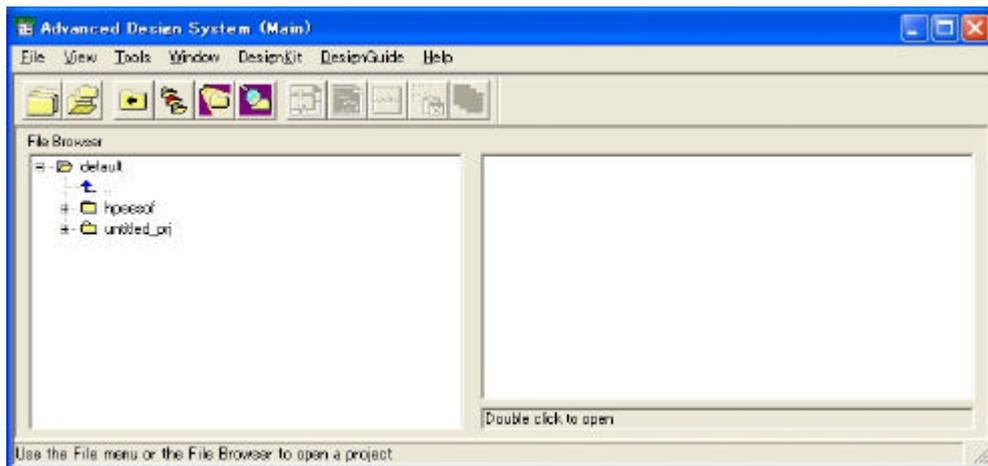
 アナログ/RF回路設計優先

 デジタル信号処理回路設計優先

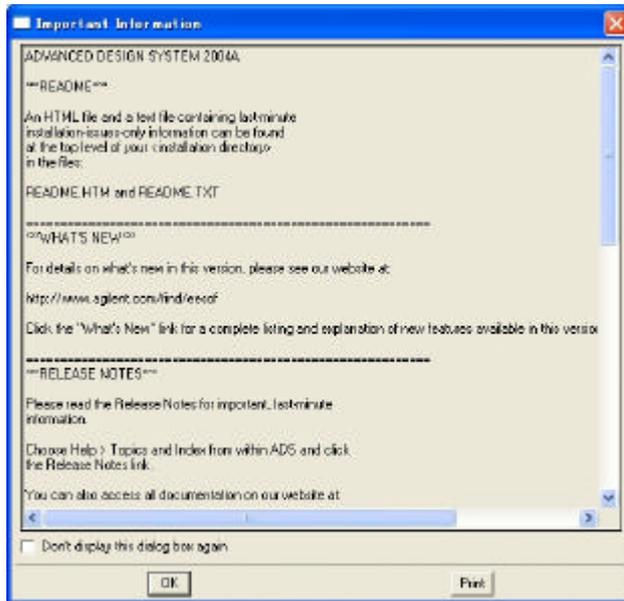
ここでは、[Both With Default :] を選択し、[Analog/RF Design] を選択します。

設定は後でも変更できます。

[Start] ボタンをクリックすると、ADSのメイン・ウィンドウが表示されます。



下記の [Important Information] ダイアログ・ボックスが表示されます。

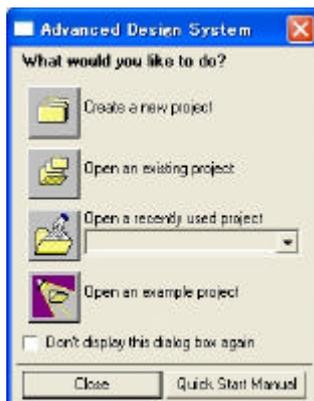


ADS 2004A の注意点や、新たに追加された機能が表示されます。同じ内容のファイルが、\$HPEESOF_DIR/config/readme.doc ファイルにあります。

次回起動時にこのダイアログ・ボックスを表示しないようにする場合は、[Don't display this dialog again.] のチェック・ボックスをチェックしてください。

[OK] ボタンをクリックし、このウィンドウを閉じます。

ADS 2004A では、起動時に下図のような [Greeting] ダイアログ・ボックスが表示されます。下記機能のアイコンをクリックするか、**[Close]** ボタンをクリックして、閉じてください。

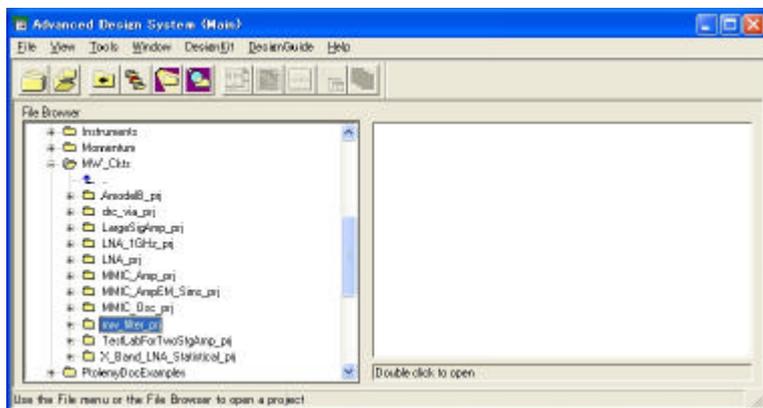


新規プロジェクト作成 [File]>[New Project]
既存プロジェクトのオープン [File]>[Open Project]
最近編集したプロジェクトのオープン
サンプル・プロジェクトをオープン
[File]>[Example Project]

次回起動時にこのダイアログ・ボックスを表示しないようにする場合は、[Don't display this dialog box again] のチェック・ボックスをチェックしてください。

(2) サンプル・プロジェクトの読み込み

既にインストールされているサンプル・ファイルを読み込みます。メイン・ウィンドウから **[File] > [Example Project]** を選択すると、File Browserにサンプル・ファイルの有るディレクトリの一覧を表示させることができます。

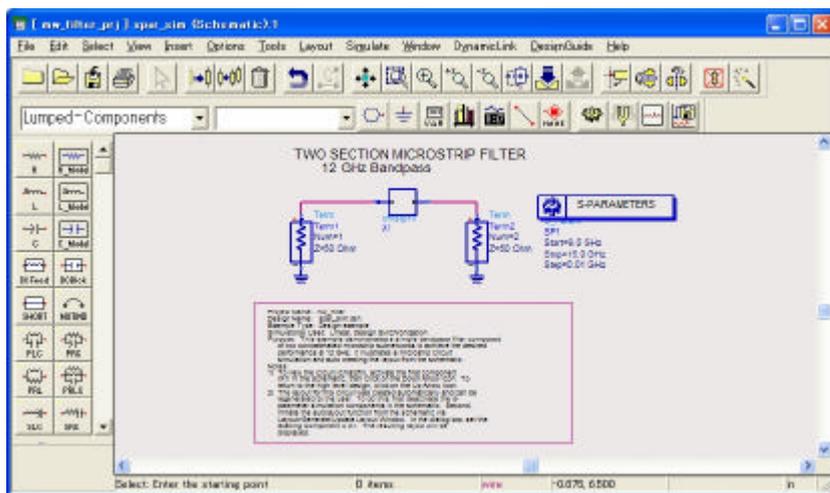


ここでは MW_Cktsフォルダ下の mw_filter.prj を選択して、ダブル・クリックしてください。このサンプルは、マイクロ・ストリップ・ラインで構成されたバンド・パス・フィルタの、Sパラメータ・シミュレーションを行なうように設定されています。

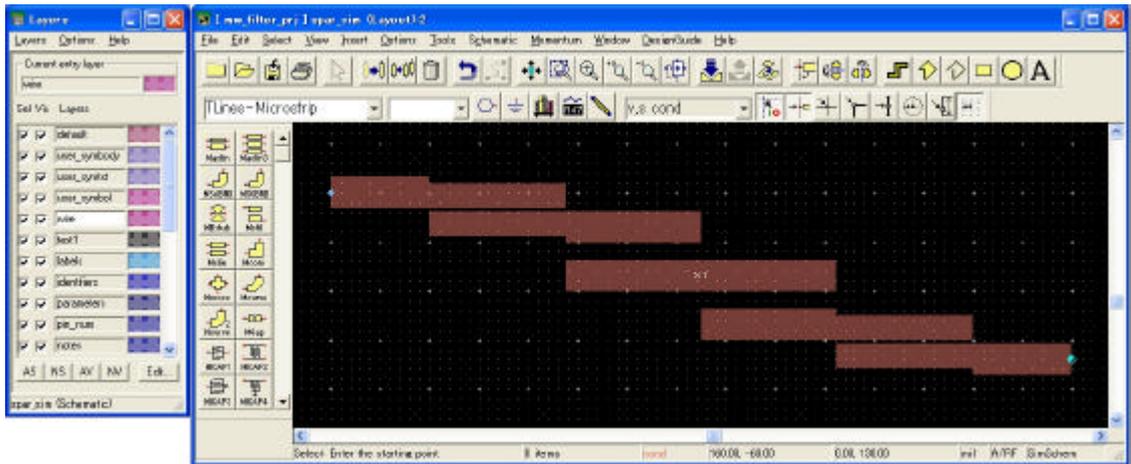
解析の実行には、リニア・シミュレータのライセンス・コードワード **sim_linear** が必要です。また、ADSを起動したユーザが、インストール・ディレクトリ下のファイルに対する書き込み権限を持っていない場合は、シミュレーションを実行することはできません。**[File] > [Copy Project]** メニュー等を用いて、mw_filter.prj をホーム・ディレクトリにコピーしてご利用ください。

サンプル・プロジェクト mw_filter.prjを開くと、下記のようなウィンドウが開きます。

スキマティック（回路図）・ウィンドウ



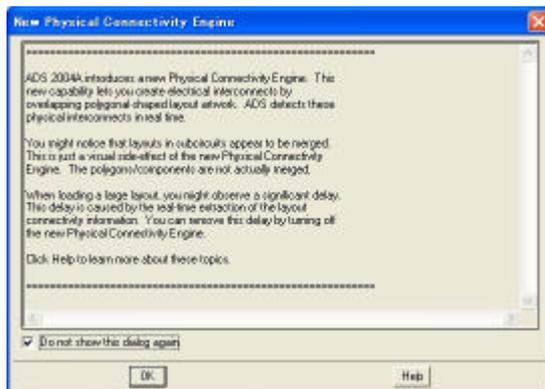
レイアウト・ウィンドウ



マイクロ・ストリップライン・フィルタの物理形状を示しています。

左側の Layersウィンドウでは、レイアウトのレイヤー情報と、設定変更を行なうことができます。

ADS 2004A では、初めてレイアウト・ウィンドウを開いた場合は、下図の [New Physical Connectivity Engine]ダイアログ・ボックスが表示されます。



ADS 2004Aのレイアウト機能の仕様変更に関する情報が表示されます。

次回以降このウィンドウを表示しないようにする場合は、[Do not show this dialog again.] のチェック・ボックスをチェックしてください。

[OK]ボタンをクリックして、このウィンドウを閉じます。

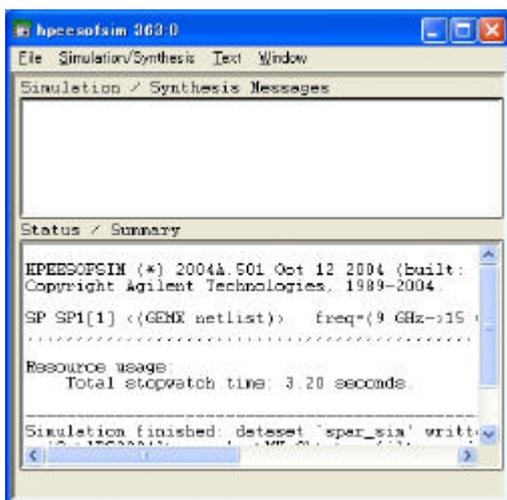
(3) シミュレーションを実行してみます。

スキマティック・ウィンドウで、**[Simulate]** > **[Simulate]**を選択すると、シミュレーションが実行されます。

注意 この時、お持ちのライセンスの種類によっては、ライセンス・エラーが発生する場合があります。

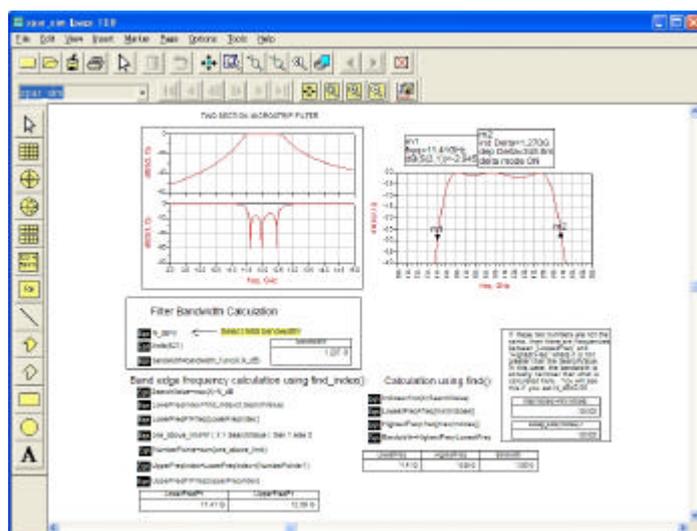
下記のウィンドウが表示されます。

ステータス・ウィンドウ



シミュレーションの進行状況、エラー情報等を表示します。

データ・ディスプレイ・ウィンドウ



シミュレーション結果を、図表で示します。

参考 シミュレーションの実行時にメモリ不足エラーが出た場合は、仮想メモリを増やす必要があります。本ソフトウェアでは仮想メモリは最低 300MByte/推奨 512MByte以上となっています。仮想メモリの設定についての詳細は 2 - 4 節(4)に掲載されています。こちらをご覧ください。

(4) 動作確認の終了

データ・ディスプレイの表示まで、正常に行なうことができれば、ADS 2004Aの基本動作については問題ありません。

メイン・ウィンドウで **[File] > [Exit Advanced Design System]** を選択して ADS 2004A を終了します。

8章 付録

8 - 1 ファイル・システムの共有

[1] はじめに

この節では、Windows® によるファイル・システムの共有について、説明します。
ファイル・システムの共有とは、あるマシン(ファイル・サーバ・マシン)に搭載されているドライブ上のファイルを、ネットワークを通じて他のマシンからも利用することができるようにするシステムのことです。

[2] 共有ファイル・システムを開始するには

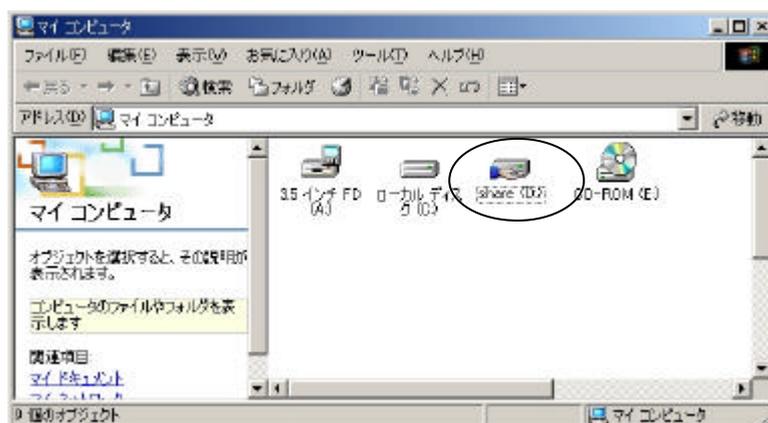
共有ファイル・システムを使うには、まず接続される側のマシン(ファイル・サーバ・マシン)側で設定を行なっておく必要があります。

1. まず、目的のドライブのディレクトリを共有可能に設定します。

■ Windows® 2000 / XP

- 1) [スタート] > [プログラム] > [アクセリ] > [エクスプローラ] で、エクスプローラを起動します。
- 2) 共有を行ないたいディレクトリを選択し、マウスの右ボタンをクリックして [プロパティ] を選択し、ディレクトリのプロパティを表示します。
- 3) [共有] タブを選択して、[共有する] チェック・ボックスをチェックします。この時、共有名を覚えておいてください。クライアント側で接続を行なう時に必要となります。
- 4) [OK] をクリックして、終了します。

共有が可能になっているディレクトリやドライブは、ファイルマネージャーやエクスプローラに表示されている名前の横のアイコンに手のマークがついています。



- [3] 共有ドライブに接続を行なうには
クライアント側の設定は、次の様な手順になります。

■ Windows® 2000

[スタート] メニューの、[プログラム] > [アクセサリ] > [エクスプローラ] を選択して、エクスプローラを起動します。[ツール] メニューの [ネットワーク・ドライブの割り当て] を選択します。



■ Windows® XP

[スタート] メニューの、[すべてのプログラム] > [アクセサリ] > [エクスプローラ] を選択して、エクスプローラを起動します。[ツール] メニューの [ネットワーク・ドライブの割り当て] を選択します。

クライアント・マシンで、サーバ・マシン上の ADS 2004A がインストールされているドライブに接続します。

1. [ドライブ]フィールドでローカルマシンのどのドライブに割り当てるかを選択します。
2. [パス]フィールドに接続したい共有名を入力します。
3. [ログオン時に再接続]にチェックを入れ、[OK] をクリックします。

共有のパスは “\\¥¥(ホスト名)¥(共有名)” という書式になっています。

(ホスト名)はファイル・サーバ・マシンのホスト名で、(共有名)は、サーバ側で設定した共有名です。

例えばサーバのホスト名が “hostname”、共有名が “share” とすると、パスは

“ \\¥¥hostname¥share ” となります。

8 - 2 TCP/IP、IPX/SPXプロトコルのインストール

[1] はじめに

TCP/IP プロトコルがインストールされていない場合は、ADS 2004A の一部機能が正しく動作しません。TCP/IP プロトコルは必ずインストールしてください。
また、ライセンスを LAN-ID で取得している場合は、IPX/SPX プロトコルがインストールされている必要があります。該当する場合はインストールしてください。

[2] TCP/IP が正しく構成されているか確認する方法

1. コマンドプロンプトを起動します。

■ Windows® 2000

[スタート] > [プログラム] > [アクセサリ] > [コマンドプロンプト] をクリックします。

■ Windows® XP

[スタート] > [すべてのプログラム] > [アクセサリ] > [コマンドプロンプト] をクリックします。

2. 次のコマンドを実行して、TCP/IP が正しく動作しているかの確認を行ないます。

> ping [hostname]

1) 最初に自分自身に ping コマンドをかけてみます。

ここでは、使用しているコンピュータのホスト名を myhost、その IP アドレスを 192.168.0.10 とした時の実行例で示しています。実際にはご使用になられているコンピュータ固有の値が出力されます。

```
C:\> ping myhost

Pinging myhost.agilent.com [192.168.0.10] with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.0.10: bytes=32 time<10ms TTL=32
Reply from 192.168.0.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
Reply from 192.168.0.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
Reply from 192.168.0.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
```

ping コマンドの実行例 (1)

- 2) 次に、別のコンピュータのホスト名を入力して確認します。

ここでは、別のコンピュータのホスト名に `anotherhost` を使っています。実際には、存在するホスト名で試してください。

```
C:\> ping anotherhost

Pinging anotherhost.agilent.com [192.168.0.11] with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.0.11: bytes=32 time=1ms TTL=255
```

ping コマンドの実行例 (2)

TCP/IPが正しく動作していれば、上記の実行例の様に

Reply from

という表示が返ってきます。何も表示が返って来なかったり、違う表示が現れた場合は、LANケーブルがきちんと接続されているか、TCP/IPの構成が正しく行なわれているか等をご確認ください。

なお、使用しているコンピュータのホスト名がわからない時は、以下の手順で調べてください。

[3] 使用しているコンピュータのホスト名の調べ方

■ Windows® 2000

1. **[スタート] > [設定] > [コントロール パネル]** をクリックして開きます。
2. **[システム]** アイコンをダブル・クリックして、**[システムのプロパティ]** ダイアログ・ボックスを開きます。
3. **[ネットワークID]** タブを選択すると **[フルコンピュータ名]** が書かれています。

■ Windows® XP

1. **[スタート] > [コントロール パネル]** をクリックして開きます。
2. **[パフォーマンスとメンテナンス]** を開き、**[システム]** アイコンをクリックして、**[システムのプロパティ]** ダイアログ・ボックスを開きます。
3. **[コンピュータ名]** タブを選択すると **[フルコンピュータ名]** が書かれています。

[4] TCP/IP(IPX/SPX) プロトコルのインストールと設定

設定を行なう前に、ご利用になっているネットワークの管理者に相談して、DHCP および DNS が利用できるかどうか、マシンの IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ等の情報・パラメータを確かめておいてください。

■ Windows® 2000

1. [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] をクリックし、その中の [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブル・クリックします。
2. [ダイヤルアップ接続]アイコンをダブル・クリックし、[ダイヤルアップ接続の状態]ダイアログの [プロパティ] をクリックします。
3. リスト・ボックス内に「インターネット プロトコル(TCP/IP)」があれば、それを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。
もしも、無かった場合は、[追加] ボタンをクリックし、[ネットワークプロトコル] フィールドの中から [TCP/IP] プロトコルを選択して、[OK] をクリックします。
4. [インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロパティ] ダイアログ・ボックスで、ネットワーク環境に合った設定を行なってください。

■ Windows® XP

1. [スタート] > [コントロールパネル] > [ネットワークとインターネット接続] をクリックし、その中の [ネットワーク接続] アイコンをクリックします。
2. [ダイヤルアップ接続]アイコンをダブル・クリックし、[ダイヤルアップ接続の状態]ダイアログの [プロパティ] をクリックします。
3. リスト・ボックス内に「インターネット プロトコル(TCP/IP)」があれば、それを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。
もしも、無かった場合は、[追加] ボタンをクリックし、[ネットワークプロトコル] フィールドの中から [TCP/IP] プロトコルを選択して、[OK] をクリックします。
4. [TCP/IPのプロパティ] ダイアログ・ボックスで、ネットワーク環境に合った設定を行なってください。

以上が終わったら [2] の TCP/IP が構成されているかどうかの確認を行ないます。

IPX/SPX プロトコルが必要な場合は、上記 TCP/IP と同様の手順で、プロトコルの中から IPX/SPX を選択してインストールしてください。

8 - 3 複数個の lmgrd を自動起動する方法

[1] はじめに

Windows® 2000 / XP で複数個の lmgrd を自動起動する方法を解説します。

これは、ADS 2004A と、それ以前のバージョンの ADS のライセンス・サーバを、個別のライセンス・ファイルを用いて、個別に起動する為の方法です。

ライセンス・ファイルを一つにまとめて、一つの lmgrd で使用する場合は、4 - 13 節の作業のみを行なってください。

参考 lmgrd を別々に起動する場合は、旧バージョンと新バージョンのライセンス・ファイルを別々に管理できるため、違うバージョンのライセンス・サーバに影響を与えずにコードワードの更新作業を行なえる等の利点があります。

[2] 二つ目の lmgrd 自動起動のサービスをインストールします

ここでは、既に 4 - 10 節の作業手順で、2004A 用ライセンス・サーバをサービスに登録し、起動しているものとして説明します。

以下の手順で、二つ目の ADS 2002 / 2002C 用のライセンス・サーバを起動します。

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. コマンドラインから以下のコマンドを実行します。

<書式> cd <Installation directory>%licenses%bin

<例 1 > cd C:%ADS2002C%licenses%bin

<Installation Directory> は、ADS 2002C がインストールされているディレクトリを指します。標準的なインストールを行なった場合は、上記のコマンドは、“cd C:%ADS2002C%licenses%bin” と入力することになります。

次のコマンドを実行し、サービスのインストールを行ないます。

**<書式> install -n <サービス名> -e <lmgrdのパス> -c <license.licのパス>
-l <ログのパス>**

<例 1 > install -n "FLEXlm License Manager for ADS2.0"
-e C:%ADS2002C%licenses%bin%lmgrd.exe
-c C:%ADS2002C%licenses%license.dat
-l C:%ADS2002C%licenses%flex 20.log

<サービス名> には、ADS 2004A用のサービスとは異なる名前を付けてください。内容は任意ですが、この名前を用いてサービスの停止・削除を行ないます。

<lmgrdのパス> は、ADS 2002 / 2002C の lmgrd.exe を、フル・パスで記述します。
<license.datのパス> は、ADS 2002 / 2002C用の license.lic ファイルをフル・パスで指定します。この場合は、ADS 2002用の、ベンダ・デーモンが **agileesof** のファイルです。
<ログのパス>は FLEXlm のログ・ファイルのパスを表します。

下記が実際にコマンドを実行した時の、表示例です。

```
C:¥> cd C:¥ADS2002C¥licenses¥bin
C:¥ADS2002C¥licenses¥bin> install -n "FLEXlm License Manager for ADS2.0"
-e C:¥ADS2002C¥licenses¥bin¥lmgrd.exe -c C:¥ADS2002C¥licenses¥license.lic
-l C:¥ADS2002C¥licenses¥flex20.log
FLEXlm License Server is successfully installed as one of your Windows NT
Services. Some handy tips:

    * To start FLEXlm License Server, use the Services icon
      from the Control Panel.
    * FLEXlm License Server will be automatically started
      every time your system is booted.
    * FLEXlm service log file is lmgrd.log in your NT system
      directory.
    * To remove FLEXlm License Server, type 'install remove'

*****
Unable to check the permissions of the files you just installed
Make sure that if you have installed on a NTFS partition, that
the System user account has access to these files.
C:¥ADS2002C¥licenses¥bin>
```

サービス・インストールの実行例

注意 ADS 2002C 以前の ADS のバージョンでは、サービス・インストールのコマンドは **"install"** でしたが、ADS 2003A以降、**"installs"** に変更になっています。

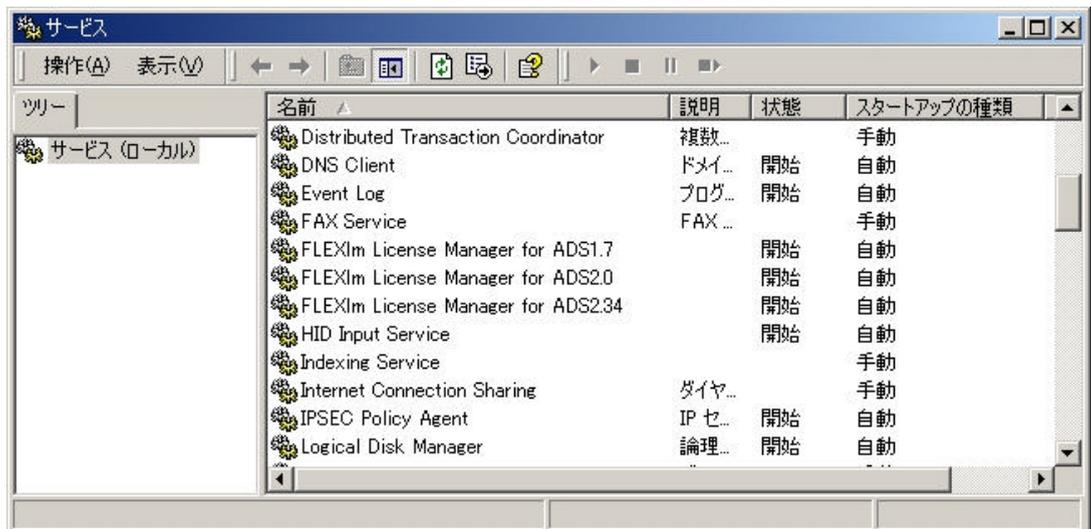
3. サービスを確認します。

■ Windows® 2000 の場合

[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] で、コントロールパネルを開きます。

[管理ツール] アイコンをダブル・クリックして開きます。

[サービス] アイコンをダブル・クリックすると、[サービス] ダイアログ・ボックスが現れます。



この例では、

FLEXlm License Manager for ADS1.7 ADS 2001以前用

FLEXlm License Manager for ADS2.0 ADS 2002/2002C用

FLEXlm License Manager for ADS2.34 ADS 2003A/C / 2004A用

の 3種類のサービスが実行されていることがわかります。

■ Windows® XP の場合

[スタート] > [コントロールパネル] > [パフォーマンスとメンテナンス] > [管理ツール] アイコンをダブル・クリックして開きます。

[サービス] アイコンをダブル・クリックすると、[サービス] ダイアログ・ボックスが現れます。

4. サービスの開始と、自動起動の設定

install コマンドを実行した段階では、サービスがインストールされただけで、まだ実行はされていません。

実行するには、コンピュータを再起動するか、サービスを選択して、**[開始]**ボタンをクリックします。

詳しい設定方法は、**4 - 10 節**を参照してください。

注意 開始ボタンをクリックした時にもし、エラー・メッセージが表示されてサービスが開始されなかった場合は、インストールに失敗している可能性があります。“lmgrd.exe” ファイルやライセンス・ファイルのパスを今一度ご確認ください。エラーが出た場合は、次の「**ライセンス・デーモン自動起動サービスの削除方法**」を参考に、一度サービスを削除した後、“lmgrd.exe” のパスを確認のうえ、再度インストールを行なってください。

[3] ライセンス・デーモン自動起動サービスの削除方法

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. コマンドラインから以下のコマンドを実行します。

<書式> cd <Installation directory>%licenses%bin

<例 1 > cd C:%ADS2002C%licenses%bin

3. 以下のコマンドでサービスを削除します
この時、**サービス名を忘れずにつけてください。**
サービス名が指定されていない場合は、**4 - 10 節**で先にインストールした ADS 2004A 用の自動起動サービスが削除されてしまう恐れがあります。

<書式> install -n <サービス名> -r

<例 1 > install -n " FLEXlm License Manager for ADS2.0" -r

4. **install -r** コマンドの実行後、コンピュータを再起動してください。

8 - 4 複数のバージョンの ADS を使用する方法

[1] はじめに

この節では、複数のバージョンの ADS (例えば、ADS2003C と ADS 2004A) を起動する方法について解説します。

[2] 複数のバージョンの ADS を使用するには？

複数のバージョンの ADS を使用する場合は、インストール時のホーム・ディレクトリを設定を異なったパスに設定する必要があります。これは、それぞれのバージョンの ADS が使用する設定ファイル等が、同じディレクトリで共有されることによる障害を防ぐためです。

例えば、ADS 2003C と ADS 2004A を同じ PC で使用したい場合を考えます。ADS 2003C が既にインストールされており、ホーム・ディレクトリが “ C:¥users¥defaults¥ads2003c ” に設定されているとすると、ADS 2003C はこのディレクトリの下にプロジェクト・ファイル等を保存します。

よって、同じ PC に ADS 2004A をインストールしたい場合は、ADS 2004A のホーム・ディレクトリを、ADS 2003C 用のディレクトリと異なるディレクトリ(例えば “ C:¥users¥defaults¥ads2004a ”)に設定します。

この場合は、ADS 2003C と ADS 2004A をどちらも正しく使用することができます。

[3] ホーム・ディレクトリを設定を変更するには？

ホーム・ディレクトリを設定を ADS のバージョン毎に設定するには、**レジストリを変更する方法**と、**各 ADS 毎の起動用のバッチファイルを記述**する方法があります。

以下にその方法を説明します。

■ レジストリを変更する方法

注意 レジストリの編集には Windows® OS のレジストリ・エディタを使用します。レジストリには OS やアプリケーションの動作に関する重要な設定が記録されています。設定を誤ると、アプリケーション、或いは、OS そのものの動作に支障を来たす場合がありますので、編集を行なう際は十分にご注意ください。

まず、古いバージョンの ADS のホーム・ディレクトリを設定します。ここでは、ADS 2003C の場合で説明します。（**ADS 2003C は、ADS Version.2.5** にあたります）

1. [スタート] > [ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. [名前] 欄に、“regedit” と入力し、[OK] ボタンをクリックします。
3. レジストリ・エディタが起動しますので、
HKEY_LOCAL_MACHINE > SOFTWARE > Agilent > ADS > 2.5 > eeenv を選択します。
4. HOME という名前の変数が、ホーム・ディレクトリの設定です。（初期設定値は “C:¥users¥default”）
これを新しいディレクトリ（例えば、“C:¥users¥defaults¥ads2003c”）に変更します。
5. レジストリ・エディタを終了します。

次に、新しいバージョンの設定を同様に行ないます。ここでは、ADS 2004A の場合で説明します。（**ADS 2004A は、ADS Version.2.7** にあたります）

1. [スタート] > [ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. [名前] 欄に、“regedit” と入力し、[OK] ボタンをクリックします。
3. レジストリ・エディタが起動しますので、
HKEY_LOCAL_MACHINE > SOFTWARE > Agilent > ADS > 2.7 > eeenv を選択します。
4. HOME という名前の変数が、ホーム・ディレクトリの設定です。（初期設定値は “C:¥users¥default”）
これを新しいディレクトリ（例えば、“C:¥users¥defaults¥ads2004a”）に変更します。
5. レジストリ・エディタを終了します。

ホーム・ディレクトリを変更したら、起動時にそのフォルダが開かれるように、各バージョン毎に **ADS 起動用ショートカットの作業フォルダを変更** します。
この作業は 8 - 5 節を参考にしてください。

■ バッチファイルを作成する方法

バッチファイルで環境変数 “ HOME ” の値を切り替えることによって、複数のバージョンの ADS を使用することができます。ここでは、そのバッチファイルのサンプルを掲載します。

1. ADS 2003C 起動用バッチファイル

```
REM *****
REM * ADS 2003C Startscript
set HOME=C:\users\defaults\ads2003c
set AGILEESOFD_LICENSE_FILE=27000@edasvr
set HPEESOF_DIR=C:\ADS2003C
set COMPL_DIR=%HPEESOF_DIR%
set DOCS_DIR=%HPEESOF_DIR%
set TCL_LIBRARY=%HPEESOF_DIR%\hptolemy\tools\tcltk\lib\tcl8.0
set TK_LIBRARY=%HPEESOF_DIR%\tools\tcltk\lib\tk8.0
set
WBMLANGPATH=.%\HOME%\custom\bitmaps%;%HPEESOF_DIR%\custom\bitmaps%;%HOME%\hpeesof\Yesyn\bitmaps%;%HOME%\hpeesof\lapi\bitmaps%;%HOME%\hpeesof\dfilter\bitmaps%;%HOME%\hpeesof\dsynthesis\bitmaps%;%HOME%\hpeesof\circuit\bitmaps%;%HOME%\hpeesof\hptolemy\bitmaps%;%HOME%\hpeesof\de\bitmaps%;%HPEESOF_DIR%\lapi\bitmaps%;%HPEESOF_DIR%\Yesyn\bitmaps%;%HPEESOF_DIR%\dfilter\bitmaps%;%HPEESOF_DIR%\dsynthesis\bitmaps%;%HPEESOF_DIR%\circuit\bitmaps%;%HPEESOF_DIR%\hptolemy\bitmaps%;%HPEESOF_DIR%\de\bitmaps%
cd %HOME%\HPEESOF_DIR%\bin\ads
REM * end script
REM *****
```

2. ADS 2004A 起動用バッチファイル

```
REM *****
REM * ADS 2004A Startscript
set HOME=C:\users\defaults\ads2004a
set AGILEESOFD_LICENSE_FILE=27000@edasvr
set HPEESOF_DIR=C:\ADS2004A
set COMPL_DIR=%HPEESOF_DIR%
set DOCS_DIR=%HPEESOF_DIR%
set TCL_LIBRARY=%HPEESOF_DIR%\hptolemy\tools\tcltk\lib\tcl8.0
set TK_LIBRARY=%HPEESOF_DIR%\tools\tcltk\lib\tk8.0
set
WBMLANGPATH=.%HOME%\custom\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\custom\bitmaps;%HOME%\hpeesof\Yesyn\bitmaps;%HOME%\hpeesof\lapi\bitmaps;%HOME%\hpeesof\dfilter\bitmaps;%HOME%\hpeesof\dsynthesis\bitmaps;%HOME%\hpeesof\circuit\bitmaps;%HOME%\hpeesof\hptolemy\bitmaps;%HOME%\hpeesof\de\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\lapi\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\esyn\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\dfilter\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\dsynthesis\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\circuit\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\hptolemy\bitmaps;%HPEESOF_DIR%\de\bitmaps
cd %HOME%
%HPEESOF_DIR%\bin\ads
REM * end script
REM *****
```

3. 起動用ショートカットの作成

作成したバッチファイルの、起動用のショートカットを作成します。

デスクトップ上で、マウスの右クリックをし、**[新規作成] > [ショートカット]** を選択します。ショートカット作成のウィンドウが現れますので、先程作成したバッチファイルを指定します。

ショートカットを分かりやすい名前に変更します。(例えば、ADS 2004A 等)

以上の作業を、作成したバッチファイルの分繰り返します。

8 - 5 節「起動時の作業フォルダの設定を変更する方法」を参考に、作成したショートカット全ての、「起動時の作業フォルダ」をホーム・ディレクトリにあわせて変更します。

8 - 5 起動時の作業フォルダの設定を変更する方法

[1] はじめに

この節では、ADS 起動時の作業フォルダを変更する方法を説明します。

[2] ADS 起動時の作業フォルダの変更

ADS 起動時の作業フォルダとは、ADS を起動した時に “File Browser ”に表示されているフォルダを指します。ここでは通常、ADS をインストールした時にホーム・ディレクトリとして指定したフォルダが設定されています。

このフォルダを変更するには、ADS 起動用のショートカットの**“作業フォルダ”**を変更します。インストール後、ホーム・ディレクトリの設定を変更しても、作業フォルダは変更されません。

1. 起動用ショートカットのプロパティを開く

デスクトップ・アイコンから起動する場合は、ADS 起動用デスクトップ・アイコンのプロパティを開きます。デスクトップの ADS 起動用のアイコン上で、マウスボタンを右クリックし、プロパティを選ぶと開くことができます。

Advanced Design System プログラム・グループから起動する場合は、まずタスクバー上でマウスボタンを右クリックし、プロパティを選択します。詳細タブを選択すると、詳細ボタンがありますので、これをクリックします。エクスプローラのスタートメニューのフォルダが開きますので、ここから**[プログラム]**(Windows® XP の場合は**[すべてのプログラム]**) > **[Advanced Design System]** プログラム・グループを開き、Advanced Design System 起動用ショートカット上で、マウスの右ボタンをクリックし、プロパティを選択します。

或いは、このショートカットをデスクトップにコピーして、そちらを変更していただいても結構です。



2. 作業フォルダを変更します

ショートカットのプロパティ・ウィンドウに **【作業フォルダ】** フィールドがありますので、ここを目的のフォルダ名に変更し、**【OK】** ボタンをクリックします。

これで、次回起動時より ADS メイン・ウィンドウの **File Browser** に、先程設定したフォルダが展開されて開くようになります。

8 - 6 プロセスの停止

[1] はじめに

ここでは、ADS 2004A の実行中に、何らかの問題が発生して、プロセスを終了させたい時の注意点を述べます。

[2] プロセスの種類

次の3つのプロセスは、タスクマネージャから「プロセスの終了」を行なっても、安全にプログラムを終了させることができます。

hpeesofde.exe	ADS 2004A プログラムを終了させることができます。
hpeesofdds.exe	Data Display Server を停止します。
hpeesofdss.exe	Dataset Server を停止します。

次にあげるプロセスは、「プロセスの終了」は極力行なわないで下さい。データ破損等の問題を発生させる場合があります。

hpeesofsess.exe
hpeesofsim.exe
hpeesofbrowser.exe
hpeesofemx.exe

[3] プロセス終了方法

1. キーボードの **[Ctrl]-[Alt]** の二つのキーを同時に押しながら、**[Delete]** ボタンをクリックすると、**[Windows のセキュリティ]** ウィンドウが現れます。**[タスク マネージャ]** ボタンをクリックして、タスクマネージャを開きます。(タスクバー上で右クリックし、メニューからタスクマネージャを選択していただいても結構です)
2. **[プロセス]** タブを選択して、プロセス一覧を表示します。
3. 目的のプロセスを選択して、マウスの右ボタンをクリックします。現れたメニューの中から、**[プロセスの終了]** を選択します。
4. 確認の画面が現れますので、**[はい]** を選択すると対象プロセスは終了します。

8 - 7 デバッグ・モードでの起動方法

[1] はじめに

Advanced Design System プログラムの詳細なログ・ファイルの作成方法を説明します。ログ・ファイルは、Advanced Design System が正常に動作しない場合等に作成し、プログラムの問題点・対処法を探すために参照します。

[2] デバッグ・モードについて

ADS 2004A をデバッグ・モード (Verbose Mode) で起動すると、ADS 2004A 内部処理の詳細な記録が、テキスト形式でログ・ファイルに出力されます。ログ・ファイルは、ご使用になっている PC のルート・ディレクトリに保存されます。通常は、“ C:¥ads_daemon.log ” というファイルになります。

デバッグ・モードでの起動は以下の手順で行ないます。

1. エクスプローラを開きます。
2. ADS 2004A がインストールされているディレクトリの、“ bin ” フォルダを開きます。通常は “ C:¥ADS2004A¥bin ” フォルダとなっています。
3. “ bin ” フォルダに、“ **ads_verbose.bat** ” ファイルがありますので、これをダブル・クリックして起動します。

以上の作業を行なうと、ADS 2004A がデバッグ・モードで起動します。起動前に通常の起動時には出ないメッセージ・ウィンドウが数個出現しますが、**[OK]** ボタンをクリックして、先に進みます。

ADS で問題が起こる場合の手順を再現し、デバッグ・ログ・ファイル “ **ads_daemon.log** ” の内容を確認します。

ログ・ファイルを見ても問題が解決されない場合は、ログ・ファイルを E-Mail 等で EDA テクニカルサポートまで送付してください。

8 - 8 FLEXlm ユーティリティ

[1] はじめに

FLEXlm のユーティリティの代表的なコマンドの解説をします。ユーティリティを用いると、ライセンスの供給が正しく行われているか、ライセンス・ファイルが正しいものかどうか等を調べることができます。FLEXlm については、Macrovision社(旧 GLOBEtrrotter Software社)のWEB サイトでも情報を得ることができます。

http://www.macrovision.com/products/legacy_products/flexlm/index.shtml

[2] FLEXlmユーティリティの種類

FLEXlm ユーティリティは、<ADS のインストール・ディレクトリ>¥licenses¥bin ディレクトリ下 (aglmtool のみ、<ADS のインストール・ディレクトリ>¥ bin ディレクトリ下) にあります。

aglmtool

GUI 版 FLEXlm ユーティリティです。 ADS 2003A / 2004A 専用 となっていますので、ベンダ・デーモン名が、 agileesofd のライセンスしか扱えません。

lmutil

テキスト版 FLEXlm ユーティリティです。FLEXlm 標準のツールですので、全てのベンダ・デーモンに対応しています。下記のオプションを付けることにより、さまざまな機能を実現可能です。この節で解説を行なう代表的なオプションの一覧が以下のリストになります。

lmstat	有効なライセンスの表示と、現在使用(占有)されているライセンスの表示が行なえます。
lmdiag	有効なライセンスの表示と、使用開始日 / 終了日等の表示が行なえます。
lmreread	ライセンス・ファイル(license.lic)を再度読み込ませる時に使用します。 license.lic ファイルを変更した時は必ず実行してください。
lmdown	FLEXlm のデーモン(lmgrd と agileesofd)を停止する時に使用します。
lmpath	ライセンス・パスの設定を行なう時に使用します。

lmgrd

次の命令は、ユーティリティではありませんが、FLEXlm のバージョンを表示できます。

lmgrd	FLEXlm の本体プログラムです。FLEXlm のバージョンを表示することができます。
-------	--

[3] FLEXlm ユーティリティを起動する前に

FLEXlm ユーティリティ起動前に、環境変数 AGILEESOFD_LICENSE_FILE を設定します。ただし、環境変数の設定をせず、各コマンドの **-c** オプションでライセンス・パスを指定することも可能です。
環境変数の設定方法は、**4 - 7 節**をご覧ください。

[4] aglmtool の使い方

aglmtool を起動するには、以下の三つの方法があります。

License Information Tool メニュー

[スタート] メニューから、**[プログラムのフォルダ]** (Windows® XP の場合は、**[すべてのプログラム]**) > **[Advanced Design System 2004A]** > **[ADS Tools]** > **[License Information Tool]** を選択することで、License Information Tool (aglmtool) が起動します。

ADS の メイン・ウィンドウ

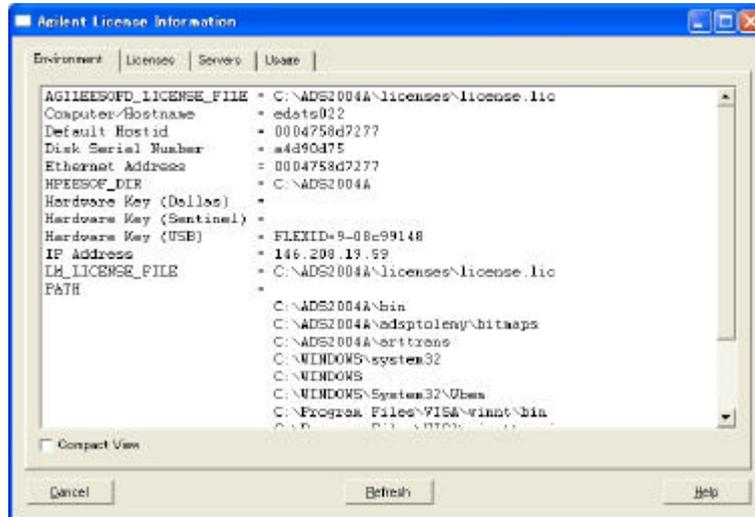
ADS が起動している状態で、ADS のメイン・ウィンドウのメニューから、**[Tools]** > **[License Information]** を選択することで、License Information (aglmtool) が起動します。

コマンドプロンプト

コマンドプロンプトを開いて以下のコマンドを実行するか、**[スタート]** > **[ファイル名を指定して実行]** を開き同じく以下のコマンドを実行します。

<書式> <Installation Directory>\%bin%\aglmtool
< 例 > C:\ADS2004A\bin\aglmtool

以下のような、[Agilent License Information] ダイアログ・ボックスが起動します。



各タブは、以下のような内容を表示します。

Environment	ユーザの現在の使用環境を表示します
Licenses	有効なライセンスが、ライセンス名でソートされて表示されます
Servers	有効なライセンスが、サーバ毎に表示されます
Usage	ライセンスの使用状況が表示されます

[5] lmutil コマンドの使い方

lmdiag

この命令を使用することによって、ライセンスの妥当性のチェックを行うことが出来ます。ライセンス・ファイル中の、ライセンスの名前、使用開始 / 終了日、ライセンス形態等の表示を行いません。ただし、フローティング・ライセンス等、ライセンス・サーバからライセンスの供給を受ける時は、ライセンス・デーモンが動いている必要があります。

(1) 使用方法

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. ユーティリティプログラムが入っているディレクトリに移動します。通常は、“<Installation Directory>\licenses\bin” にあります。ADS 2004A がインストールされているディレクトリを、“C:\ADS2004A” とすると、以下のコマンドを入力することになります。

<書式> cd C:\ADS2004A\licenses\bin

3. 以下のコマンドで、lmdiag 命令を実行します。

> **lmutil lmdiag -c <License File>**

“-c”以降の、<License File> は、ライセンス・ファイルのパスとファイル名を示します。ライセンス・ファイルが、“C:¥ADS2004A¥licenses¥license.lic”だとすると、上記のコマンドは、“lmutil lmdiag -c C:¥ADS2004A¥licenses¥license.lic”と入力することになります。

4. ライセンス一つ一つに関して、ステータスが表示されますので、確認します。

(2) 実行結果の見方

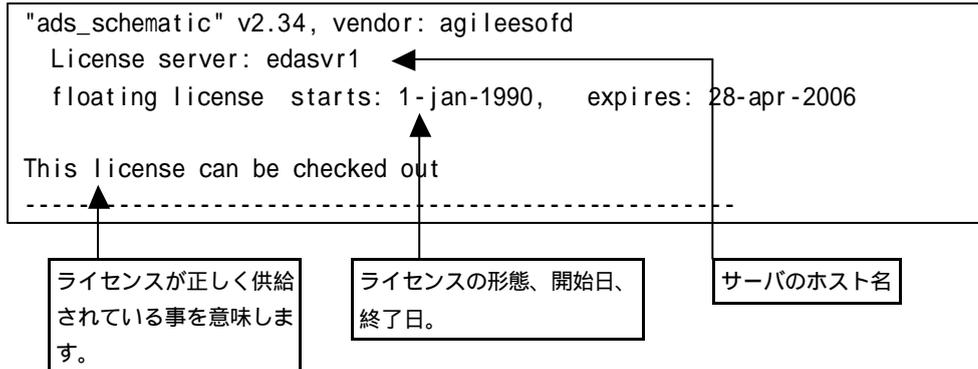
以下に実行結果の例を示します。

1. 正しい例(フローティング・ライセンスの場合)

ライセンス・ファイルの内容(一部)

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 28-apr-2006 5 ¥
VENDOR_STRING="9-08C99148 : KMYMQAR FZAWDGX YDNSH1G Y2GPVZU ¥
JCELDEU LOQLIWS JE1YMNBJ WJ1Y" SIGN="0035 B4F3 5F76 774E C762 ¥
185F EFE2 CE3A 49D8 DECB 7D02 4605 F45D 3166 F0B5 F33E 87FE ¥
E619 3065 62EC 4146"
```

結果表示



2. 間違った例(フローティング・ライセンスで、ライセンス・サーバが起動していない)

ライセンス・ファイルの内容

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 28-apr-2006 5 ¥
  VENDOR_STRING="9-08C99148 : KMYMQAR FZAWDGX YDNSH1G Y2GPVZU ¥
  JCELDEU LOQLIWS JE1YMNW WJ1Y" SIGN="0035 B4F3 5F76 774E C762 ¥
  185F EFE2 CE3A 49D8 DECB 7D02 4605 F45D 3166 F0B5 F33E 87FE ¥
  E619 3065 62EC 4146"
```

結果表示

```
"ads_datadisplay" v2.34, vendor :agileesofd
  License server: edasvr1
  floating license starts: 1-jan-1990, expires: 28-apr-2006
```

This license cannot be checked out because:
Cannot connect to license server

... I will try to determine what the problem is...

```
"telnet" port (23) on node edasvr1 does not respond
->if edasvr1 is a Unix system, it's probably down
-----
```

ライセンスが正しく
供給されていません。

ライセンス・サーバに接続できなかったために、ステータスが表示されません。

3. 正しい例(ノードロック・ライセンスの場合)

ライセンス・ファイルに、`uncounted` の項目がある場合は、PC単体でライセンス・デーモンを起動せずに ADS 2004A を使用することができます。この場合は、他のライセンス・サーバからライセンス供給を受ける場合と違って、ライセンス・デーモンが起動していなくても、`lmdiag` コマンドを使用することができます。

ライセンス・ファイルの内容(一部)

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 28-apr-2006 1 ¥
  VENDOR_STRING="9-08C99148 : KMYMQAR FZAWDGX YDNSH1G Y2GPVZU ¥
  JCELDEU LOQLIWS JE1YMNW WJ1Y" HOSTID=FLEXID=9-08C99148 ¥
  SIGN="0013 126B 1326 5566 5A59 A509 E999 2E8F 453B 5C0E 6E01 ¥
  90C0 1B77 4B40 A369 C489 977C 0A71 7ED8 E17B 319C"
```

結果表示

```
"ads_datadisplay" v2.34, vendor: agileesofd
  uncounted nodelocked license, locked to FLEXID dongle "FLEXID=9-08C99148"
  starts: 1-jan-1990,   expires: 28-apr-2006

This is the correct node for this node-locked license, but
I don't know if the license-key is good or not
-----
```

ライセンスが正しく供給
されている事を意味しま
す。

ライセンスの、形態・
開始日/終了日。

4. 誤った例(ノードロック・ライセンスの場合)

ライセンス・ファイルの内容(一部)

```
INCREMENT ads_schematic agileesofd 2.34 28-apr-2006 1 ¥
VENDOR_STRING="9-08C99148 : KMYMQAR FZAWDGX YDNSH1G Y2GPVZU ¥
JCELDEU LOQLIWS JE1YMNBJ WJ1Y" HOSTID=FLEXID=9-52498400 ¥
SIGN="0013 126B 1326 5566 5A59 A509 E999 2E8F 453B 5C0E 6E01 ¥
90C0 1B77 4B40 A369 C489 977C 0A71 7ED8 E17B 319C"
```

結果表示

```
"ads_datadisplay" v2.34, vendor: agileesofd
uncounted nodelocked license, expires: 28-apr-2006

This license cannot be checked out because:
Invalid license file syntax
Feature:      ads_datadisplay
License path: C:¥ADS2004A¥licenses¥license.lic
FLEXlm error: -2,134
For further information, refer to the FLEXlm End User Manual,
available at " www.globetrotter.com ".
Hostid required for uncounted feature
-----
```

ライセンスが正しく
供給されていません。

上記例では、ライセンス・ファイルの HOSTID の項目に間違いがあります。ライセンスが正しくチェックアウトされないため、“ada_datadisplay”は使用することが出来ません。

四行目以降のエラー・メッセージには、ライセンスの名前や使用されたライセンス・ファイル名、エラーコード等が表示されています。エラーコードは、Macrovision社のWEB ページで調べることができます。

注意 “lmdiag”命令を用いた時に、“starts: (ライセンス開始日)が“1-jan-2025””というように、“expires: (ライセンス期限切れ日)よりかなり未来の日付で表示される場合があります。

この現象は、ご利用になっている FLEXlm のツールが ADS 2004A 付属のものより古い場合に主に発生します。ADS 2004A のライセンス・ツールが使用されているか、環境変数(HPEESOF_DIR や Path) や、ベンダ・デーモンのパス設定等をもう一度ご確認ください。

lmstat

lmstat 命令では、ライセンス・サーバの所持しているライセンス数・発行済みのライセンス数等を調べることが出来ます。このコマンドは、ライセンス・サーバに接続を行ないますので、**PC単体でライセンス・デーモンを起動せずに使用する場合は、ご利用になれません。**

1. コマンドプロンプトを立ち上げて、次の命令を実行します。

```
> cd <Installation Directory>%licenses%bin  
> lmutil lmstat -a -c <license.lic のパス>
```

2. ライセンス・デーモンが動作している時はライセンス情報が表示され、動作していない時はエラー・メッセージが表示されます。

<ライセンス・サーバに接続できた時の表示>

```
C:%ADS2004A%licenses%bin>lmutil lmstat -a -c C:%ADS2004A%licenses%license.lic  
lmutil - Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights reserved.  
Flexible License Manager status on Wed 12/1/2004 17:32  
  
[Detecting lmgrd processes...]  
License server status: 27000@edasvr1  
  License file(s) on edasvr1: C:%ADS2004A%licenses%license.lic:  
  
  edasvr1: license server UP (MASTER) v9.2  
  
Vendor daemon status (on edasvr1):  
  
  agileesofd: UP v9.2  
  
Feature usage info:  
  
Users of ads_datadisplay: (Total of 1 license available)  
Users of ads_layout: (Total of 1 license available)  
Users of ads_schematic: (Error: 1 licenses, unsupported by licensed server)  
:  
(以下省略)
```

ライセンスサーバ名と
起動状態/バージョン

ベンダデーモン名と
起動状態/バージョン

正しく動いているライセンス

正しく動いていないライセンス

ライセンス情報

この例では、正しくライセンス・サーバに接続できています。

ただし、“ads_schematic”のライセンスが正しく発行されていません。ライセンス・ファイルの“ads_schematic”の行を確認する必要があります。

< ライセンス・サーバに接続できない時の表示 >

```
C:¥ADS2004A¥licenses¥bin>Imutil Imstat -a -c C:¥ADS2004A¥licenses¥license.lic
Imutil - Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights reserved.
Flexible License Manager status on Wed 12/1/2004 17:35

[Detecting Imgrd processes...]
License server status: @edasvr1
    License file(s) on edasvr1: C:¥ADS2004A¥licenses¥license.lic:

Imgrd is not running: Cannot connect to license server (-15,10:10061 "WinSock: C
onnection refused")
```

この例では、ライセンス・サーバに正しく接続できていません。

ライセンス・サーバで、デーモンが正しく起動しているか？ライセンス・ファイルのパスに間違いが無いか？(-c オプションの後ろのライセンス・ファイルのパス)、ライセンス・ファイルのホスト名が間違えてないかをご確認ください。

Imreread

ライセンス・ファイルを変更・修正した時は、“Imreread” 命令を実行し、ライセンス管理デーモンに再認識させる必要があります。この作業はライセンス管理デーモン (Imgrd) を起動したユーザと同じユーザで行なってください。

1. コマンドプロンプトを立ち上げて、次も命令を実行します。

```
> cd <Installation Directory>¥licenses¥bin
> Imutil Imreread -c <license.lic のパス>
```

2. 正常に読み込めたか確認します。

< 正常に読み込めた時の例 >

```
Imutil - Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights reserved.
Imreread successful    (正常に読み込めた場合の表示)
```

注意 ライセンスの有効期限切れ等で、license.lic ファイルを更新した場合は、必ずこの Imreread 命令で、変更内容をライセンス・デーモンに認識させてください。license.lic ファイルを置き換えただけでは新しいライセンスは使用できません。

lmdown

FLEXlm のデーモンを止める時に使用します。FLEXlm のデーモンを再び起動する時は、lmgrd コマンドを使用します。

注意 ライセンス管理デーモン起動時に、“-p” オプションを使用していない場合は、このコマンドを用いて全てのユーザがライセンス管理デーモンを停止させることができます。
「管理権限のあるユーザ」のみが lmdown コマンドを使用できるようにするには、lmgrd 起動時に“-p” オプションを使用してください。

コマンドプロンプトを立ち上げて、次の命令を実行します。

```
> cd <Installation Directory>\licenses\bin  
> lmutil lmdown
```

注意 冗長ライセンス・サーバの場合、この命令で全てのライセンス・サーバ(通常3台)のデーモンが停止してしまいます。
ある特定のライセンス・サーバのデーモンのみを停止する場合は、タスクマネージャでデーモンのプロセスを確認した後、プロセスの終了で停止してください。

lmpath

lmpath 命令は FLEXlm のレジストリに記録されているライセンス・パスを編集することが出来ます。lmpath を使用することにより、レジストリに保存されているライセンス・パスを変更したり、現在の設定を確認することができます。

参考 ライセンス・パスは以下のレジストリに保存されています。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\FLEXlm License Manager

lmpath の書式は次のようになります。

lmutil lmpath { -status | -add | -override } { vendor_name | all } license_path_list

ここで、各オプションの説明をします。

- -status
現在のライセンス・パスの設定を表示します。
- -add
既にレジストリ中にライセンス・パスが設定されている場合は、そのライセンス・パスの前に新しくライセンス・パスを付け加えます。ライセンス・パスが設定されていない場合には、新しくライセンス・パスが作成されます。また、既に存在しているライセンス・パスと同じライセンス・パスを付け加えることはできません。

注意 ライセンスは、**ライセンス・パスが前(左側)にあるものから優先的にライセンスを取得**します。例えばライセンス・パスが、
AGILEESOFD_LICENSE_FILE = 27000@server1 ; 27001@server2
と設定されている場合には、まず、27000@server1 を参照し、次に 27001@server2 を参照することになります。

- -override
既にレジストリ中に存在しているライセンス・パスを上書きします。この時、空欄 ("") を使用することにより、特定のリストを消去することができます。
- vendor_name
特定のベンダ・デーモンを指定することができます。これを指定することにより、 vendor_name_LICENSE_FILE という環境変数に対する設定を行なうこととなります。例えば、 vendor_name に agileesofd を指定した場合には、 AGILEESOFD_LICENSE_FILE に設定を行なうこととなります。
- all
全てのベンダ・デーモンに対する設定を行ないます。これは環境変数 LM_LICENSE_FILE に設定を行なうことと同じです。

- *license_path_list*

ライセンス・パスを設定します。Windows® ではセミコロン (;) を使用することにより、複数のライセンス・パスを同時に設定することが可能です。*license_path_list* に空欄 ("") を使用すれば、ライセンス・パスの設定を削除することが可能です。また、特定のライセンス・ファイルを指定せず、ライセンス・ファイルが存在するディレクトリを指定することでもライセンス・パスを設定することが可能です。この時、同じディレクトリに複数のライセンス・ファイルが存在していれば、全てのライセンス・ファイルを含んだ設定になります。

注意 *lmpath* を用いたライセンス・パスの設定は、環境変数が設定されている場合、環境変数のみ参照します。*lmpath* を使用したライセンス・パスの設定は、環境変数が設定されていない環境において有効です。

具体的な *lmpath* の使用方法は以下のようになります。

1. ライセンス・パスの状態の確認

現在のライセンス・パスの設定を確認することができます。

- 1) コマンドプロンプトを立ち上げて、次の命令を実行します

```
> cd <Installation Directory>\licenses\bin
> lmutil lmpath -status
```

- 2) 設定を確認します。

```
lmutil - Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights reserved.
Known Vendors:
-----
agileesofd:    27000@server1;27001@server2
-----

Other Vendors:
-----

                27001@server2
```

agileesofd (AGILEESOFD_LICENSE_FILE) と other vendors (LM_LICENSE_FILE) に設定が行なわれていることが確認できます。

2. ライセンス・パスの追加

ライセンス・パスを追加するには、“-add”を使用します。

- コマンドプロンプトを立ち上げて、次の命令を実行します

```
> cd <Installation Directory>%licenses%\bin
> lmutil lmpath -add <vendor_name> <license path>
```

agileesofd (AGILEESOFD_LICENSE_FILE) にライセンス・パス 27002@server3 を付け加える場合

```
> lmutil lmpath -add agileesofd 27002@server3
```

その他のベンダ・デーモン (LM_LICENSE_FILE) にライセンス・パス 27003@server4 と、27004@server5 を付け加える場合

```
> lmutil lmpath -add all 27003@server4;27005@server5
```

3. ライセンス・パスの上書き

ライセンス・パスを上書きするには、“-override”を使用します。

- コマンドプロンプトを立ち上げて、次の命令を実行します

```
> cd <Installation Directory>%licenses%\bin
> lmutil lmpath -override <vendor_name> <license path>
```

agileesofd (AGILEESOFD_LICENSE_FILE) にライセンス・パス 27002@server3 を上書きする場合

```
> lmutil lmpath -override agileesofd 27002@server3
```

4. ライセンス・パスの削除

ライセンス・パスを削除するには、“-override”を使用します。

- コマンドプロンプトを立ち上げて、次の命令を実行します

```
> cd <Installation Directory>%licenses%\bin
> lmutil lmpath -override <vendor_name> ""
```

agileesofd (AGILEESOFD_LICENSE_FILE) を削除する場合

```
> lmutil lmpath -override agileesofd ""
```

[6] lmgrd, agileesofd のバージョン確認

以下のコマンドで、lmgrd のバージョンが確認できます。

1. コマンドプロンプトを立ち上げて、次の命令を実行します。

```
> cd <Installation Directory>\licenses\bin  
> lmgrd -v
```

2. バージョンを確認します。

```
lmgrd v9.2 - Copyright (c) 1988-2003 by Macrovision Corporation. All rights reserved.
```

ベンダ・デーモン(agileesofd)も同様にバージョン確認をできます。

1. コマンドプロンプトを立ち上げて、次の命令を実行します。

```
> cd <Installation Directory>\licenses\bin  
> agileesofd -v
```

2. バージョンを確認します。

```
17:17:57 (agileesofd) FLEXlm version 9.2
```

上記実行結果の例では、lmgrd、agileesofd 両方ともバージョンは 9.2 です。

8 - 9 リモート・シミュレーションの設定

[1] はじめに

この節では、PC からリモート・シミュレーション機能を使って ADS シミュレーションを行なう方法について説明します。

リモート・シミュレーション・コマンドを発行する場合は、その前にサーバ・ホスト側でのセットアップが終了している必要がありますのでご注意ください。

この節では“サーバ”という表現は、リモートでシミュレーションのみが実行されるコンピュータを、“クライアント”という表現は、リモート・コマンドを送ってシミュレーションをさせる(ユーザ・インタフェースが実行されている)コンピュータを指します。

注意 Momentum リモート・シミュレーションは、サーバ - クライアントが両方 PC か、両方 UNIX の場合しか使用できません。PC-UNIX 間では行なえませんがご注意ください。また、Momentum のリモート・シミュレーションの方法はここでの説明とは若干作業が異なります。Momentum のリモート・シミュレーションについては [8] 「**Momentum での設定**」をご覧ください。また、“Momentum”マニュアルの、“*Performing Remote Simulation*” を参照してください。

[2] サーバ・クライアントの条件

- サーバとして利用できるOS
 - Windows® 2000 / XP
 - UNIX

- クライアントとして利用できるOS
 - ADS のサポートされている OS本手順書では、Windows® 2000 / XP の場合の説明のみ行ないます。

注意 LSF を用いたリモート・シミュレーションを行なう場合は、“Using LSF Remote Simulation” をご覧ください。また、Momentum は LSF リモート・シミュレーションに**対応していません**。

[3] サーバ側の準備

■ サーバが PC の場合

1. サーバ PC に、リモート・シミュレーション用のTCP/IP ポートを割り当てます。ここでは初期設定値の **1537** を使用していますが、これ以外のポートでも結構です。下記の何れかの方法で設定を行なってください。

- ADS 標準の hpeesof.cfg ファイルに記述する事でポートを設定する事ができます。
<Installation Directory>%config%hpeesof.cfg ファイルをメモ帳等のエディタで開き、下記の一行を加えてください。この場合は、全ユーザ共通設定となります。

EEDAEMON_SOCKET=1537

- ホームディレクトリに “ <HOME Directory>%hpeesof%config%hpeesof.cfg ” ファイル (例えば “ C:%users%default%hpeesof%config%hpeesof.cfg ”) を作成して設定することも可能です。作成した “ hpeesof.cfg ” ファイルに同じく下記の一行を記入してください。この場合は、各ユーザ固有の設定となります。

EEDAEMON_SOCKET=1537

- EEDAEMON_SOCKET 変数とポート番号を設定しなかった場合は、標準値として、**1537**番が使用されます。

注意 Momentumのリモート・シミュレーションを行なう場合は、更に次の行を加える必要があります。

MOMENTUM_SIM_PATH=<リモートサーバ・コンピュータ名>

詳細は “Momentum ”マニュアルの “Performing Remote Simulations ” を参照してください。

2. リモート・シミュレーション・デーモン(EMXデーモン)を起動します

コマンドプロンプトを開き以下のコマンドを実行するか、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] を開き、同じく以下のコマンドを実行します。

<書式> <Installation Directory>%bin%hpremote -d remote_sim.log

< 例 > C:%ADS2004A%bin%hpremote -d remote_sim.log

-d オプションは、デバッグ・モードをあらわすオプションです。リモート・シミュレーションの実行ログを保存できますので、実行状況についてはこのファイルの内容を確認してください。remote_sim.log ファイルは <Installation Directory>%bin ディレクトリに作成されず。

注意 デーモン起動時に出現したコマンドプロンプト画面は閉じないでください。これを閉じると、リモート・シミュレーション・デーモンも同時に終了します。

以上で、PC サーバの準備は終了です。次はクライアント側の作業を行なってください。

■ サーバが UNIX の場合

1. リモート・シミュレーション・サーバにログインします。
2. HPEESOF_DIR、PATH、DISPLAY の各環境変数を、ADS 2004A を起動できる設定にします。詳細は “*Installation on UNIX and Linux Systems*” マニュアルや、UNIX版インストール/アップデート手順書 6 - 2 節「ユーザ毎の環境設定」をご覧ください。

参考 TkPlots を伴う Agilent Ptolemy シミュレーションを行なう場合は、DISPLAY 環境変数の設定も必要になります。サーバマシンから、TkPlots ウィンドウをクライアント・マシンに表示できるように設定してください。

3. UNIX サーバに、リモート・シミュレーション用の TCP/IP ポートを割り当てます。ここでは初期設定値の 1537 を使用していますが、これ以外のポートでも結構です。下記のいずれかの方法で設定を行なってください。
 - ADS 標準の hpeesof.cfg ファイルに記述する事で TCP/IP ポートを設定する事ができます。(この作業はスーパー・ユーザ権限のあるユーザで行なう必要があります)。<Installation Directory>/config/hpeesof.cfg ファイルを vi 等のエディタで開き、下記の一行を加えてください。これは全ユーザ共通設定となります。

EEDAEMON_SOCKET=1537

スーパー・ユーザ権限で作業が行なえない場合は、ホーム・ディレクトリに “<HOME Directory>/hpeesof/config/hpeesof.cfg” ファイルを作成して設定することも可能です。作成した “hpeesof.cfg” ファイルに同じく上記の一行を記入してください。この場合は、各ユーザ固有の設定となります。

注意 TCP/IP ポートの設定を行なう場合は、使用するポート番号が他で確保されていない事をご確認ください。これは、/etc/services ファイル内に、上記例の場合は 1537 番の記述がない事を確認することで可能です。(ただし、NIS を使用している場合は “ypcat services” コマンドで確認する必要があります)。
もし確保されていた場合は、他の番号(例えば 5332 番)をご使用ください。

- /etc/services ファイルに下記の例のように “eedaemon” 行を加えることで設定する事ができます。(NIS を使用している場合は、NIS サーバの /etc/services ファイルを変更します)。
これは、UNIX ワークステーションの管理者権限が必要になりますので、ワークステーションの管理者までご相談ください。

<書式> eedaemon <ポート番号>/tcp eedaemon
<例> eedaemon 1537/tcp eedaemon

- EEDAEMON_SOCKET 変数とポート番号を設定しなかった場合は、標準値として、**1537**番が使用されます。

注意 Momentumのリモート・シミュレーションを行なう場合は、更に次の行を加える必要があります。

MOMENTUM_SIM_PATH=<リモートサーバ・コンピュータ名>
詳細は“ Momentum ” マニュアルの“ Performing Remote Simulatons ”を参照してください。

4. リモート・シミュレーション・デーモン(EMXデーモン)を起動します

<書式> **hpremote -d <ログ・ファイル名>**

<例> **hpremote -d /tmp/remote_sim.log**

-d オプションはデバッグ・モードをあらわすオプションです。<ログ・ファイル名>にリモート・シミュレーション・デーモンの実行ログが保存されます。上記例では“ /tmp/remote_sim.log ”に作成されます。

ここでエラーが発生した時は、“ [6]エラー・メッセージ ” をご覧ください。

ログ・ファイルの最新部分を確認するには、以下のコマンドを実行してください。

tail -f /tmp/remote_sim.log

5. リモート・シミュレーションデーモンが実行されている事を以下のコマンドで確認します。

ps -ef | grep hpeesofemx

注意 既に他のユーザによって hpremote コマンドが実行されている時は、二つ目の hpremote コマンドは実行できません。
この場合は、既に実行されているリモート・シミュレーション・サーバを、他のユーザも利用する事ができます。

以上で、UNIX サーバの準備は終了です。次はクライアント側の作業を行なってください。

[4] クライアント側での操作手順

サーバ側での設定が終われば、既にクライアント・マシンからリモート・シミュレーションが動作するはずです。以下の手順で、リモート・シミュレーションを行なってみます。

1. 通常通り、ADS 2004A を起動します。
2. 既存のプロジェクトを開くか、新しくプロジェクトを作成します。
3. デザインを開くか、作成します。
4. Schematic ウィンドウで、**[Simulate] > [Simulation Setup]** メニューを選択します。
5. ダイアログ・ボックスが現れますので、**[Remote Simulation Host]** 欄に、サーバ・ホスト名(または、IPアドレス)を入力します。
6. **[Simulate]** ボタンをクリックします。

リモート・シミュレーションが成功すると、ステータス・ウィンドウが開き、シミュレーションの進行状況が表示されます。

以上で、リモート・シミュレーションの基本的な使い方は終了ですが、必要に応じて「**[5] リモート・ホスト・リスト作成**」作業を行なってください。また“**OPEN_SIMULATOR**”エラー等が発生した場合は、「**[6] エラー・メッセージ**」をご参照ください。

[5] リモート・ホスト・リスト作成

リモート・シミュレーション・サーバが複数台ある場合は、接続するサーバを状況に応じて選択して作業を行なうと、効率よくシミュレーションを実行できる場合があります。場合に応じて異なるサーバに接続したい時は、その都度接続先のホスト名を**[Remote Simulation Host]**欄に入力するか、下記のリストを作成することによってドロップリストから接続先ホスト名を選べるようにする事ができます。

1. **de_sim.cfg** ファイルを vi 等のエディタで開きます。
de_sim.cfg ファイルは“**\$HPEESOF_DIR/config/de_sim.cfg**” (全ユーザ共通) または、“**\$HOME/hpeesof/config/de_sim.cfg**” (各ユーザ固有)の二箇所に設定でき、どちらを設定しても構いません。
2. **SIMULATION_HOST_LIST** の設定を行なっている行を探し次のように編集します。

<書式> **SIMULATION_HOST_LIST=[hostname1] [hostname2] ...**
<例> **SIMULATION_HOST_LIST=edarem1 edarem2 edarem3**

ホスト名同士の間は必ず半角スペース一つで区切ってください。

3. ファイルを保存し、ADS 2004A を起動します。
4. Schematic 画面で、**[Simulate] > [Simulation Setup]** メニューを選択すると、**[Remote Host Selection]** 欄に、先程記入したホスト名のリストが表示されます。この中から目的のホストを選択し、シミュレーションを行ないます。

[6] エラー・メッセージ

ここでは代表的な二つのエラーについてその対処法を説明します。

- リモート・シミュレーションを行なった時に次のエラーが出る場合



このエラーは、サーバのリモート・シミュレーション・デーモンに接続できなかった時に現れます。

サーバ側で、デーモンが正しく起動できているかどうかをもう一度お確かめください。デーモンの起動方法は、本節の「[3] サーバ側の準備」をご参照ください。

サーバが正しく起動している場合は、サーバ・ホストが見つからない可能性があります。**[Remote Host Selection]** 欄で選んだホスト名が正しいかどうかお確かめください。正しい場合は、ホスト名の代わりに IP アドレスを入れてお試してください。

ホスト名も合っており、デーモンも起動できている時は、**TCP/IPポート番号の問題**が考えられます。サーバ側のポート番号の設定と、クライアント側のポート番号の設定が異なっていないかももう一度ご確認ください。ポート番号は、通常は **1537** 番を使用します。

- UNIX でデーモンを起動する時に次のエラーが出る場合

UNIX をリモート・シミュレーション・サーバにするため、`hpremote` コマンドを実行する時に次のエラーが出ることがあります。

```
[1] + Stopped (tty output) -hpeesofemx -d remote.log &
```

これは、**バックグラウンドで動作するプロセスが、tty(ターミナル)にメッセージを出力できない時に現れます**。この場合はデーモンの起動スクリプト “`hpremote`” の内容を以下のように編集してから実行してみてください。

```
hpeesofemx 2>&1 &
```

[7] リモート・シミュレーション・デーモン(EMXデーモン)の終了

デーモンを終了させる前に、リモートで接続しているクライアントがないかどうかご確認ください。

デーモンを終了させる方法は、

■ PC の場合

起動時に現れたコマンドプロンプト・ウィンドウ(HP EEs of Error Log Windows)を閉じることによって、PC のリモート・シミュレーション・デーモンを停止する事ができます。サーバでタスクマネージャを起動し、hpeesofemx というプロセスが無くなっていることを確認します。もし残っている場合は、[プロセスの終了]ボタンで終了させます。

■ UNIX の場合

以下のコマンドで、リモート・シミュレーションのプロセス番号を調べます。

```
ps -ef | grep hpeesofemx
```

プロセス番号がわかったら、以下のコマンドでプロセスを終了させます。

```
kill <プロセス番号>
```

[8] Momentumでの設定

Momentum でリモート・シミュレーションを行なう場合の設定と注意点について説明します。
Momentum では

- PC から PC
- UNIX から UNIX

でリモート・シミュレーションを行なうことができます。本手順書では PCからPC への方法を説明いたします。UNIXからUNIXへは、“ADS 2004A アップデート/インストール手順書 UNIX版”をご参照ください。

注意 Momentum でのリモート・シミュレーションは、LSFをサポートしておりません。

(1) サーバ(リモート)の設定

リモート・シミュレーションを行なうために、以下の手順でリモートEMXデーモンを起動させてください。

1. サーバ・マシン でリモート・シミュレーション時に使用するTCP/IPポートを割り当てます。ここでは初期設定値の **1537** を使用していますが、これ以外のポートでも結構です。
以下の何れかの方法で設定してください。

- ADS 標準の `hpeesof.cfg` ファイルに記述する事でポートを設定する事ができます。<Installation Directory>%config%hpeesof.cfg ファイルをメモ帳等のエディタで開き、下記の一行を加えてください。この場合は、全ユーザ共通の設定となります。

EEDAEMON_SOCKET=1537

- ホーム・ディレクトリに “<HOME Directory>%hpeesof%config%hpeesof.cfg” ファイル (例えば “C:%users%default%hpeesof%config%hpeesof.cfg”) を作成して設定することも可能です。作成した “hpeesof.cfg” ファイルに同じく下記の一行を記入してください。この場合は、各ユーザ固有の設定となります。

EEDAEMON_SOCKET=1537

- EEDAEMON_SOCKET 変数とポート番号を設定しなかった場合は、標準値として、**1537**番が使用されます。

2. 環境変数 HPEESOF_DIR を設定してください。また、環境変数 PATH に %HPEESOF_DIR%\bin を加えてください。この時環境変数 PATHの先頭にくるように設定、確認してください。

■ Windows® 2000

- 1) [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] アイコンを選択します。[コントロールパネル]中の [システム] アイコンをダブル・クリックし、[システムのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。
- 2) [詳細] タブをクリックして選択します。
- 3) [環境変数] ボタンをクリックすると環境変数ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4) システム環境変数フィールドの[新規]ボタンをクリックし、変数名に“HPEESOF_DIR”と、[変数値] 欄に ADS 2004A のインストール・ディレクトリのパスを入力します。通常は、“C:\ADS2004A”です。
- 5) 次に、システム環境変数フィールドから“Path”を選択し、[編集]ボタンをクリックします。
- 6) [変数値] フィールドをクリックして、入力フィールドの先頭に、“%HPEESOF_DIR%\bin;”と入力します
- 7) [OK] ボタンをクリックして設定を完了します。

■ Windows® XP

- 1) [スタート] > [コントロールパネル] アイコンを選択します。[コントロールパネル]中の [パフォーマンスとメンテナンス] を開き、[システム] アイコンをクリックして、[システムのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。
- 2) [詳細設定] タブをクリックして選択します。
- 3) [環境変数] ボタンをクリックすると環境変数ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4) システム環境変数フィールドの[新規]ボタンをクリックし、変数名に“HPEESOF_DIR”と、[変数値] 欄に ADS 2004A のインストール・ディレクトリのパスを入力します。通常は、“C:\ADS2004A”です。
- 5) 次に、システム環境変数フィールドから“Path”を選択し、[編集]ボタンをクリックします。
- 6) [変数値] フィールドをクリックして、入力フィールドの先頭に、“%HPEESOF_DIR%\bin;”と入力します
- 7) [OK] ボタンをクリックして設定を完了します。

3. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

```
<書式> hpeesofemx -v -d <ログ・ファイル名>  
<例> hpeesofemx -v -d remote_mom.log
```

注意 デーモン起動時に出現したコマンドプロンプト画面は閉じないでください。これを閉じると、リモート・シミュレーション・デーモンも同時に終了します。

(2) クライアント(ローカル)の設定

Momentum をリモートで動作させるために、コンフィギュレーション・ファイルを作成するか、編集する必要があります。また、リモート動作させるマシンの名前(ホスト名)を書き加えるのを忘れないでください。手順は以下の通りです。

1. 以下の場所にある hpeesof.cfg ファイルを編集します。ここで編集するファイルの保存場所を使用するリモート・シミュレーションの設定範囲を規定することになります。また、hpeesof.cfg ファイルが存在しない場合には作成してください。
 - ある特定のユーザのみに設定する場合
%HOME%\hpeesof\config の下
 - ADSを使用するユーザ全てに設定する場合
%HPEESOF_DIR%\config の下
2. hpeesof.cfg ファイルを編集します。ない場合には、hpeesof.cfg ファイルを作成してください。ファイルに以下の2行を加えます。

<書式> EEDAEMON_SOCKET=<ポート番号>
<例> EEDAEMON_SOCKET=1537

注意 EEDAEMON_SOCKET で設定したポート番号は必ずサーバ側と同じ番号を指定してください。

<書式> MOMENTUM_SIM_PATH=<リモートコンピュータのホスト名>
<例> MOMENTUM_SIM_PATH=ads_server

EEDAEMON_SOCKET は設定しなくても動作はいたしますが、設定されることをお勧めいたします。

Momentum の場合、シミュレーション時にサーバを選択することはできません。
ここで定義したサーバ・マシンのみでシミュレーションを行ないます。

上記設定がなされていない場合は、リモート・シミュレーション実行時に警告がでますので、ご注意ください。

(3) クライアント側でのHOMEの設定

Momentum でのリモート・シミュレーションは substrate (基板情報)を読み込む関係上、クライアントの HOME ディレクトリにサーバからアクセスできる必要があります。そのため設定をまず、クライアント側から行ないます。

1. 現在使用している HOME ディレクトリを共有可能な状態にします。手順は 8 - 1 節をご覧ください。

2. 共有可能にした HOME ディレクトリを、そのマシン(クライアント)のネットワーク・ドライブとして割り当てます。ここで、割り当てたドライブ・レターを忘れずにしてください。手順は **8 - 1 節**をご覧ください。
3. HOME ディレクトリを 2.で割り当てたネットワーク・ドライブに変更します。そのためにレジストリを変更します。手順は、**8 - 4 節**をご覧ください。
4. 作業ディレクトリを 2.で割り当てたネットワーク・ドライブに変更します。手順は、**8 - 5 節**をご覧ください。
5. ADS を起動し、HOME ディレクトリ(作業ディレクトリ)が変更されていることを確認します。

注意 HOME ディレクトリの下にある substrates ディレクトリには、基板情報(計算結果)がデータベースとして保存されています。リモート・シミュレーション時にはこのデータベースを利用するので、読み取り/書き込みが可能な状態にしておく必要があります。もし、その設定ができていない場合には、シミュレーション時に警告が出ます。

(4) サーバ側での HOME の設定

クライアント側で設定した HOME ディレクトリにアクセスできるように、クライアントのHOME ディレクトリをネットワーク・ドライブに割り当てます。ここで、必ずクライアント同じドライブレターに割り当ててください。(クライアントで “W:¥HOME” と割り当てた場合には、サーバ側でも “W:¥HOME” と割り当ててください)

(5) リモート・シミュレーションの終了

デーモンを終了させる前に、リモートで接続しているクライアントがないかどうかご確認ください。デーモンを終了させるには、起動時に現れたコマンドプロンプトのウィンドウ(HP EEs of Error Log Windows)を閉じることによって、PC のリモート・シミュレーション・デーモンを停止する事ができます。

サーバでタスクマネージャを起動し、hpeesofemx というプロセスが無くなっていることを確認します。もし残っている場合は、**[プロセスの終了]**ボタンで終了させます。

また、クライアントの設定ファイルに“**MOMENTUM_SIM_PATH**”が残っていると、リモート設定していなくてもそのサーバにアクセスするため、エラーとなってシミュレーションができません。その場合は、設定ファイルの“**MOMENTUM_SIM_PATH**”を削除してください。

割り当てたネットワーク・ドライブを切断しない限り、HOME ディレクトリ、作業フォルダを元に戻さなくても ADS は起動します。元に戻す場合は、**8 - 6 節**、**8 - 7 節**をご覧ください。HOME ディレクトリ(レジストリ)、作業ディレクトリの変更を行なってください。

8 - 1 0 ADS 2004A 製品-コードワード対応

ADS 2002 より、INCREMENT 行のライセンス名の先頭に、そのライセンス・コードワードが持っている機能の概要を表すキーワードが付加されています。

以下の表が、その対応になります。

INCREMENT 行のキーワード	機能
ads_	Schematic、Layout、ユーザ・インターフェイス等 ADS 本体機能
sim_	シミュレーション、および、そのオプション機能
mom_	Momentum、および、そのオプション機能
mdl_	モデル・ライブラリ
trans_	ファイル等のトランスレータ機能
dg_	デザイン・ガイド
link_	ソフトウェア、および、ハードウェアのリンク機能
ltp_	Limited Term Package (ライセンス・バンドル)
rfde_	RFDE (RF Design Environment製品)

次ページより、ADS 2004A の各製品番号と、その製品で発行されるライセンス名の対応を紹介します。

最新の製品番号-コードワード対応表は、以下の Web サイト中に掲載されています。

(日本語サイトは、米国サイトより若干情報が古い場合があります。最新の情報を得たい場合は、米国サイトをご利用ください)

EDAテクニカルサポート 日本語サポート Web

<http://www.agilent.com/find/eesof-support-japan>

EDA Technical Support (米国)

<http://www.agilent.com/find/eesof-support>

ADS 2004A, RFDE, LTP コードワード対応表

P/N	製品番号
P/N DESCRIPTION	製品名
CODEWORD NAME	ライセンス名 (ライセンス・ファイルに記載される名称)

1 / 4

ADVANCED DESIGN SYSTEM 2004A, RFDE & LTP CODEWORD TABLE		
(codeword / license delivered with supported ADS products and new purchase of ADS, RFDE, & LTP)		
October 1, 2004		
P/N	P/N DESCRIPTION	CODEWORD NAME
E5610A/AN	Passive Circuit DesignGuide	dg_passives
E5611AZ/AN	Power Amplifier DesignGuide	dg_pwr_amp
E5612A/AN	Oscillator DesignGuide	dg_oscillator
E5613A/AN	Phase-Locked Loop DesignGuide	dg_pll
E5614A/AN	Linearizer DesignGuide	dg_linear
E5615A/AN	Mixer DesignGuide	dg_mixer
E5616A/AN	Bluetooth DesignGuide	dg_multi_carrier
E5617A/AN	RF System DesignGuide	dg_commsys
E5618A/AN	Filter DesignGuide	dg_filter
E5720A/AN	Connection Manager	link_connect_mgr, link_measampmodeling
E5720AT/T	Connection Manager 12M Subscription	link_connect_mgr, link_measampmodeling
E5771A/AN	12-Month RFIC + DG LTP	ltp_rfic_dg
E5771B/BN	6-Month RFIC + DG LTP	ltp_rfic_dg
E5771ATX/TX	RFIC + DG LTP, Variable Term	ltp_rfic_dg
E5772A/AN	12-Month RF & Microwave + DG LTP	ltp_rf_mw_dg
E5772B/BN	6-Month RF & Microwave + DG LTP	ltp_rf_mw_dg
E5772ATX/TX	RF & Microwave + DG LTP, Variable Term	ltp_rf_mw_dg
E5773A/AN	12-Month CommSys/DSP + DG LTP	ltp_comm_dsp_dg
E5773B/BN	6-Month CommSys/DSP + DG LTP	ltp_comm_dsp_dg
E5773ATX/TX	CommSys/DSP + DG LTP, Variable Term	ltp_comm_dsp_dg
E5774A/AN	12-Month Integrated Design + DG LTP	ltp_intergrated_dg
E5774B/BN	6-Month Integrated Design + DG LTP	ltp_intergrated_dg
E5774ATX/TX	Integrated Design + DG LTP, Variable Term	ltp_intergrated_dg
E5776A/AN	MIMIC 12-Month LTP	ltp_mmic
E5776B/BN	MIMIC 6-Month LTP	ltp_mmic
E5776ATX/TX	MIMIC LTP, Variable Term	ltp_mmic
E8811A/AN	MMIC Designer Pro	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, mom_opt, mom_vis, momentum, sim_harmonic, sim_linear, trans_gdsii
E8812A/AN	MMIC Designer Premier	ads_datadisplay, ads_drc, ads_layout, ads_schematic, dg_passives, mom_adv_composer, mom_opt, mom_vis, momentum, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics, trans_dxf_flat, trans_dxf_hier, trans_gdsii, trans_gerber
E8822AZ/ANZ	Agilent Ptolemy Fixed Point Analysis	sim_fixedpoint
E8823AZ/ANZ	Agilent Ptolemy Simulator	sim_systeme
E8824A/ANZ	Statistical Design	sim_statistics
E8825AZ/ANZ	Digital Filter	sim_dfilter
E8826AZ/ANZ	Agilent Ptolemy Matrix Models	mdl_matrix
E8827A/AN	Advanced Comms Models	mdl_adv_comm
E8833AZ/ANZ (*)	Adaptive Waveform Comparator	sim_adapt_comp
E8834AZ/ANZ (*)	HDL Models & Code Generation	trans_veriloggen, trans_vhdlgen
E8850A	Communication System Designer	ads_datadisplay, ads_lite, mdl_systemlib, sim_syslinearlite

P/N	P/N DESCRIPTION	CODEWORD NAME
E8851A/AN	Communications System Designer Pro	ads_datadisplay, ads_schematic, mdl_matrix, mdl_systemlib, sim_dfilter, sim_fixedpoint, sim_statistics, sim_syslinear, sim_systime, sim_usermodels
E8852A/AN	Communications System Designer Premier	ads_datadisplay, ads_schematic, mdl_ant_array, mdl_ant_cdma, mdl_ant_gsm, mdl_ant_wcdma, mdl_adv_comm, mdl_antenna, mdl_matrix, mdl_propagation, mdl_systemlib, sim_dfilter, sim_fixedpoint, sim_hdl_cosim, sim_statistics, sim_syslinear, sim_systime, sim_usermodels
E8853A/AN	RF System Simulator	sim_syslinear
E8854A/AN	RF Systems Models	mdl_systemlib
E8856A/AN	Antenna & Propagation Models	mdl_ant_array, mdl_ant_cdma, mdl_ant_gsm, mdl_ant_wcdma, mdl_antenna, mdl_propagation
E8857A/AN	CDMA Design Library	mdl_ant_cdma, mdl_antenna, mdl_cdma
E8859A/AN	GSM Design Library	mdl_ant_gsm, mdl_antenna, mdl_gsm
E8866A/AN	HDL Co-sim for Agilent Ptolemy	sim_hdl_cosim
E8867A/AN (*)	TI ISS Co-sim	sim_ti_cosim
E8868A/AN	DTV Design Library	mdl_dtvtrans
E8873A/AN	TD-SCDMA Design Library	mdl_antenna, mdl_propagation, mdl_tdscdma
E8874A/AN	WLAN Design Library	mdl_antenna, mdl_wlan
E8875A/AN	3GPP W-CDMA Design Library	mdl_ant_array, mdl_ant_wcdma, mdl_antenna, mdl_matrix, mdl_wcdma3g
E8877A/AN	CDMA2000 Design Library	mdl_ant_cdma, mdl_antenna, mdl_cdma2k
E8878A/AN	CDMA1xEV Design Library	mdl_1xev
E8879A/AN	EDGE Design Library	mdl_ant_gsm, mdl_antenna, mdl_edge
E8880A/AN	Spice Netlist Translator	trans_spice_netlist, trans_ads_schematic
E8881A/AN	Linear Simulator	sim_linear
E8882A/AN	Harmonic Balance Simulator	sim_harmonic
E8883A/AN	Circuit Envelope Simulator	sim_envelope
E8884A/AN	High Frequency Spice	sim_transient
E8885A/AN	Convolution Simulator	sim_convolution
E8886A/AN/ATX/TX	Verilog-A Compiler	sim_veriloga
E8888A/AN	RFIC Designer Pro	ads_datadisplay, ads_schematic, sim_envelope, sim_harmonic, sim_linear, sim_transient, trans_ads_schematic, trans_spice_netlist
E8889A/AN	RFIC Designer Premier	ads_datadisplay, ads_schematic, mdl_systemlib, sim_convolution, sim_envelope, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics, sim_transient, sim_usermodels, trans_ads_schematic, trans_spice_netlist
E8890A/AN	Analog Model Development Kit	sim_usermodels
E8894A/AN	RFIP Encoder	ads_encoder
E8900A/AN	Design Environment	ads_schematic
E8901A/AN	Data Display	ads_datadisplay
E8902A/AN	Layout	ads_layout
E8903A/AN	IGES Translator	trans_iges
E8904A/AN	GDSII Translator	trans_gdsii
E8905A/AN	DXF Translator	trans_dxf_hier
E8906A/AN	Gerber Translator	trans_dxf_flat, trans_gerber
E8907A/AN/ATX/TX	Design Rule Checker	ads_drc
E8909A/AN	Layout Translator Bundle	trans_dxf_flat, trans_dxf_hier, trans_gdsii, trans_gerber, trans_iges

P/N	P/N DESCRIPTION	CODEWORD NAME
E8910A	Microwave Circuit Designer	ads_datadisplay, ads_schematic, sim_harmonic, sim_linear
E8911A/AN	Microwave Circuit Designer Pro	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics
E8912A/AN	Microwave Circuit Designer Premier	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, mdl_systemlib, sim_envelope, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics, sim_usermodels
E8914A/AN	Physical Designer Pro	ads_drc, ads_layout, trans_dxf_flat, trans_dxf_hier, trans_gdsii, trans_gerber
E8915A/AN	Physical Designer Premier	ads_drc, ads_layout, mom_opt, mom_vis, momentum, trans_dxf_flat, trans_dxf_hier, trans_gdsii, trans_gerber
E8919A/AN	Momentum Circuit Designer	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, momentum, sim_linear
E8920A/AN	Momentum EM Bundle	momentum, mom_opt, mom_vis
E8921A/AN	Momentum Planar EM Simulator	momentum
E8922A/AN	Momentum Visualization	mom_vis
E8925A/AN	Momentum Optimization	mom_opt
E8926A/AN	Advanced Model Composer	mom_adv_composer
E8940A	RF Designer	ads_datadisplay, ads_lite, sim_linearlite, trans_ads_schematic, trans_spice_netlist
E8942A/AN	RF Board Designer Pro	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, mdl_rfelements, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics
E8943A/AN	RF Board Designer Premier	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, mdl_multilayer, mdl_rfelements, mdl_systemlib, sim_envelope, sim_harmonic, sim_linear, sim_statistics
E8946A/AN	Communication Design Suite	ads_datadisplay, ads_layout, ads_schematic, mdl_rfelements, mdl_systemlib, sim_harmonic, sim_linear, sim_systime
E8950A/AN	RF Passive Circuit Models	mdl_rfelements
E8951A/AN	Multilayer Interconnect Models	mdl_multilayer
E8965A/AN	Mentor IFF Schematic Translator	trans_iff, trans_mentor_schem
E8966A/AN	Mentor IFF Layout Translator	trans_mentor_layout
E8967A/AN	IFF Schematic Translator	trans_ads_schematic, trans_iff
E8968A/AN	IFF Layout Translator	trans_ads_layout
E8969A/AN	Library Translator	trans_library
E8970A/AN	RFIC Dynamic Link for Cadence	trans_idf
W1100AN/TX	RFDE Wireless Pro Seat	rfde_wireless
W1101AN/TX	RFDE Wireline Pro Seat	rfde_wireline
W1102AN/TX	RFDE Premier Seat	rfde_premier
W1104AN/TX	RFDE Circuit Integration	rfde_environment, rfde_circuit_int, ads_datadisplay, trans_idf
W1105AN/TX	RFDE Momentum Integration	rfde_environment, rfde_momentum_int, ads_datadisplay
W1106AN/TX	Momentum Virtuoso	rfde_environment, rfde_momentum_int, ads_datadisplay, momentum, mom_vis
W1107AN/TX	RFDE WTB Integration	rfde_wtb_int
W1108TX	RFIC ADS+RFDE Combo, Variable Term	ltp_rfic_rfde_combo
W1111TX	Int. Des. ADS+RFDE Combo, Variable Term	ltp_intdesrfde_combo

P/N	P/N DESCRIPTION	CODEWORD NAME
(*) E8833, E8834, and E8867 included into ADS2004A release, but obsoleted from CPL as of Oct.1, 2004 (not available for sale)		

8 - 1 1 参考 ; FLEXlm ライセンス発行の仕組み (lmgrd, agileesofdの動作)

lmgrd, agileesofd とアプリケーション・ソフトウェアの関係、および、ライセンスの受け渡し手順を説明します。

以下の手順でライセンスの授受が行なわれます。この手順のなかで、どれか1つでも正常に動作しない場合は、ライセンスが正常に提供できません。もしアプリケーション・ソフトウェアが正常に動作しない場合は、以下の各項目をご確認ください。

1. ライセンス・ファイル (license.lic) を読み込む。

環境変数 AGILEESOFD_LICENSE_FILE で指定されたライセンス・ファイル (license.lic) を読み込みます。ライセンス・ファイルのパスではなく、「ポート番号@ホスト名」で指定をしている場合は、そのホストに LAN 経由でアクセスして、ライセンス・ファイルを読み込みます。

よって、環境変数 AGILEESOFD_LICENSE_FILE でライセンス・ファイルを正確に指定する必要があります。

2. ライセンス・ファイル (license.lic) から、SERVER 行のホスト名と TCP/IP ポート番号を入手する。

ライセンス・ファイルのパスで指定を行なっている場合は、ライセンス・ファイル (license.lic) を一般ユーザで参照する必要がありますので、一般ユーザでも READ の権利があることが条件です。また、SERVER 行のホスト名と TCP/IP ポート番号が正しく設定されていることは、言うまでもありません。

3. 入手したホスト名と TCP/IP ポート番号を使い、ライセンス管理デーモン lmgrd にコンタクトする。

ネットワークが正常に動作していることが最低限の条件です。

ホスト名で ping 命令が通じることをご確認ください。

定義されている TCP/IP ポート番号が、そのネットワーク上で使用されていないことも条件の一つです。

NIS や DNS を使用している時は、NIS や DNS が正常に起動していることをご確認ください。

lmgrd と通信する内容は、「ベンダ・デーモン agileesofd と話がしたい」という内容です。つまり、lmgrd は直接ライセンスを提供しているわけではないということになります。もちろん、lmgrd が正常に動作していることも必須です。

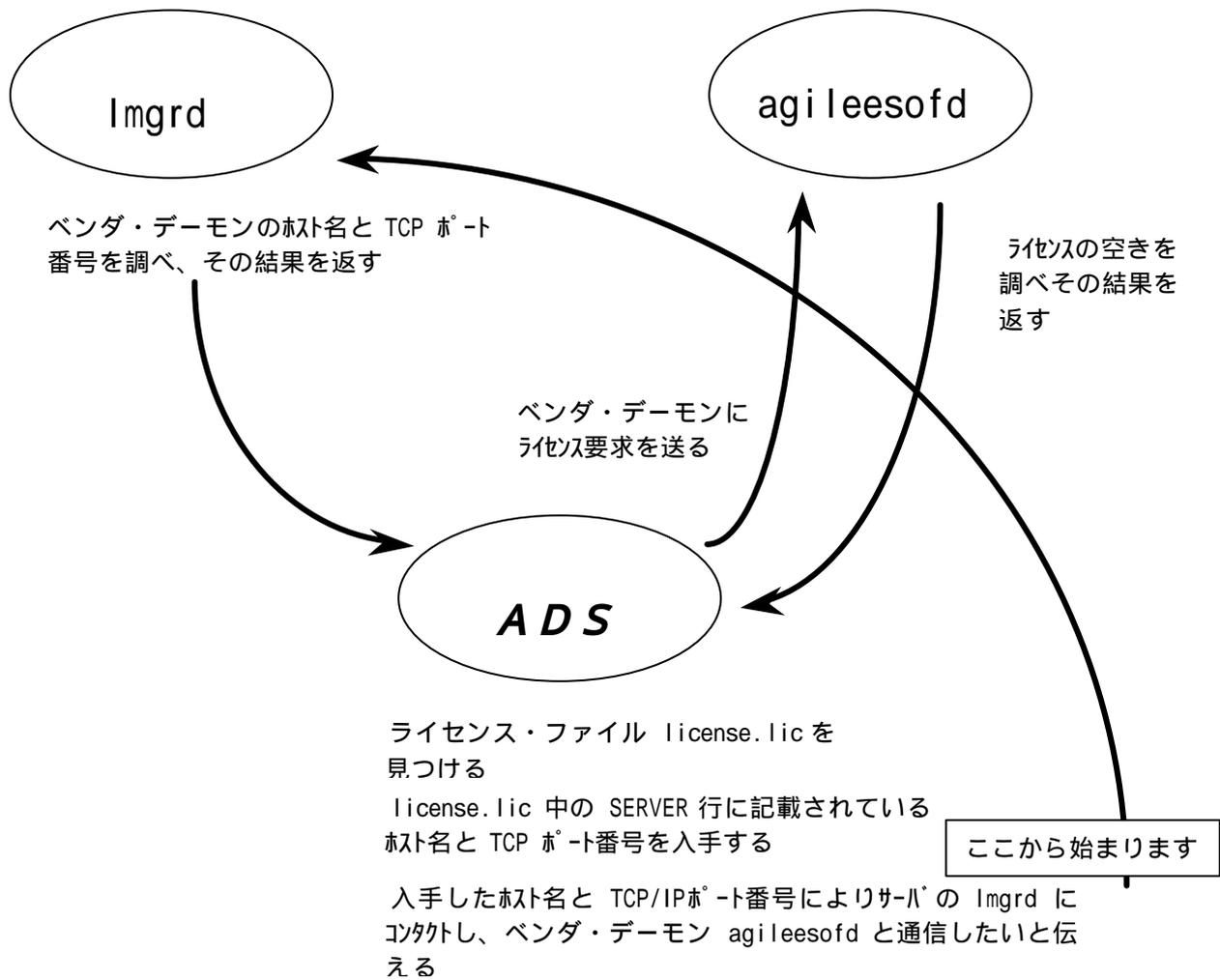
4. lmgrd は、ベンダ・デーモン agileesofd のホスト名と TCP/IP ポート番号を調べ、その結果を返す。

5. lmgrd から教えられたベンダ・デーモン agileesofd のホスト名と TCP/IP ポート番号から、agileesofd にコンタクトする。

agileesofd と通信する内容は、「ライセンスをください」という内容です。つまり、agileesofd がライセンスの管理を行なっているということですので。また、lmgrd が agileesofd にライセンス要求を出すのではなく、アプリケーション・ソフトウェアから直接 agileesofd にライセンス要求を出すという点もご記憶ください。もちろん、agileesofd が正常に動作していることが条件です。

6. ベンダ・デーモン agileesofd はアプリケーション・ソフトウェアからのライセンス要求により、使用可能なライセンスを調べ、もし可能であればアプリケーション・ソフトウェアに直接与える。

使用可能なライセンスがあることが条件です。



上図は、前ページで説明したライセンスの受け渡し手順を、図で表したものです。

8 - 1 2 インターネット (WWW) を利用した情報提供のお知らせ

弊社では、インターネット(WWW)を利用して、お客様にさまざまな情報を提供しております。ここでは、そのアクセス方法と、簡単な内容のご紹介をいたします。また、関連他社の情報もお知らせします。

[1] EEsof EDA 製品のホームページ

アドレス(URL) <http://eesof.tm.agilent.com/>

内容 EEsof EDA 製品(ADS, IC-CAP およびそのオプション)専用のサイトです。これらの製品の最新情報が記載されています。また、これらの製品のパッチファイルも入手可能ですし、不具合情報も検索できます。英語です。サイトはアメリカ合衆国にあります。

[2] EDA テクニカルサポート・日本語サポートWEB

アドレス(URL) <http://www.agilent.com/find/eesof-support-japan>

[3] アジレント・テクノロジー (アメリカ合衆国) のホームページ

アドレス(URL) <http://www.agilent.com/>

[4] アジレント・テクノロジー (日本) のホームページ

アドレス(URL) <http://www.agilent.co.jp/>

[5] Macrovision (旧社名 GLOBEtrotter) (FLEXIm) 社のホームページ

アドレス(URL) <http://www.macrovision.com/>
<http://www.macrovision.com/japan/>

内容 Macrovision 社のサイトです。この会社は、FLEXIm を供給しています。頻度の多いご質問とその回答(FAQ)等を検索できます。このホームページの詳細は、Macrovision 社にお問い合わせください。

9章 コードワード発行依頼とEDAテクニカルサポートのご利用案内

9 - 1 コードワード発行依頼の方法

「Agilent EEsof EDA コードワード発行依頼 FAXシート」に必要事項を正確に記入し、FAX または E-Mailでお送りください。以下、ご記入の際に必要な情報の取得法・ご注意・記入法を示します。

[1] ソフトウェアの情報

	記入例
システムハンドル(必須)	9512-12345C
製品名またはモデル番号	ADS
ソフトウェアのバージョン	2004A
ライセンスの形態	ノードロック、フローティング・ライセンス

[2] コンピュータの情報

パラメータの種類	使用OS	コマンド	例
モデル名	Windows®	無し	HP Vectra XA
	HP-UX Solaris	uname -m	HP9000/755 SUN SPARC Station 10
	Red Hat Linux	無し	HP Vectra XA
コンピュータ ID	Windows®	ハードウェア・キーに記載 *1)	9-52498400
	HP-UX	uname -i	2014460207
	Sun OS	hostid	544158c4
	Red Hat Linux	LAN IDを使用	00:04:75:8D:72:77
LAN ID (LLA, MACアドレス)	Windows®	ipconfig /all *2)	00-01-03-01-DF-3A
	HP-UX	lanscan *2)	0x080009490BE7
	Solaris 7/8/9	ifconfig -a *3)	8:0:20:12:67:ca
	Red Hat Linux	ifconfig	00:04:75:8D:72:77
ホスト名 *3)	Windows®	hostname	edahost1
	HP-UX	hostname	edahost2
	SUN OS		
	Red Hat Linux		

*1) Windows® PCの場合はハードウェア・キー番号をご記入ください。

*2) Windows®, および、HP-UXでは、通常 LAN IDに対してライセンスを発行することはできません。

*3) 一般ユーザでは、LAN-ID は表示されない場合があります。スーパー・ユーザでご確認ください。

*4) 製品バージョンとライセンス形態によって、必要ではない場合もあります。

コードワードが記載されている紙がございましたら、必ず一緒に FAX でお送りください。また、“license.lic”、“license.dat” ファイルも必ず一緒に FAX でお送りください。

[3] ご記入にあたってのお願い

- 1) 文字は大きく、はっきりとご記入下さい。特に、数字・アルファベットは、はっきりご記入下さい。アルファベットは筆記体をご使用にならないで下さい。また、数字とアルファベットの区別や、アルファベットの大文字と小文字の区別を明確にお願いします。

紛らわしい文字の例

数字の 0 (ゼロ)と、アルファベットの (オー)
大文字の C と、小文字の c
小文字の l (L)と、小文字の e (E)

- 2) 黒色のペン、または鉛筆を使ってご記入下さい。青色のペンをご使用にならないで下さい。
- 3) 会社名は略称ではなく、正式名を(日本語、英語とも)ご記入下さい。

会社名の書き方

良い例	アジレント・テクノロジー 株式会社 Agilent Technologies Japan, Ltd.
悪い例	アジレント(株) Agilent

- 4) お名前はフルネームでご記入下さい。
- 5) ファイルおよび UNIX の命令の実行結果をプリンタに出力したり、ファイルに出力する例は次の通りです。

ファイル・プリンタへの出力例 (HP-UX)

ファイル プリンタへ出力	\$ lp /ccap2001/licenses/license.dat
UNIX 命令の実行結果 プリンタへ出力	\$ /etc/lanscan lp
UNIX 命令の実行結果 ファイルへ出力	\$ /etc/lanscan > /tmp/FILENAME

- 6) FAX で送信する場合、紙の周囲に書かれている文字が欠けることがあります。できれば、紙の**周囲(上下左右) 3cm には、何も記入しない**で下さい。特に、プリント出力された UNIX コマンドの実行結果等を FAX で送信する場合はご注意下さい。

Agilent EEsof EDA ライセンス (コードワード)発行依頼シート

アジレント・テクノロジー (株)カスタマコンタクトセンタ サポートアグリーメントグループ EDAコードワード発行受付行

FAX 0120- 802- 016 TEL 0120- 802- 871

E-MAIL : japan_codeword@agilent.com

E-mailでご依頼の場合は、上記アドレスまで、
下記EDAテクニカルサポート日本語サポートWEBのコードワード発行依頼
ページより専用フォーマットをコピーし、ご依頼ください。

http://eesof.tm.agilent.com/support/cw_reqj.html

FAXでご依頼の場合は、本シートに必要事項をご記入の上、
上記FAX番号までお送り下さい。

各ライセンス・サーバごとに別々の用紙でご依頼下さい。

FAX送信枚数
(本表紙を含む) _____ 枚

送信日 _____ 月 _____ 日

システムハンドルをご記入下さい。 この番号は、通常発送伝票左上のS/H~に記載されております。

システムハンドル番号 **S/H**

今回ご依頼の、全てのコンピュータの情報をご記入下さい。

全ての**ライセンス・サーバ**の情報をご記入下さい。

全ての**ノードロック・ライセンス・クライアント**の情報をご記入下さい。

ネットワークライセンスのクライアントの場合は、記入不要です。

	コンピュータD (PCの場合はハードウェア・キー番号)	ホスト名	備考
ライセンス サーバ			
ノードロック・クライアント			

9 - 2 EDAテクニカルサポート サポート依頼 FAX シートの使い方

- [1] EDAテクニカルサポートへお問合せの際は、お客様のシステムハンドル番号を必ずお知らせください。システムハンドル番号がわからない場合は、受付できない可能性があります。
- [2] 「EDAテクニカルサポート テクニカルサポート依頼 FAX シート」に必要事項と、継続質問の場合は受付番号(CALL ID：例=301.2345)を記入してください。
- [3] 離席されている場合が多い時は、時間指定していただくと便利です。
- [4] FAX シートをご記入いただく時に、次の問題確認項目を参考にさせていただくと、より早い回答を行なうことができます。
- 1) 何をしようとしていましたか。
 - 2) どうなるはずだ、またはどうなって欲しいと考えていますか。
 - 3) 何が起きていますか。
 - 4) どんなエラー・メッセージ、エラー番号が出ていますか。
そのエラー・メッセージはUNIX OSのエラーですか、それともソフトウェアですか。
そのエラー・メッセージはどこに表示されていますか。
データベースで検索するため、エラー・メッセージは正確にお知らせください。
 - 5) この問題はいつから発生していますか。
 - 6) この問題は時々発生しますか、または必ず発生しますか。
 - 7) 時々発生する場合は、どんな時に発生しますか。
 - 8) 今まで正常に動作していましたが、または今回が初めてのご使用ですか。
 - 9) 問題発生前に、何か変更なさいましたか。(ハードウェア、ソフトウェア、設定等)
 - 10) 既に何かの問題解決の手を打たれましたか。その結果はどうでしたか。
- [5] 参考
- 1) システムハンドル(システムID)番号とは?
お客様ごとに割り当てられた、お客様固有の番号。ユーザID番号のこと。
EDAテクニカルサポートにご質問される時に、必ず受付にお伝えください。
システムハンドル番号を伝え忘れた場合、契約をされていないお客様として扱われる場合があります。(銀行の暗証番号のようなものです。)
この場合、EDAテクニカルサポートからの連絡は保証されません。必ずシステムハンドル番号を受付にお伝えください。
(システムハンドル番号の例：8 1 2 3 - 7 1 5 1 2)
 - 2) CALL ID(受付番号)とは?
ご質問ごとに割り当てられる番号。
EDAテクニカルサポートにご質問をいただいた時に、ご質問ごとにCALL ID(受付番号)を発行します。
(CALL ID の例：301.2345)
 - 3) システム名、バージョン
システム名、バージョンは正確にお伝えください。
(システム名の例：MDS(85150B), IC-CAP(85190A))
コンピュータ名とUNIXのバージョンは、次のコマンドで確認できます。
uname -a

9 - 3 EDAテクニカルサポートを有効にご利用いただくために

EDAテクニカルサポートをより有効にご利用いただくために、
お客様にお願いしたいことをまとめてみました

[1] より早くご回答をするためにお願いしたいこと

- 1) お客様のシステムハンドル番号は正確にお伝えください。
アジレント・テクノロジーでは、お客様のシステムハンドル番号をデータベース化しております。よりスムーズなご回答のために、ご質問受付時にお客様のシステムハンドル番号をお伺いしております。
システムハンドル番号を伝え忘れた場合、契約をされていないお客様として扱われる場合があります。
- 2) 製品名は正確にお伝えください。
EDAテクニカルサポート受付では、1か月に約数千件のご質問を承っております。
製品名を正確にお伝えいただけませんと、間違った担当者（エンジニア・グループ）にご質問が回り、ご回答が遅れる場合があります。そのため、ご質問の製品名は正確にお伝えください。
(製品名の例：ADS,IC-CAP)
- 3) 同姓（同じお名前）の方が複数人いらっしゃる時は、フルネームでお願いします。

[2] より正確なご回答をするためにお願いしたいこと

- 1) エラー・メッセージは正確にお伝えください。
EDAテクニカルサポートでは、世界中から寄せられたご質問をデータベース化しております。エンジニアはこのデータベースを参照し、既に解決した問題であれば迅速にお客様のご質問に対応することができます。データベースの検索は、エラー・メッセージ等のキーワードで行ないますので、正確にエラー・メッセージをお伝えください。
- 2) UNIX と製品のバージョンは正確にお伝えください。
HP-UX の場合、バージョンは小数以下2桁まであります。
良い例：HP - UX 9 . 0 5 , MDS B . 0 5 . 0 2
悪い例：HP - UX 9 . 0 , MDS B . 0 5
バージョンを正確にお伝えいただけませんと、正確なご回答ができない場合があります。

[3] 1回のお電話でご質問を解決するためにお願いしたいこと

- 1) FAXをご活用ください。
図（システムの構成、回路図、グラフ）等は、FAX をご活用いただくとご質問内容がより正確にエンジニアに伝わります。また、エラー・メッセージ等も FAX でお送りいただくと、データベースの検索がよりスムーズに行なえます。
- 2) 離席されている場合が多い時は、お電話の時間指定をしてください。

[4] その他、お願いしたいこと

- 1) 受付番号(CALL ID)は控えておいてください。
EDAテクニカルサポートにご質問をいただいた時に、CALL ID を発行しております。このCALL ID はご質問ごとに割り当てられる番号ですので、控えておいてください。お客様からのご質問は全てデータベース化され、保存されますので、再度ご質問される時はCALL ID を受付にお伝えください。
- 2) EDAテクニカルサポート契約の更新は、1年ごとになります。ご契約いただいたEDAテクニカルサポートサービスは、1年ごとの更新となります。

EDA テクニカルサポート サポート依頼 FAXシート

宛先FAX： 0120-890-119 EDAテクニカルサポート受付 行
依頼日： 年 月 日
新規質問 継続中の質問 (受付番号)
希望回答方法 (電話 FAX 電子メール 指定なし)

文字(特に数字とアルファベット)は大きくはっきりとご記入ください。

システムハンドル： (必ずご記入ください)
貴社名：
ご所属部署名：
(フリガナ)
お名前：
電話番号： 内線番号
FAX番号：
電子メールアドレス：
問い合わせ製品名： 製品のバージョン：
コンピュータ機種名：
OS名： (OS バージョン：)

お問い合わせ内容 (エラー・メッセージがあれば必ずご記入ください) 添付資料 枚